KENWOOD

NEW ALLORA

コンパクト オーディオ

XM-3MD

取扱説明書

お買い上げいただきまして、
ありがとうございました。
機器を正しく、安全にご使用いただくため、使用を開始する前に必ず、この取扱説明書の「安全編」をお読みになり、十分にご理解ください。
使いかたの説明も、併せてよくお読みくださるよう、お願いいたします。
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときにくり返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

B60-2897-40 (MA) AP (J)
98/12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 97/12 11 10 9 8 7 6 5 4 3

本機の特長

MD(ミニディスク)レコーダーを標準装備 →24

デジタルならではの高音質を実現するMDレコーダーを標準装備しています。CDからのデジタルコピーもカンタンにできます。ディスクや曲に名前を登録してディスプレイに表示することや、曲順の並べ換えなど、多彩な機能が自慢です。

サンプリング周波数について →31

本機にはデジタルソース(32kHz, 44.1kHz, 48kHz)に対応した、サンプリングレートコンバーターを搭載しています。

48 kHz: DATの標準モード、BSチューナーのBモード放送等。
44.1 kHz: DATの標準モード、CD、MD等。
32 kHz: DATの標準モードおよび長時間モード、BSチューナーのAモード放送等。

SRS 3Dステレオシステム →62

3次元的な音響空間を造り出す画期的なシステム(Sound(サウンド) Retrieval(リトリーバル) System(システム))です。奥行感や音場の広さ、音像の定位感などが明らかに向上しリスニングエリアも広がります。(Retrieval: 回復、復活などの意)

便利な録音あれこれ →40

目的別に使える、多彩な録音機能をたくさん用意しました。
カセットデッキ(別売)*と接続することで、他のソースからテープへの編集録音もできます。

- ワンタッチエディット : キーを押すだけでCD、MD1枚または1曲を録音
- TWIN RECORDING(ツイン レコーディング)機能 : 1枚のCDをMDとテープに同時録音
- BEST HITS(ベスト ヒッツ)機能 : セットした全てのCDの1曲目だけを、順にMDまたは、テープに録音
- プログラム録音 : 好きな曲を好きな順に録音
- タイム編集録音 : 指定時間内に曲が途切れないように録音(**CD➡TAPE**のみ)
- フェード編集録音 : 1曲目から順に録音(**CD➡TAPE**のみ)

いろいろ楽しめる音質調整 →63

聴く音楽のジャンルによってお好みで音質を選べます。
ロック(ROCK), ポピュラー(POP), ディスコ(DISCO), ジャズ(JAZZ), クラシック(CLASSIC)

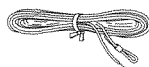
便利なタイマー機能 →69

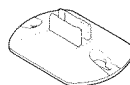
2つの内容を登録できるほか、次の便利な働きがあります。

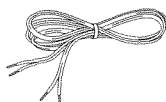
- AI タイマー : タイマーONの後、徐々に音量が大きくなる。
- O.T.T.タイマー : 簡単に設定できて、1回限り働くタイマー。
- スリープタイマー : おやすみのときに便利。

***XM-3MD対応の別売カセットデッキ機種名等をについてお知りになりたい場合は、最寄りの営業所、もしくはサービス・センターまでお問い合わせください。**

付属品

FM室内アンテナ(1本)

AMループアンテナ(1個)

AMループアンテナスタンド(1個)

光ファイバーケーブル(1本)

スピーカーコード(2本)

リモートコントロールユニット(1個)

リモコン用乾電池(R6/SUM-3)(2本)

平行コード(1本)

目次

準　備　編
音を出す前に

基　礎　編
「聴く」、「録る」の基本です

応　用　編
楽しさが広がります

知　識　編
知っていると何かと便利です

安全上のご注意には、この製品を正しく安全にご使用いただくための注意事項がまとめられています。ご使用の前に、必ずお読みください。

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

⚠ 警告　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意　この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意 (危険 ・ 警告を含む) を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容 (左図の場合は感電注意) が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け) が描かれています。

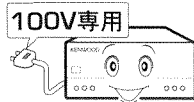
お客様、または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の故障、誤動作または不具合による、テープやディスク等へ記録された内容の損害、および録音、再生など、お客様または第三者が製品利用の機会を逸したために発生した損害等、付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
(説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります。)

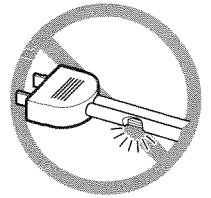
⚠警告

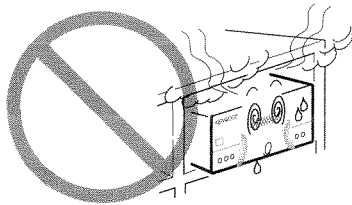
指定以外の電圧では使用しない

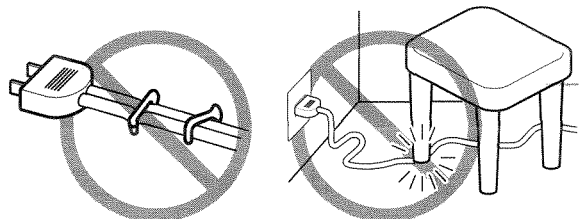
この機器は、交流100ボルト専用です。
《交流100ボルト以外の電圧で使用すると、火災、感電の原因になります》

電源コードの取扱い

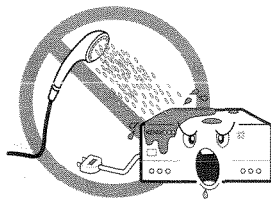
電源コードを傷つけないでください。無理な曲げ、ねじり、引っ張りや、加熱、加工などを加えないよう、ご注意ください。

使用禁止

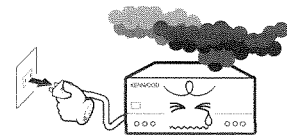
電源コードが傷ついたら（芯線の露出や断線など）使用しないでください。
《火災や感電の危険があります》
●修理をご依頼ください。

放熱に注意

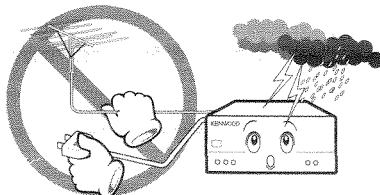
設置の際は、壁から10cm以上離してください。機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔です。ふさがないように、ご注意ください。
●風通しの悪い、狭い所に押し込まない。
●横倒し、あおむけ、逆さまに置かない。
●布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置かない。
《通風孔がふさがると、内部が異常高温となり、火災の原因になります》

電源コードの配線に注意

電源プラグをコンセントに接続するときは、次のことに十分ご注意ください。
●電源コードの上に機器本体や、重いものを置かない。
●敷物の下に電源コードを隠さない。
●電源コードをステープルや釘などで固定しない。
●足を引っ掛ける恐れがある配線をしない。
《コードが傷つき、火災や感電の原因になります》

風呂場では使用しない

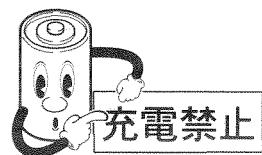
風呂場など、湿度の高いところや、水はねのある場所で使用しないでください。
《火災や感電の危険があります》

異常かな？と思ったら

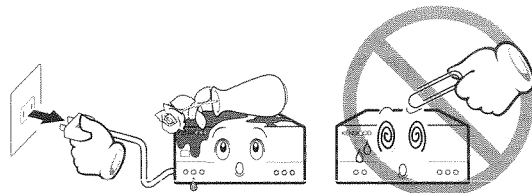
煙が出たり、変な臭いや音がする場合、機器の使用を中止してください。
《火災や感電の危険があります》
●直ちに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
●安全を確かめてから、修理をご依頼ください。

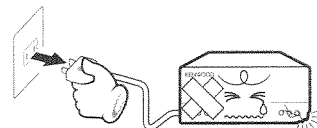
電源プラグをコンセントから抜け

雷が鳴り始めたら

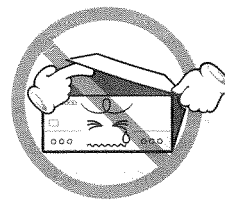
アンテナ線や電源プラグに触れないでください。
《感電の危険があります》

乾電池は充電しない

《電池の破裂、液漏れにより、火災や、けがの原因になります》

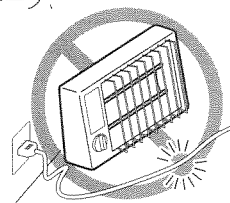
⚠警告

機器の内部に異物や水を入れない

内部に水や、異物が入った場合、機器の使用を中止してください。
《火災や感電の危険があります》
- 電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 点検、修理をご依頼ください。

落下した機器は使わない

落としたり、カバーやケースがこわれた機器を、使用しないでください。
《火災や感電の危険があります》
- 電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 点検、修理をご依頼ください。

ケースを絶対に開けないでください

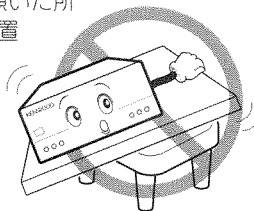
機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
《内部には電圧の高い部分があり、火災や感電の危険があります》
- 点検、修理は販売店またはケンウッド営業所へご依頼ください。

⚠注意

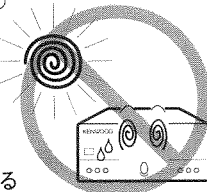
電源コードは熱器具の近くを避けて

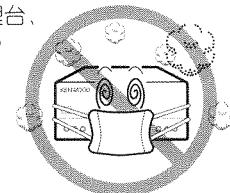
電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近付けないでください。
《コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因になることがあります》

指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、接続には、指定のコードをご使用ください。
《指定以外のコードの使用や、コードの延長は、発熱ならびに、やけどの原因になることがあります》
- 指定コードが不明の場合は、販売店にご相談ください。

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
《落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります》

温度の高い場所には置かない

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
《本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります》

湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそばや、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
《火災や感電の原因になることがあります》

長期間使用しないときは

電源プラグをコンセントから抜け

長期間、機器を使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
《電源プラグをコンセントに接続したまま長期間放置すると火災の原因になることがあります》

音量に気をつけて

電源を入れる前に、音量（ボリューム）を最小にしてください。
《突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります》

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
《耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力障害の原因になることがあります》

お手入れの際は

電源プラグをコンセントから抜け

お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
《電源プラグをコンセントに接続したままでの作業は、感電の原因になることがあります》

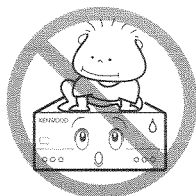
3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。もよりの販売店、またはケンウッド営業所に費用を含めご相談ください。
《内部にほこりがたまったまま長期間使用すると、火災や故障の原因になることがあります》

お子様にご注意

お子様が機器に乗ったり、ぶら下がったりしないように、ご注意ください。
《倒れたり、こわれたりして、けがの原因になることがあります》

指をはさまれないよう注意

お子様がカセットテープやディスクの挿入口に、手を入れないように、ご注意ください。
《けがの原因になることがあります》

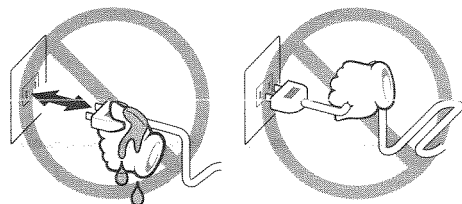
電池はお子様の手が届かないところに置いてください。
《電池を飲み込むおそれがあります》

電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、感電、破裂、発火の危険があります。また、乾電池は液漏れにより機器を腐食させたり、手や衣類を汚す原因にもなります。次のことを、必ず守ってください。

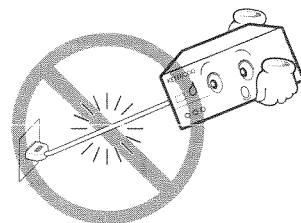
- 極性表示（プラス"+"とマイナス"-"の向き）に注意し、表示通りに入れてください。
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

電源プラグの抜き差しは

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
《感電の原因になることがあります》

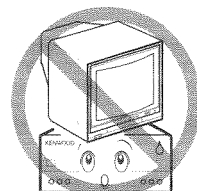
電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜いてください。
《コードの部分を引っ張ると、コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります》

機器を移動させる際は

電源プラグをコンセントから抜け

移動の前に、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コード（アンテナ線や機器間の接続コードなど）を、はずしてください。
《接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります》

電源プラグは清潔に

1年に1度くらいは、電源プラグをコンセントから抜いて清掃してください。
《電源プラグにほこりがたまると、火災の原因になることがあります》

指定機器以外のものを乗せない

機器の上に指定機器以外の物体を乗せないでください。
《乗せた物体の落下により、けがをする原因になることがあります。また、乗せた物体の形や重量によっては、放熱効果が悪化したり、カバーやケースが変形して、火災、感電の原因になることもあります》

システムと付属品の接続

本体と付属品の接続方法です。図をよくご覧になり、正しくのように接続してください。

> ⚠ **注意** 接続のご注意
>
> 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。
> 機器の接続は、図のように行なってください。

FM室内アンテナ

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナ（市販）の接続をお勧めします。屋外アンテナを接続したら、簡易アンテナは取り外してください。

❶ コード先端の被覆を取り、ねじる。
❷ 受信状態のよい位置をさがす。
❸ 固定する。

AMループアンテナ

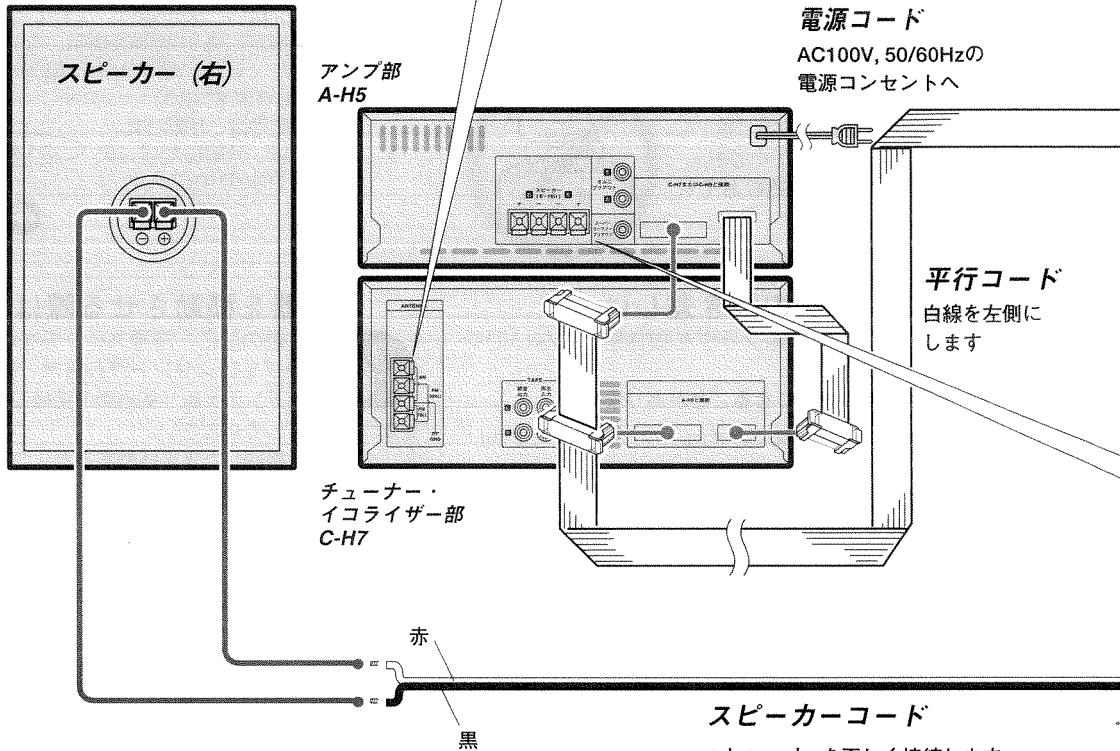
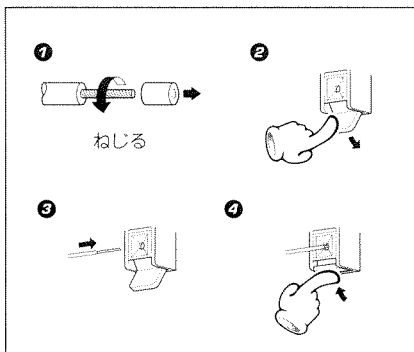
付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。

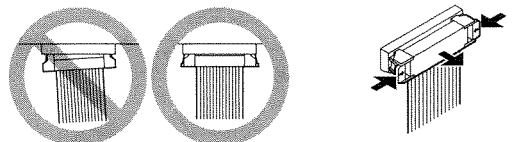
電源コード

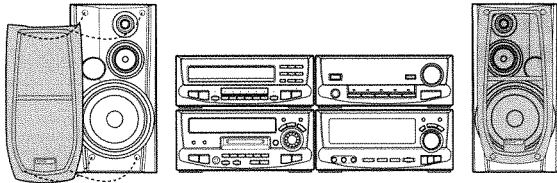
AC100V, 50/60Hzの
電源コンセントへ

平行コード

白線を左側にします

スピーカーコード

+と+、-と-を正しく接続します。

アンプ、チューナー/イコライザー部

平行コードの接続について

- 平行コードはカチッと音がするまで平行に差し込み、確実にロックしてください。
- 平行コードの白線を、左側にして接続してください。
- コードを抜くときは、ソケット部分の両端を押しながらまっすぐに引き抜きます。

設置上のご注意 （前から見たところ）

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに動作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、"故障と思われる症状ですが..." を参照してマイコンをリセットしてください。

→78

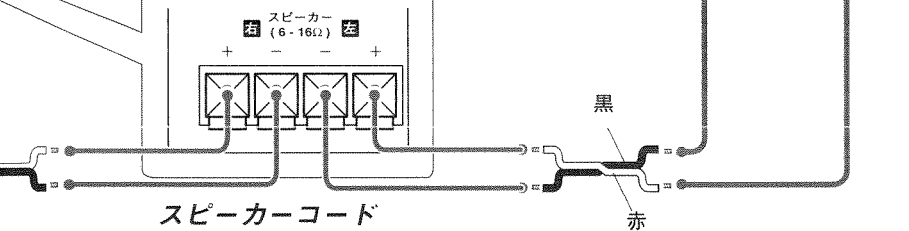
設置の際は、放熱のためセットの周囲（突起部含む最大外形）を、下記の寸法以上空けてください。
上面：50cm　背面：10cm　左右：10cm

デジタル出力端子
保護キャップをはずして使います。（キャップの紛失にご注意ください）

DP-MH5とDM-H5との接続は、必ずこの場所（OPTICAL 1）で接続してください。

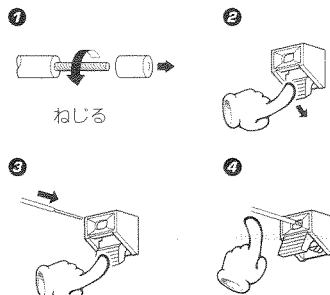
デジタル入力端子

光ファイバーケーブルの接続について

- 光ファイバーは真っ直ぐに、カチッと音がするまで平行に差し込んでください。
- 端子を使わないときは、必ず保護キャップを付けておいてください。
- 光ファイバーケーブルは、絶対に折曲げたり、束ねたりしないでください。
- 市販の光ファイバーケーブルが、すべて使えるとは限りません。接続できないときは、購入店または、もよりの営業所にご相談ください。

スピーカーコード

＋と＋、－と－を正しく接続します。

スピーカー部

メモ

1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。
3. セットの積み重ねは、接続図通りに行なってください。
4. 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も、合わせてご覧ください。
5. セットの前面は揃えてください。
6. スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
7. 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりしない、不自然な音になります。正しく接続してください。

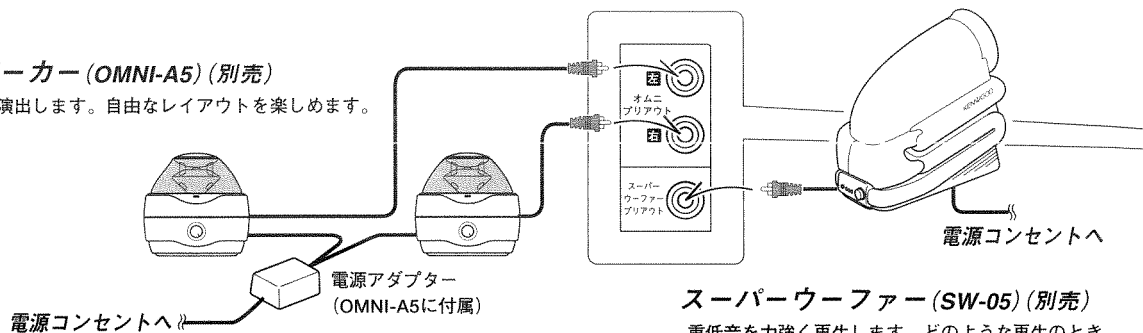
付属品以外のものの接続

付属品以外のものは、図のように接続します。
接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

⚠ 注意　接続のご注意

接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。
機器の接続は、図のように行なってください。

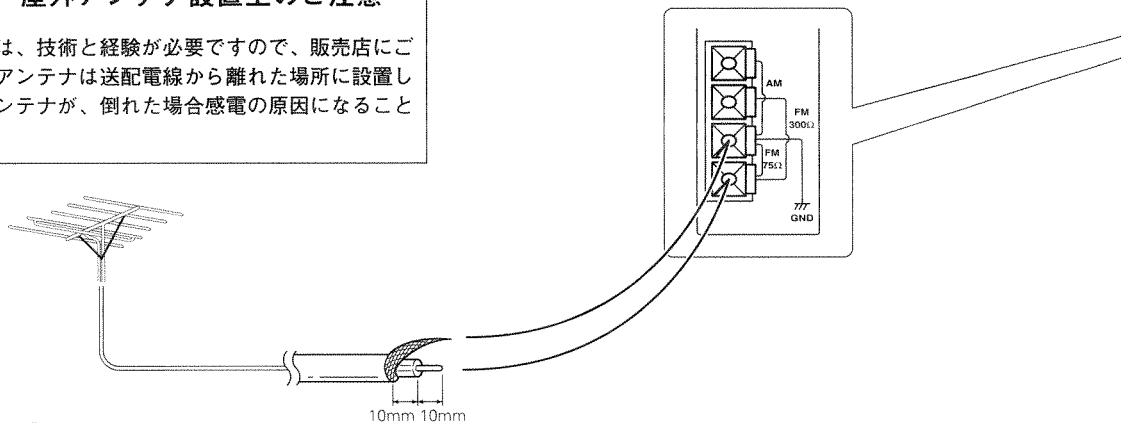
オムニスピーカー (OMNI-A5) (別売)

音場の広がりを演出します。自由なレイアウトを楽しめます。

スーパーウーファー (SW-05) (別売)

重低音を力強く再生します。どのような再生のときでも使用できます。

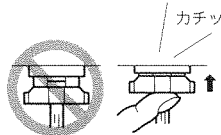
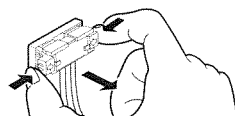
準備編

⚠ 注意　屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが、倒れた場合感電の原因になることがあります。

FM屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引込み、FM75Ω端子に接続します。屋外アンテナを接続したら、簡易アンテナは取り外してください。

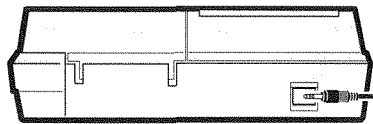
システムコントロールコードの接続

コネクターを差し込む

カチッと音がするまで平行に差し込みロックする

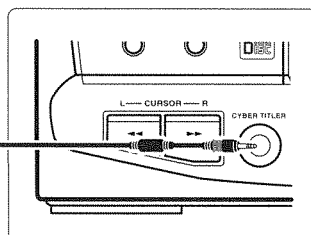
コネクターを抜く

コネクター部分の両端を押しながらまっすぐに引き抜く

メモ

1. 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も、合わせてご覧ください。
2. コードを抜くときは、ソケット部分の両端を押しながらまっすぐに引き抜きます。

サイバータイトラー(CT-G90)(別売)

MDのタイトル入力がJIS規格配列のキーボードにより、簡単に入力できます。また、入力した文字をプリントアウトして、ケースに貼ることにより、オリジナルソフトを作ることができます。

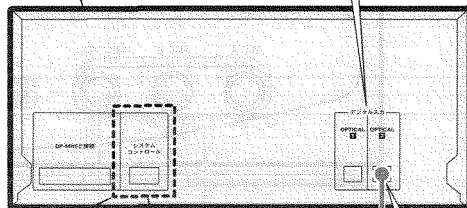
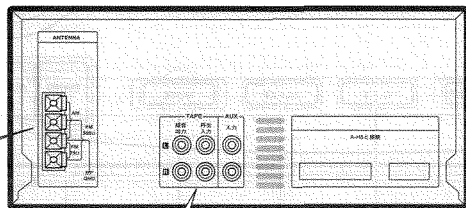
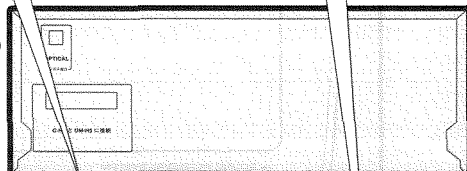
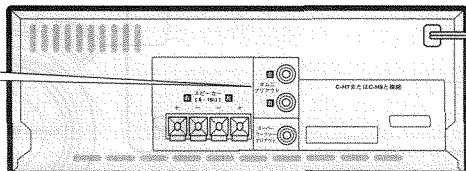
CT-G90専用通信ケーブル
(CT-G90に付属)

デジタル入力端子

保護キャップをはずして使います。(キャップの紛失にご注意ください)

キャップをはずす

光ファイバーケーブル

アンプ部 A-H5

CDプレーヤー部 DP-MH5

チューナー・イコライザー部 C-H7

MDレコーダー部 DM-H5

カセットデッキ(別売)

TAPE 録音出力 再生入力 AUX 入力

システムコントロール

音声入力

音声出力

音声出力　光出力

DM-F70とDM-H5との接続は、必ずこの場所(OPTICAL 2)で接続してください。

オーディオコード
(カセットデッキ(別売)に付属)

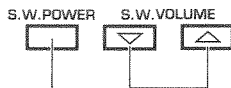
MDレコーダー
(DM-F70)(別売)
またはDAT、BSチューナーなど
"サンプリング周波数について" →31

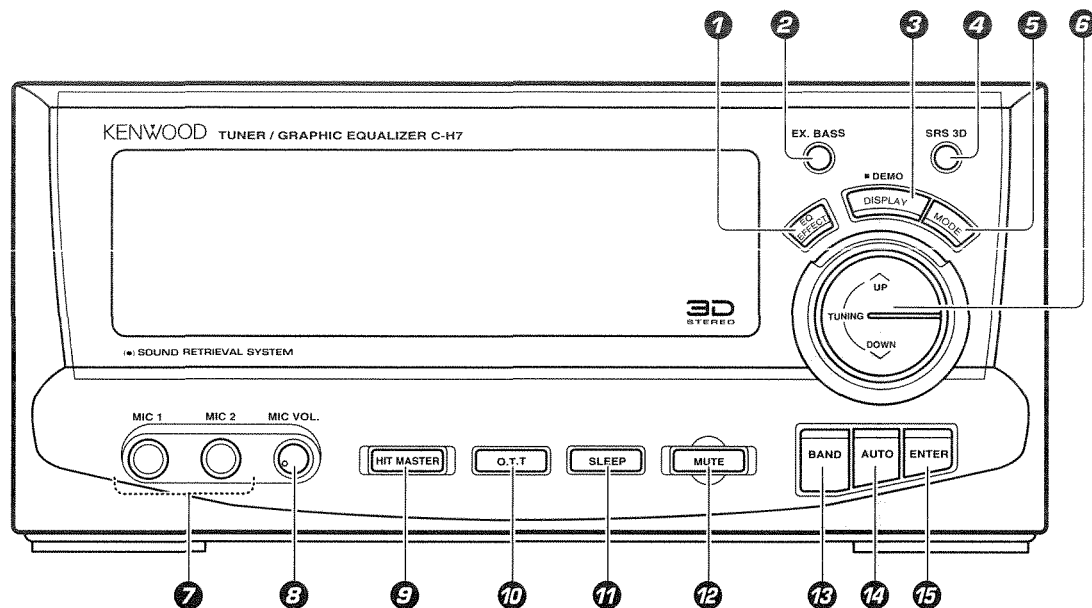
このシステムコントロール端子にDM-F70からのシステムコントロールコードを接続しないでください。

システムコントロールコード
(カセットデッキ(別売)に付属)

CT-G90使用上のご注意

アンプ部(A-H5)の上に直接、サイバータイトラーCT-G90を乗せてご使用になると、放熱の妨げとなります。他の場所に置いてください。

スーパーウーファーの操作について

- スーパーウーファーの音量を一度決めると、あとはVOLUME CONTROLだけで同じバランスのまま増減します。
- リモコンはスーパーウーファーに向けてください。

チューナー・イコライザー部

❶ EQ. EFFECTキー →63
イコライザー効果をオン／オフします。また、イコライザー効果のタイプを選びます。

❷ EX. BASSキー／インジケーター →21, →70
電源オンのとき： EX. BASS再生のオン／オフに使います。
電源オフのとき： タイマー設定に使います。

❸ DISPLAY／DEMOキー →65
ディスプレイの表示内容を切り換えます。デモンストレーションのオン／オフに使います。

❹ SRS 3Dキー／インジケーター →62, →71
電源オンのとき： SRS 3Dのオン／オフを切り換えます。
電源オフのとき： タイマー設定に使います。

❺ MODEキー →62
TUNING UP／DOWNキーの機能を切り換えます。選択できる項目は、そのときの状態によって異なります。

❻ TUNING UP／DOWNキー →28
通常は、放送局の選択に使います。目的に応じてMODEキーで機能を切り換えることができます。

❼ MIC 1, MIC 2端子 →66
マイク(別売)を接続します。

❽ MIC VOL.つまみ →66
マイクミキシングをするとき、マイクの音量を調節します。

❾ HIT MASTERキー →67
カラオケをするときなどに使用します。

❿ O.T.T.キー →69
O.T.T.タイマー設定に使います。

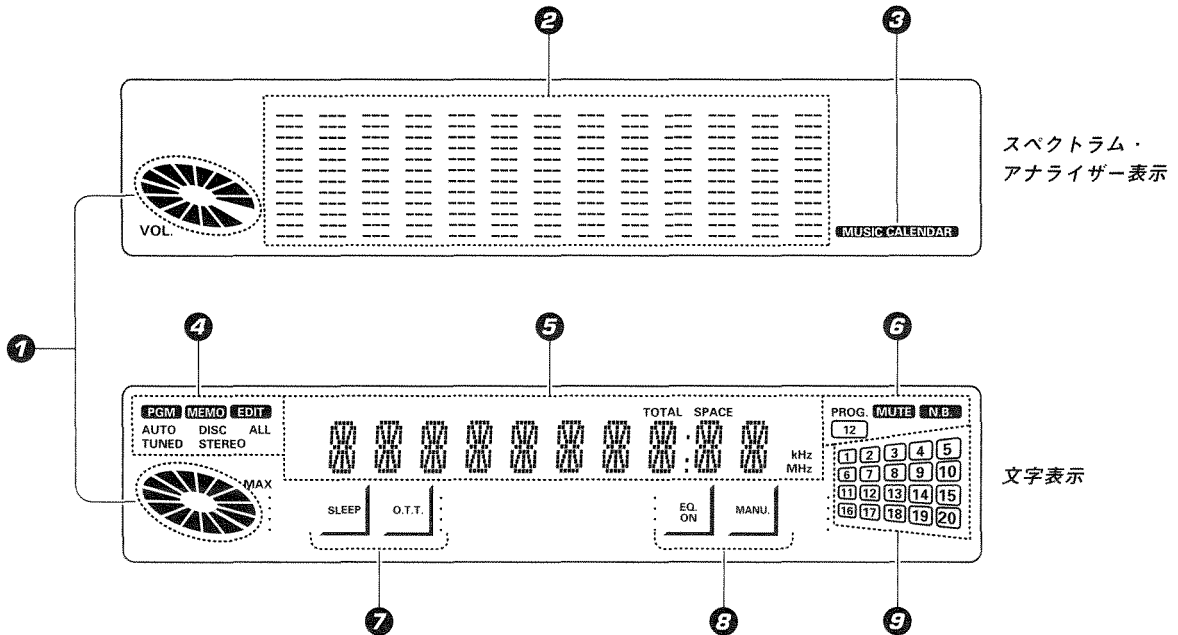
⓫ SLEEPキー →69
おやすみタイマーを設定するときに使います。

⓬ MUTEキー →21
電源オンのとき： 一時的に音を消したいときに使います。
電源オフのとき： オートパワーセーブのオン／オフに使います。

⓭ BANDキー →28
受信バンドを切り換えます。

⓮ AUTOキー →29, →68
電源オンのとき： 選局モードの切り換えに使います。
電源オフのとき： 時刻合わせに使います。

⓯ ENTERキー →29, →68
時刻合わせや、タイマー設定などに使います。

表示部 (チューナー・イコライザー部)

❶ボリューム表示部
現在設定されているボリュームの概略の大きさを示します。

❷ スペクトラム・アナライザー／イコライザー表示部
再生中の音楽に合わせてパターンが変化するスペクトラム・アナライザー、または現在効果のかかっているイコライザーパターンを示します。

❸ ミュージック・カレンダー表示

❹ チューナー・応用操作等表示部
チューナー表示のほか、CD、MDの応用操作等の表示を示します。

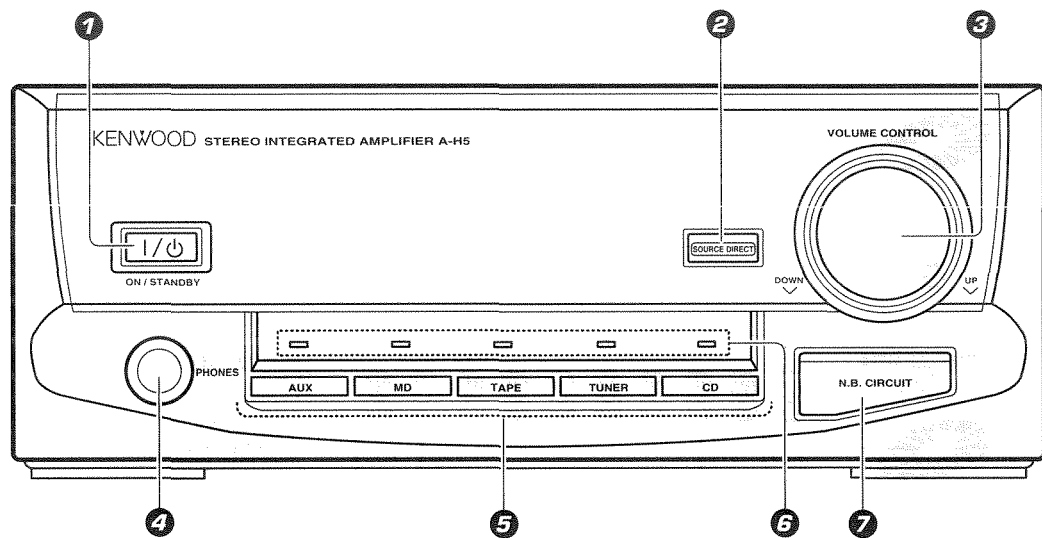
❺ 文字情報表示部
入力切換、周波数表示、音量レベル、CDのディスク番号、時間表示等を表示します。

❻ タイマー予約番号、ミュート、N.B.表示

❼ タイマー関係表示（SLEEP（スリープ）、O.T.T.表示）

❽ イコライザー関係表示（EQ. ON、MANU.（マニュアル）表示）

❾ ミュージック・カレンダー表示部
現在、選ばれているCD（トレイ1〜6の内の一つ）の収録されている曲数を示します。再生が終了したトラック番号は消灯します。

アンプ部

❶ ON/STANDBY(I / ⏻)キー → 20

電源のオン／スタンバイを切り換えます。

スタンバイのとき：キーが赤色に点灯します。

電源オンのとき：　キーが緑色に点灯します。

❷ SOURCE DIRECTキー → 21

よりピュアな音を楽しみたいときに使います。

❸ VOLUME CONTROLつまみ → 20 , → 64

通常は、音量の調節に使います。インプットレベルの調整に使うこともできます。

❹ PHONES端子 → 21

ヘッドホン(別売)を接続します。

❺ 入力切換キー → 20

入力ソースを選びます。CD、MDを選んだとき、すでにディスクがセットされていれば、自動的に再生が始まります。

❻ 入力切換インジケーター → 20

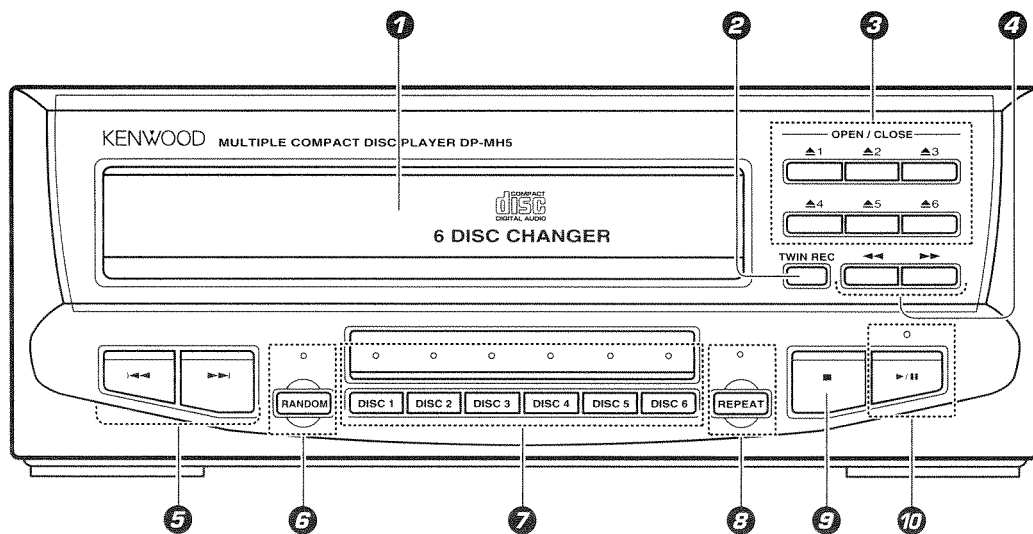
現在選ばれている入力ソースを示します。

❼ N.B.CIRCUITキー → 21

小さな音で聴くときに、重低音の量感不足を補います。

XM-3MD (J)

CDプレーヤー部

❶ ディスクトレイ →22
CDを6枚まで収納できます。

❷ TWIN REC(ツイン レック)キー →44
CDをMDとテープへ、同時に録音します。

❸ OPEN(オープン)／CLOSE(クローズ)（▲1～▲6）キー →22
ディスクを出し入れすると使います。

❹ サーチ（◄◄、►►）キー →23
曲の早戻しや、早送りに使います。

❺ スキップ（|◄◄、►►|）キー →23
曲の飛び越しや、頭出しに使います。

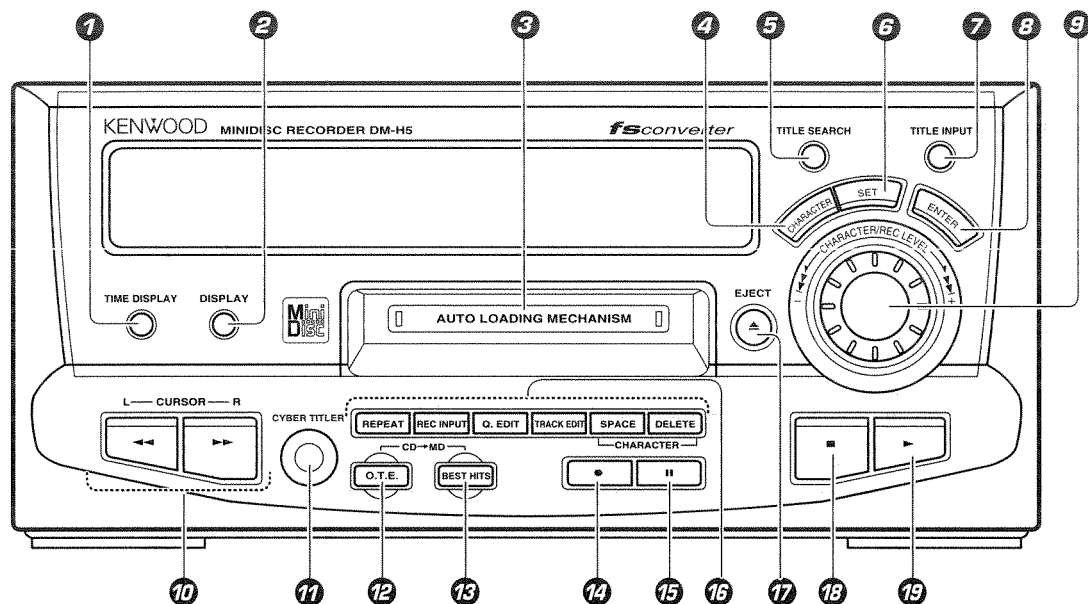
❻ RANDOM(ランダム)キー／インジケーター →36
ランダム再生をしたいときに使います。

❼ ディスクセレクター（DISC(ディスク) 1～DISC(ディスク) 6）キー／インジケーター →23
再生（または録音）したいディスクを選びます。トレイにディスクが入っているときは、インジケーターが点灯し、ディスクの再生中は点滅します。

❽ REPEAT(リピート)キー／インジケーター →35
繰り返し再生をしたいときに使います。

❾ 停止（■）キー →23

❿ 再生／一時停止（►/II）キー／インジケーター →22

MDレコーダー部

❶ **TIME DISPLAYキー** → 27

時間表示のタイプを切り換えます。

❷ **DISPLAYキー** → 27

タイトル表示などのモードを切り換えます。

❸ **ミニディスク挿入部** → 24

❹ **CHARACTERキー** → 52

タイトル入力のとき、文字のグループを選択します。

❺ **TITLE SEARCHキー** → 26

タイトルサーチをするときに使います。

❻ **SETキー** → 52

タイトル入力や、編集をするときに使います。

❼ **TITLE INPUTキー** → 52

タイトル入力をするときに使います。

❽ **ENTERキー** → 52

編集処理の実行や、入力したタイトルの確定などに使います。

❾ **ジョグダイヤル (⏮、⏭)** → 25

再生時は、スキップ（曲の飛び越し）キーとして使います。

その他に、タイトルサーチや、編集にも使用します。

❿ **早送り、早戻し (◀◀、▶▶) キー** → 25, → 52

再生時は、早送り、早戻しに使います。

タイトル入力時は、カーソルの移動に使います。

⓫ **CYBER TITLER入出力端子** → 11

サイバータイトラー（別売）との接続に使います。

⓬ **O.T.E.キー** → 42

CDの再生中に押すと、そのとき再生している曲だけをMDへ録音します。停止中に押すと、そのとき選ばれているCDを、1曲目からテープへ録音します。

⓭ **BEST HITSキー** → 45

収納されている全てのCDの1曲目を、順にMDへ録音します。

⓮ **REC (●) キー** → 31

録音をするときに使います。

⓯ **一時停止 (❚❚) キー** → 25

⓰ **タイトル入力、編集、編集録音、再生関連キー**

REPEATキー → 39

繰り返し再生をしたいときに使います。

REC INPUTキー → 32

デジタル/アナログのいずれかの録音入力モードを切り換えます。

Q.EDITキー → 54, → 59

曲順の入れ替えまたは削除をするときに使います。

TRACK EDITキー → 55

曲を編集するとき、あるいは曲またはディスク全体を消去するときに使います。

CHARACTER SPACEキー → 53

タイトル入力のとき、1文字ぶんの空白を挿入します。

CHARACTER DELETEキー → 53

タイトル入力のとき、1文字を削除します。

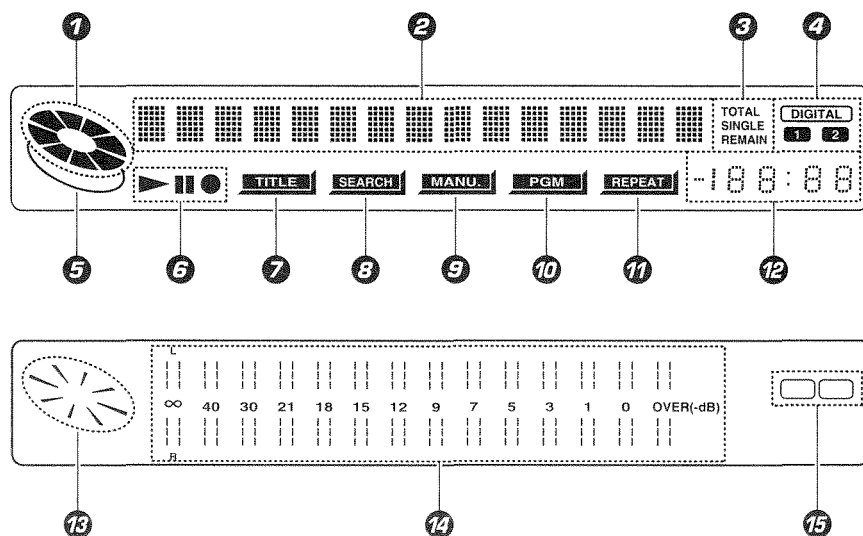
⓱ **EJECT (⏏) キー** → 25

ディスクを取り出すときに押します。

⓲ **停止 (■) キー** → 25

再生 (▶) キー → 24

表示部　(MDレコーダー部)

❶ 走行表示

❷ 文字情報表示部
曲やディスクのタイトル、曲番号、編集の情報などを表示します。

❸ TOTAL（トータル）、SINGLE（シングル）、REMAIN（リメイン）表示 →27
時間表示モードを示します。

❹ DIGITAL1、2（デジタル1、2）表示 →32
デジタル入力が選ばれているときに点灯します。

❺ 録音禁止表示 →75
録音用ミニディスクが"録音禁止"になっているときに点灯します。

❻ 再生、一時停止、録音表示
ミニディスクの走行状態を示します。

❼ TITLE（タイトル）表示 →26, →52
タイトル入力、タイトルサーチ、タイトル編集のときに点滅します。

❽ SEARCH（サーチ）表示 →26
タイトルサーチのときに点滅します。

❾ MANU.（マニュアル）表示 →32
AUTO/MANU.（オート/マニュアル）キーでマニュアルが選ばれているときに点灯します。

❿ PGM（プログラム）表示 →37
プログラム再生、プログラム録音時に点灯します。

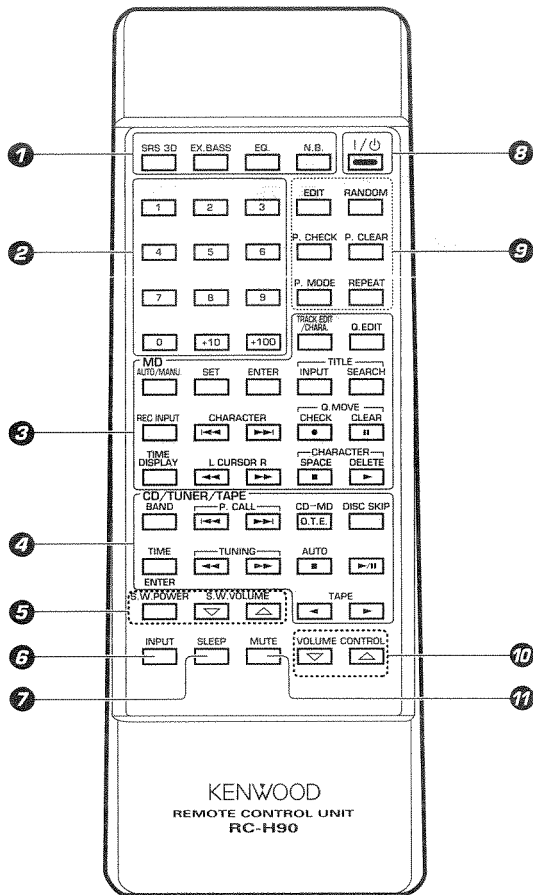
⓫ REPEAT（リピート）表示 →39
リピート再生時に点灯します。

⓬ 時間表示部 →27

⓭ データ読み込み、書き込み表示
ミニディスクに記録される各種情報（TOC、UTOC等）の読み込み、書き込み中に点滅します。この表示の点滅中は、サイバータイトラー（別売）からミニディスクにタイトルを入れたり、ミニディスクからサイバータイトラー（別売）にタイトルを読み込んだりすることは出来ません。

⓮ ピークレベルインジケーター →31
主にアナログ録音のときの録音レベルの目安として使います。

⓯ デジタル入力表示 →30
デジタル録音のときに選ばれている側の枠が点灯します。（1または2）

リモコン部

本体部と同じ名前のキーは、本体部と同じ働きをします。

❶ 音質、音場関連キー
SRS 3Dキー
EX.BASSキー
EQ.キー　：イコライザーの種類とオン/オフを切り換えます。 →63
N.B.キー →21

❷ 数字キー
CDまたはMDの曲を選ぶときや、TUNERの数字キーとして使います。(+100キーは、MDレコーダー専用です。)

❸ MDレコーダー関連キー
TRACK EDIT/CHARA.キー
曲を編集するとき、あるいは曲またはディスク全体を消去するときに使います。タイトル入力のとき、文字のグループを選択します。
Q.EDITキー →54, →59
AUTO/MANU.キー
アナログ録音のとき、トラック番号を自動で付ける(AUTO)か、後で手動で付ける(MANU.)かを選びます。
SETキー
ENTERキー
TITLE INPUTキー
TITLE SEARCHキー →26
：タイトルサーチをするときに使います。
REC INPUTキー
CHARACTER／スキップ (⏮, ⏭)キー
Q.MOVE CHECK／録音(●)キー
Q.MOVE CLEAR／一時停止(⏸)キー
TIME DISPLAYキー →27
：時間表示のタイプを切り換えます。
L CURSOL R／早送り、早戻し(◀◀, ▶▶)キー
CHARACTER SPACE／停止(■)キー
CHARACTER DELETE／再生(▶)キー

❹ CD／チューナー／テープデッキ(別売)関連キー
BANDキー(チューナー)
P.CALL／スキップ(⏮, ⏭)キー(チューナー／CD)
：記憶させた放送局を受信するときに、使います。 →23, →28
CD→MD O.T.E.キー(CD)
：本体のO.T.E.キーと同じ働きをします。
DISC SKIPキー(CD)　：聴きたいディスクを選びます。 →23
TIME／ENTERキー(CD)
：CDの時間表示モードを切り換えます。放送局を記憶させるときに使います。 →23, →29
TUNING／早送り、早戻し(◀◀, ▶▶)キー
(チューナー／CD、テープデッキ(別売))
AUTO／停止(■)キー (チューナー／CD、テープデッキ(別売))
再生／一時停止 (▶/⏸)キー (CD)
再生 (◀, ▶)キー (テープデッキ(別売))

❺ スーパーウーファー(別売)操作キー
S.W.POWERキー　：スーパーウーファーの電源をオン/オフします。
S.W.VOLUME (▽, △)キー
：スーパーウーファーの音量を調節します。

❻ INPUTキー →20
：聴きたい、または録音したい入力ソースを選びます。

❼ SLEEPキー →69
：おやすみタイマーを設定するときに使います。

❽ ON/STANDBY(I／⏻)キー →20

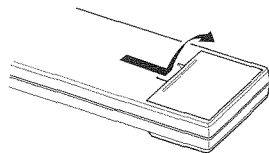
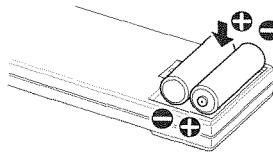
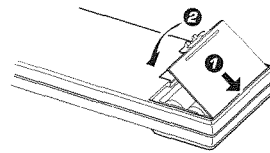
❾ CD、MD 特殊再生関連キー
EDITキー(CD)　：CDをテープに編集録音するときに使います。 →48
RANDOMキー(CD)　：CDの曲順を順不同に再生します。 →36
P.CHECKキー(CD, MD)　：プログラムした曲順を確認のために表示します。 →34, →38
P.CLEARキー(CD, MD)　：プログラムした曲順を取り消します。 →34, →38
P.MODEキー(CD, MD)　：曲順をプログラムするときに使います。 →33, →37
REPEATキー(CD, MD)　：繰り返し再生するときに使います。 →35, →39
(CD、MD共用のキーは、入力切り換えに応じて、CD、MDのうちの、選ばれている側に対して働きます。)

❿ VOLUME CONTROL (▽, △)キー

⓫ MUTEキー →21
一時的に音を消したいときに使います。

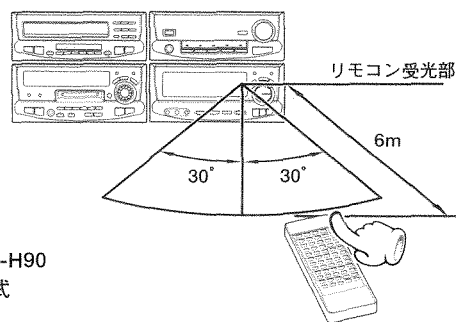
リモコンの使いかた

電池の入れかた

❶ カバーを開く

❷ 電池を入れる

❸ カバーを閉める

● 単3乾電池（R6/SUM-3）2個を極性マークに従って入れる。

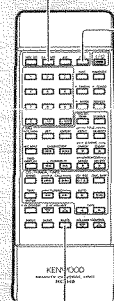
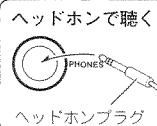
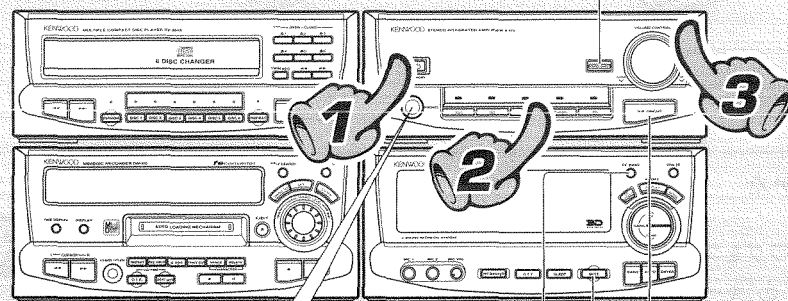
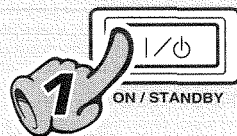
操作のしかた

本体の電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンのON/STANDBY(I/⏻)キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。
電源をオフ(スタンバイ)にするときは、再度ON/STANDBY(I/⏻)キーを押します。
時刻表示のみ点灯するスタンバイ状態になります。

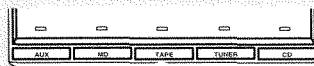
● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて押してください。

型名：RC-H90
赤外線方式

操作範囲のめやす

1. 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい電池と交換してください。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式等)の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

基本的な使いかた

ON/STANDBY（オン/スタンバイ）キーを押す

1. 電源をオンにする（オフ（スタンバイ）にする）

電源がオンのときにON/STANDBY（オン/スタンバイ）（I/⏻）キーを押すとオフ（スタンバイ）になります。

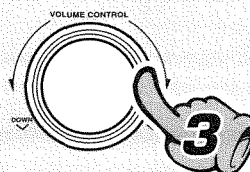
- アンプ部（A-H5）のON/STANDBY（オン/スタンバイ）（I/⏻）キーだけで、基本システムの電源オン/オフ（スタンバイ）ができます。
- 電源がオフ（スタンバイ）のときは表示部が暗くなります。（DIMMER（ディマー）機能）

2. 聴きたいものを選ぶ

CD →22

MD →24

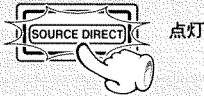
放送 →28

- リモコンを使うときは、INPUT（インプット）キーを繰り返し押して選んでください。
- CD、MDを選んだとき、すでにディスクが入っている場合は、再生が始まります。
- テープが聴きたい場合は、カセットデッキ（別売）付属の取扱説明書の"テープの再生"をお読みください。

音量を下げる　　音量を上げる

3. 音量を調節する

- 早く回すと、変化量が大きくなります。（AI VOLUME（ボリューム）機能）
- 表示部に目安の数字が表示されます。

よりピュアな音を楽しむ (SOURCE DIRECT)(本体のみ)

SOURCE DIRECTをオンにすると、信号経路がシンプルになり、音の純度が向上します。

- バランス・コントロール以外の機能は、音声信号がその回路をバイパスするために使えません。
- もう一度キーを押すと解除されます。

重低音を補正する (N.B. : Natural Bass circuit)

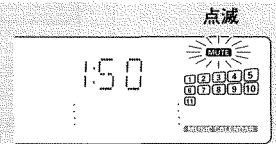
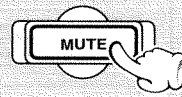
押すたびに切り換わります。

① NB 1.........音量に合わせて低音域を補正(小音量時に有効です)
② NB 2.........音量にかかわらず低音域を補正
③ NB OFF....N.B.解除

低音と高音を強調する (EX. BASS)

工場出荷時はオンの状態になっています。

- 押すたびにオン/オフを切り換えます。

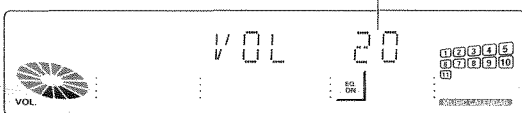
一時的に音を消す

- もう一度押すと、元の音量に戻ります。
- 音量を操作したときも解除されます。

ヘッドホンで聴く

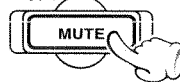
❶ ヘッドホンのプラグをPHONES端子に差し込む
- スピーカーから音が出なくなります。

❷ 音量を調節する
- プラグの抜き差しをするときは、先に音量を絞ってください。

CDを選んだとき

音量の表示

AUTO POWER SAVE機能について

電源がオンで、録音も再生もしていない状態のとき、30分以上放置すると自動的に電源がオフ(スタンバイ)になる機能です。この機能は、次の操作で、使う/使わないを選べます。

電源オフ(スタンバイ)時に押す

押すたびに切り換わります。

① "ON".....オートパワーセーブを使う
② "OFF"...オートパワーセーブを使わない

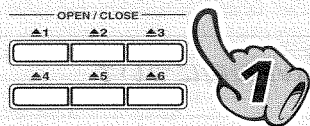
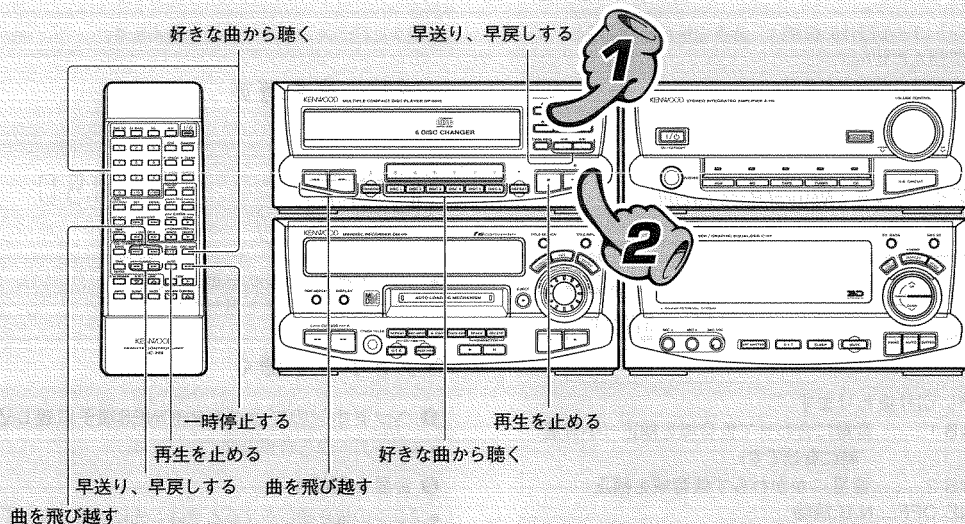
- 入力切換がAUXのときは働きません。TUNERのときは、音量の表示がゼロのときに限り働きます。

スタンバイ・モードついて

本機では電源プラグがコンセントに接続されているとき、電源オフ(スタンバイ)時に時刻表示が点灯します。メモリー保護のため、微弱な通電を行っているためです。これをスタンバイ状態といいます。時刻表示が点灯しているとき、リモコン操作によっても電源のオンができます。

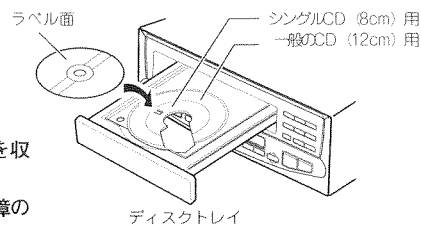
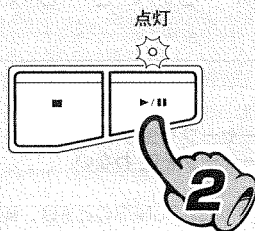
CDを聴く

6枚のディスクを収納できます。また、再生中にも他の5枚のディスクの入れ替えができます。

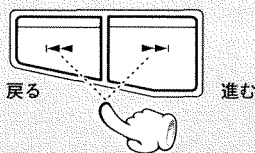
基礎編

キーを押すとその番号のトレイが開き、もう一度押すと閉まります。トレイが開いているときに別の番号キーを押すと、自動的にトレイが閉まってから、押した番号のトレイが開きます。

1. ディスクを入れる

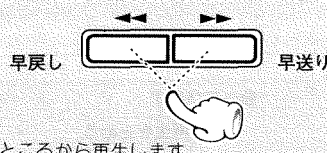
❶ トレイを開ける
❷ ディスクを入れる
❸ トレイを閉める

❶〜❸を繰り返して、6枚までディスクを収納できます。
ディスクを2枚以上重ねていれると、故障の原因になります。

2. 再生をはじめる

ディスク取扱上のご注意

ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどの、糊がはみ出したり、剥がした跡のあるものはお使いにならないでください。そのまま再生すると、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

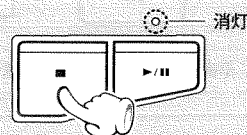
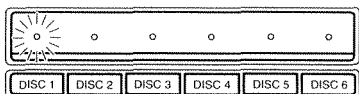
曲を飛び越す

- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に ⏮ キーを押すと、その曲の最初に戻ります。

好きな曲から聴く

早送り・早戻しする

- 手を離したところから再生します。

一時停止する

- 押すたびに、一時停止と再生が切り換わります。

再生を止める

開いたトレイの番号のインジケーターが点滅します。

- 再生面には、触れないようにします。
- ディスクはトレイの溝に合わせて、正しく置いてください。（ディスクを斜めに置くと故障の原因となります。）
- 市販のCDシングル（8cm）ディスクアダプターは使用できません。

- 数秒後にトレイ番号1の、1曲目から再生します。
- 好きなディスクから聴くときは、DISC1～DISC6（ディスクセレクター）キーで選んでください。

⚠ 注意　レーザー光源をのぞかない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

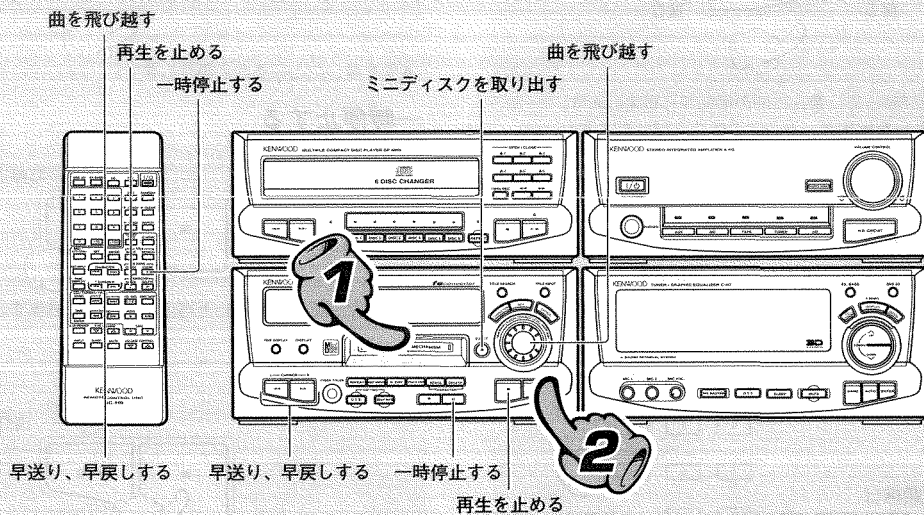
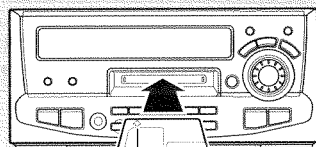
メモ　ディスクインジケーターは、電源をオフ（スタンバイ）にした後、再びオンにするとディスクの有り無しにかかわらず、全てのインジケーターが点灯します。

CDプレーヤーの時間表示について（再生中のみ）

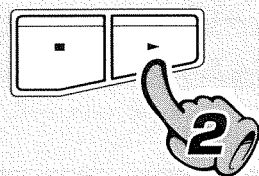
リモコンのTIME/ENTERキーを押すたびに、ディスプレイの表示が切り換わります。

① 1:23 再生中の曲の経過時間
② - 2:37 再生中の曲の残り時間
③ TOTAL 23:45 ディスク全体の経過時間
④ - TOTAL 36:15 ディスク全体の残り時間

- プログラムモード、エディットモードとランダムモードは、再生中の曲の時間表示のみです。

MD(ミニディスク)を聴く

1. ミニディスクを入れる

軽くミニディスクを差し込むと自動的にミニディスクが引き込まれます。

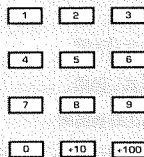
- ミニディスクや曲にタイトルが記録されているときは、タイトルを表示します。
- 市販のミニディスク音楽ソフト、または"録音禁止"になっている録音済みのミニディスクが、挿入されると自動的に再生が始まります。→75, →76

2. 再生をはじめる

1曲目から聴く場合

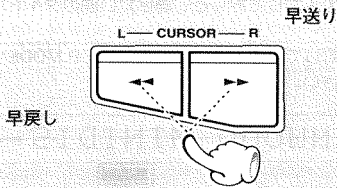
- 数秒後に、1曲目から再生します。
- 再生中は、各曲の最初にトラックタイトルを表示します。

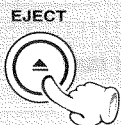
曲を選ぶ場合

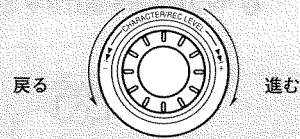
数字キーを押す順序は
23曲目なら
……… +10 +10 3
40曲目なら
……… +10 +10 +10 +10 0

- "PGM(プログラム)"表示が点灯しているときは、リモコンのP.MODE(プレイモード)キーを押して消灯させてください。
- "DISC READING(ディスク リーディング)"の点滅中にミニディスクにない曲を選ぶと、ミニディスクの最後の曲を再生します。

曲の再生中に、もう一度再生(►)キーを押すと、その曲のタイトルがスクロールします。

"表示部のスクロールについて" →25
"ミニディスクや曲にタイトルをつける" →52

早送り、早戻しする

- 操作を止めた所から、再生が始まります。（一時停止中にサーチした場合、サーチ先で一時停止になります）
- 再生中の早送り、早戻しは、音が出ます。
- 一時停止中の早送り、早戻しは高速となり、音は出ません。

ミニディスクを取り出す　(本体のみ)

- ミニディスク挿入口に、ミニディスクが出てきます。

曲を飛び越す

- 回した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に左に少し回すと、その曲の最初に戻ります。（再生開始後1秒以内に回すと、前の曲の最初に戻ります。

一時停止する

- 押すたびに、一時停止と再生が切り換わります。

再生を止める

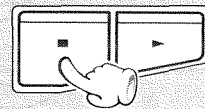
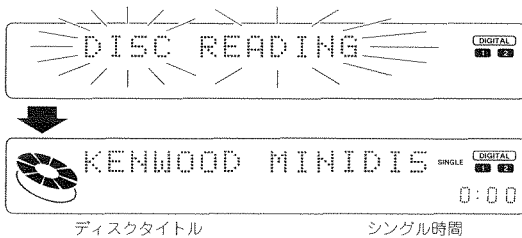
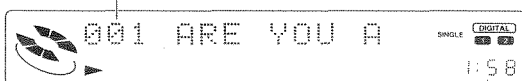
基礎編

表示が変わります

ディスクタイトル　　シングル時間

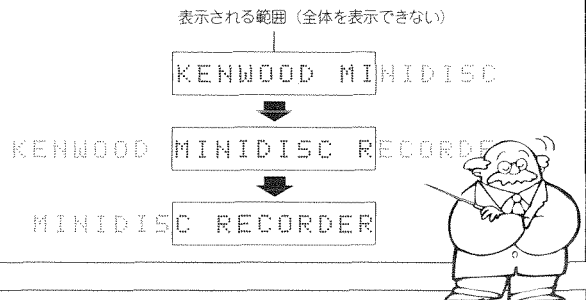
再生中のトラック番号

再生中の曲の経過時間

メモ　イコライザーやSRS 3Dなどのの効果をかけて録音したMDは、効果をかけずに再生してください。（アナログ録音のみ） →62，→63

表示部のスクロールについて

ミニディスクや曲のタイトルなど、情報の量が多すぎると表示部に入りきらないことがあります。このようなときは、表示部の文字が右から左に流れて、それまで見えなかった内容が現われます。このような表示の動きを「スクロール」といいます。

スクロールのイメージ

表示される範囲（全体を表示できない）

⚠注意　レーザー光源をのぞかない

レーザー光が目に当たると､視力障害を起こすことがあります。

モノラル録音されたミニディスクについて

本機は、モノラルモードで録音されたミニディスクも再生できます。モノラルモードの場合、同じ記録時間の内容がステレオモード時の約半分のデータ量となるため、再生時間（記録時間）はステレオモード時の約2倍（最大148分）になります。

聴きたい曲をタイトルで探す（タイトルサーチ）

❶ "PGM"表示を消灯させる

P. MODE

停止中に押す

❷ TITLE SEARCHキーを押す

TITLE INPUT SEARCH

中止するときは、もう一度TITLE SEARCHキーを押します

❸ 聴きたい曲名（タイトル）を選ぶ

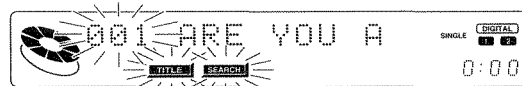
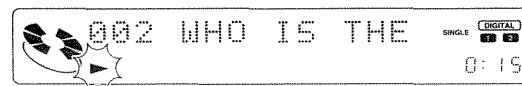
CHARACTER/REC LEVEL

トラック番号が戻る　トラック番号が進む

❹ 再生を始める

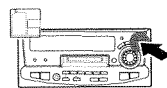
●録音用ミニディスクの場合、ミニディスクに収録されている曲のタイトルをあらかじめ入力しておくと、聴きたい曲のタイトルで探すことができます。
●"PGM"表示が点灯しているときは、リモコンのP.MODEキーを押して消灯させてください。

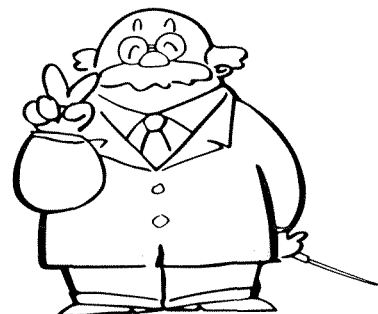
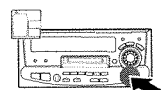
消灯させる

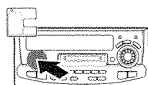
トラックタイトル

●|◀◀ , ▶▶|キーでも曲を選ぶことができます。

オートタイトルサーチについて

曲のタイトルを自動的に表示させ、聴きたい曲のタイトル表示中に、再生キーを押すとその曲を聴くことができます。

❶ "聴きたい曲をタイトルで探す"の手順❶を行なう

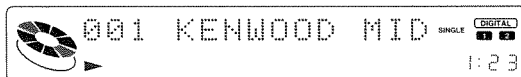
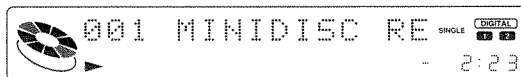
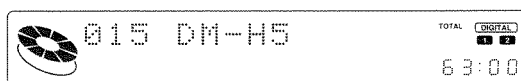
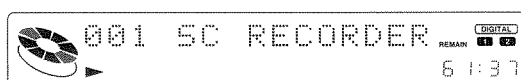
❷ TITLE SEARCHキーを2秒以上押す

ミニディスク全曲のタイトルを順に表示します。
中止するときは、もう一度TITLE SEARCHキーを押します

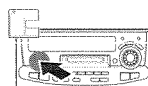
❸ 聴きたい曲のタイトルの表示中に再生キーを押す

TIME DISPLAYキーについて

MDレコーダー部の時間表示のタイプを切り換えることができます。

本体
押すたびに切り換わります。

再生中
① 再生中の曲の経過時間
② 再生中の曲の残り時間
③ ミニディスク全体の録音可能時間

停止中
① 曲の経過時間（0:00表示）
② 曲の残り時間（-0:00表示）
③ ミニディスク全体の合計記録時間
④ ミニディスク全体の録音可能時間

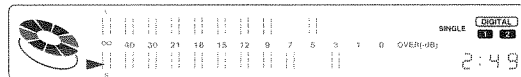
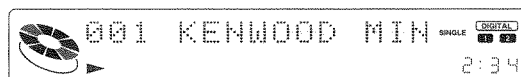
録音中
① 録音中の曲の経過時間
② ミニディスク全体の録音可能時間

再生中の曲の経過時間
再生中の曲の残り時間
ミニディスク全体の合計記録時間
ミニディスク全体の録音可能時間　"REMAIN"点灯
● 1曲も録音されていない場合、"BLANK DISC"と表示されます。
（ディスクタイトルがある場合、そのディスクタイトルが表示されます）

DISPLAYキーについて

MDのタイトル表示（ミニディスク名、曲名）のタイプを切り換えることができます。

本体
押すたびに切り換わります。

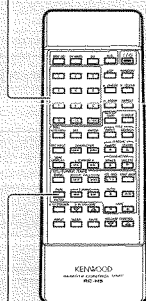
再生中
① トラックタイトル表示とピークレベルメーター（L、R独立）表示
② トラックタイトル表示とピークレベルメーター（L+R）表示
③ ピークレベルメーター（L、R独立）表示
④ トラックタイトル表示

停止中
① ディスクタイトル表示とピークレベルメーター（L、R独立）表示
② ディスクタイトル表示とピークレベルメーター（L+R）表示
③ ピークレベルメーター（L、R独立）表示
④ ディスクタイトル表示

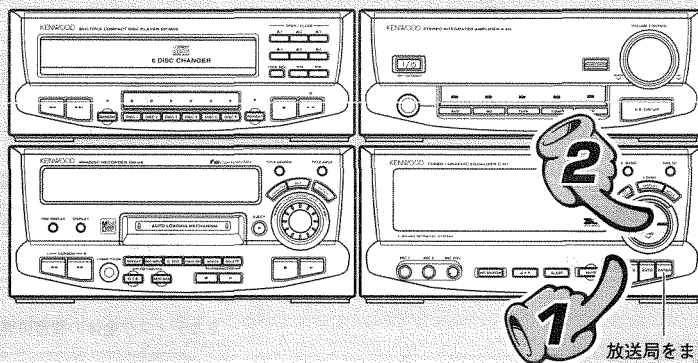
● ③のピークレベルメーターのみ表示しているときに、キーを押すと、表示が必要な場合のみ②の文字表示とピークレベルメーターの表示に切り換わり、数秒後に元の表示に戻ります。

トラックタイトル表示（再生中）とピークレベルメーター（L、R独立）表示
トラックタイトル表示（再生中）とピークレベルメーター（L+R）表示
ピークレベルメーター（L、R独立）表示
トラックタイトル表示（再生中）

放送を聴く

放送局を最大40局まで記憶させ、ワンタッチで受信できます。
AMステレオにも対応しています。

放送局を一つずつ記憶させる

放送局をまとめて記憶させる
放送局を一つずつ記憶させる

放送局をまとめて記憶させる
放送局を一つずつ記憶させる

基礎編

1. 放送バンドを選ぶ

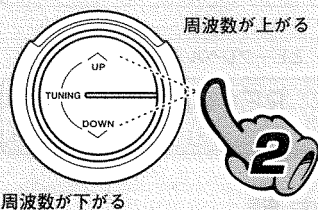
押すたびに切り換わります。

① FM
② AM

2. 放送局を選ぶ

周波数が上がる

周波数が下がる

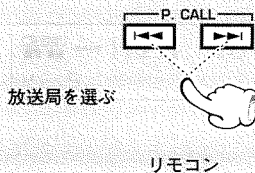
放送局を記憶させていない場合

オート選局のとき　：押すたびに次の放送局を自動的に受信します。
マニュアル選局のとき　：受信するまで繰り返し押す。または、押したままにする。

放送局を選ぶ

リモコン

放送局を記憶させた場合（プリセットコール）

キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

►►|を押すと... 1 → 2 → 3 ..... 38 → 39 → 40 → 1 .....
|◄◄を押すと... 40 → 39 → 38 ..... 3 → 2 → 1 → 40.....

放送局をまとめて記憶させる(オートプリセット)

ENTERキーを押したままにする(約2秒)

- 現在受信しているバンドから、最大20局まで自動的にプリセットされます。

放送局を一つずつ記憶させる(プリセット)

❶ 受信中にENTERキーを押す

途中で5秒以上放置すると、プリセットは中止されます。

"MEMORY"点灯(約5秒間)

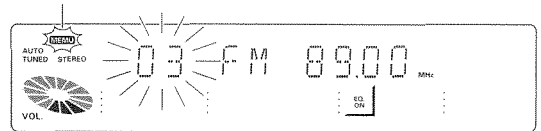
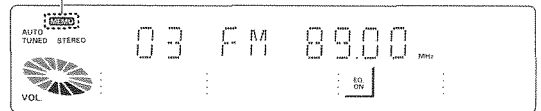
❷ 1〜40の"プリセットナンバー"を選ぶ

1 2 3
4 5 6
7 8 9
0 +10

リモコン

数字キーを押す順序は
"15"に記憶させるとき：+10 5
"40"に記憶させるとき：+10 +10 +10 +10 0

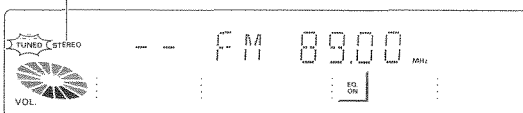
消灯

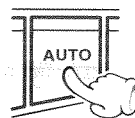
03 FM 89.00

- プリセットを続けるときは、手順❶,❷を繰り返します。
- 同じ番号を重ねて記憶させると、新しい設定内容に変更されます。

放送バンドの表示

受信すると"TUNED"が点灯

ステレオ受信時に点灯

周波数の表示

- 押したままにすると、約0.5秒間隔で放送局をスキップします。

選局方法の切り換えについて

押すたびに切り換わります。
① "AUTO"点灯 (オート選局)
② 消灯 (マニュアル選局)

電波が弱く、雑音が多いときはマニュアル選局にします。(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信となります)

- 通常はAUTO(オート選局)にしておきます。

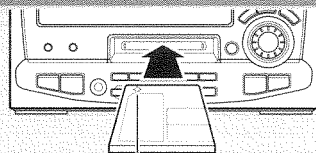
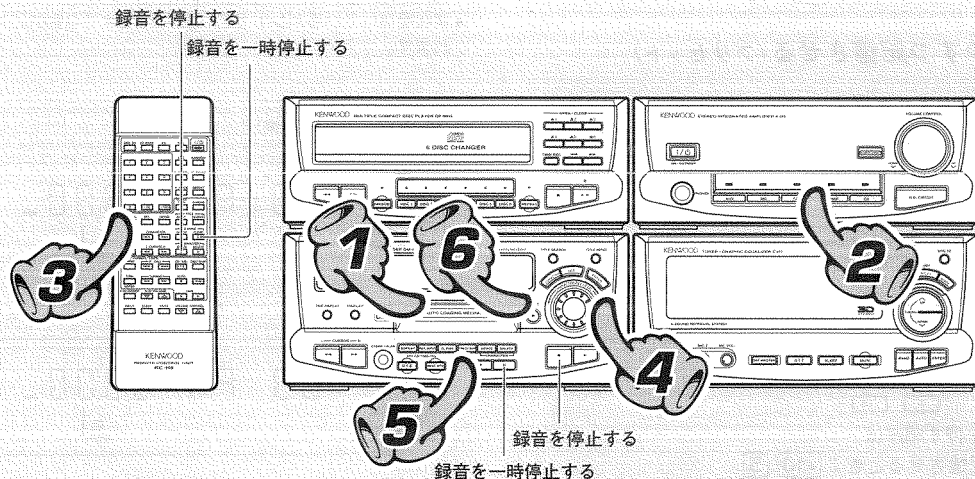
ミニディスク

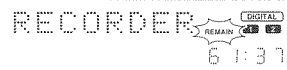
MDに録音する

本機では、モノラルモードでの録音はできません。

MDの録音には、CDのデジタル信号がそのまま録音される"デジタル録音"と、放送などのアナログ信号をデジタルに置き換えてから録音る"アナログ録音"があります。

アナログ録音の際、音にイコライザーやSRS 3Dの効果をかけると、効果のかかった音で録音できます。

→62, →63

1. 録音の準備をする

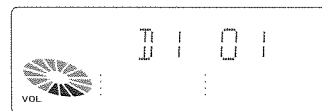
❶ ミニディスクの誤消去防止つまみを録音可能な状態にする →75
❷ ミニディスクを入れる
❸ 録音可能時間を確かめる →27

録音可能の残り時間の表示 (REMAIN表示のとき)

2. 何を録音するか選ぶ

AUX：デジタル2またはアナログ録音
MD：デジタル2のみ →32
TAPE： アナログ録音のみ
放送： アナログ録音のみ
CD：デジタル1またはアナログ録音

CDをアナログ録音したいとき
"REC INPUTキーの使いかた" →32

CDのデジタル録音のときは手順5へ

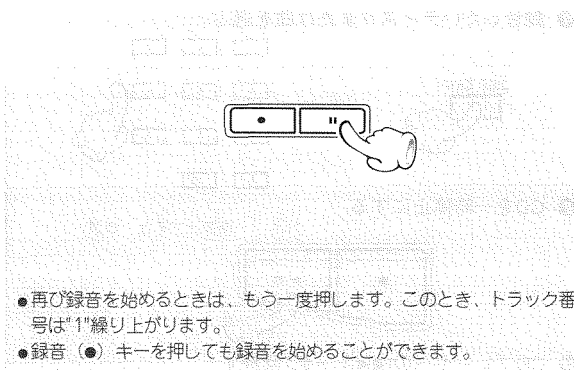
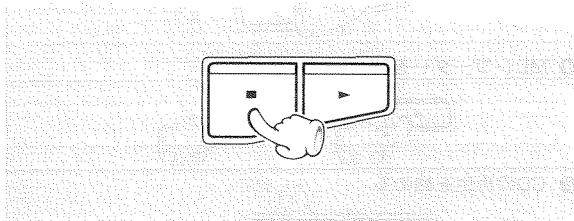
録音したい入力ソース（図はCDの例）の表示にします

- すでにCDやMDが入っているときは、再生が始まりますので停止（■）キーを押して止めてください。
- カセットデッキ（別売）から録音する場合は、付属の取扱説明書"テープを聴く"をお読みください。

3. 曲番号の付け方を選ぶ（アナログ録音のみ）

通常はAUTO（"MANUAL"表示消灯）にしておきます。
"AUTO/MANU.キーの使いかた" →32

MDの録音中は、CT-G90（サイバータイトラー；別売）上でのタイトル入力はできません。

録音を一時停止する

●再び録音を始めるときは、もう一度押します。このとき、トラック番号は"1"繰り上がります。
●録音（●）キーを押しても録音を始めることができます。

録音を停止する

ディスプレイのメッセージについて

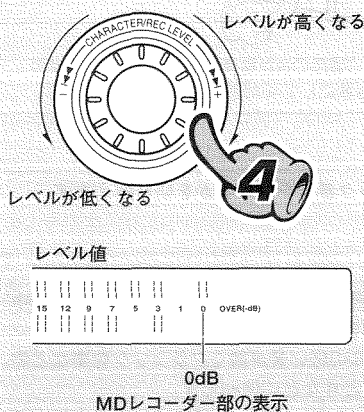
ディスプレイに下記の文字が表示されたとき、録音はできません。

"DISC FULL"（ディスク フル）：ミニディスクが一杯になっている。
➡不要な曲を消す。 →60
"PROTECTED"（プロテクテッド）：誤消去防止つまみが開いている。
➡閉める。 →75
"UNRECORDABLE"（アンレコーダブル）：再生専用ミニディスクである。
➡録音用ミニディスクを入れる。 →76

サンプリング周波数について

通常、デジタル信号には次の三つの種類があり、これはサンプリング周波数と呼ばれます。サンプリング周波数はデジタル機器の種類によって、以下のように分かれています。

48 kHz: DATの標準モード、BSチューナーのBモード放送等。
44.1 kHz: DATの標準モード、CD、MD等。
32 kHz: DATの標準モードおよび長時間モード、BSチューナーのAモード放送等。

本機は、サンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、32kHz、48kHzのデジタル信号を44.1kHzに変換して録音できます。

4. 録音レベルの調節をする（アナログ録音のみ）

❶ 録音するソースを再生する
❷ 録音（●）キーを押した後、一時停止（❚❚）キーを押す
❸ 録音レベルを調節する

●−∞dB〜0dB（81ステップ）の範囲で調節できます。
●レベルメーターの0dBが、ときどき点灯するように調節します。
●レベルメーターの赤い部分が点灯したときは、レベルを下げてください。

5. 録音をはじめる

❶ 録音（●）キーを押す
❷ 録音する音楽ソースを再生する

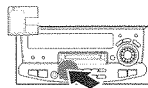
●録音中はEJECT（イジェクト）（⏏）キーは受け付けません。
●CDの再生と同時に録音を始めるときは、"CDから録音するときのポイント"をお読みください。 →32

6. 録音終了後、ミニディスクを取り出す

録音が終わったら、必ずミニディスクを取り出してください。

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"（ディスク ライティング）表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

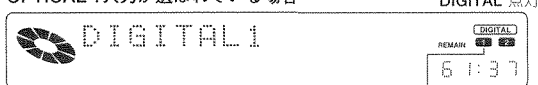
REC INPUTキーの使いかた

入力切換がCDのときは、録音を始めると自動的にデジタル録音となり、録音レベルを調節する必要がありません。
デジタル録音したMDの再生レベルが適当でない（大きすぎる、または小さすぎる）とき、REC INPUTキーを使ってアナログ録音にすると、録音レベルを調節することができるので、最適なレベルで録音し直すことができます。

入力切換がCDの場合
押すたびに切り換わります。
① "DIGITAL1"：OPTICAL 1端子に接続された機器からのデジタル録音
② "ANALOG"：アナログ録音

入力切換がＣＤ以外の場合
押すたびに切り換わります。
① "DIGITAL2"：OPTICAL 2端子に接続された機器からのデジタル録音
② "ANALOG"：アナログ録音

- 入力切換がMDの場合は、"DIGITAL2"以外選べません。
- 入力切換がTAPE、放送の場合は、"ANALOG"以外選べません。

アナログ入力が選ばれている場合

OPTICAL 1入力が選ばれている場合　"DIGITAL"点灯

選ばれている入力側の枠の部分が赤く点灯します。

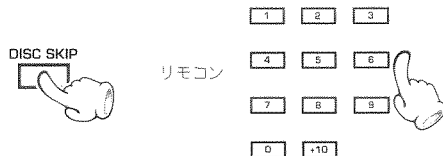
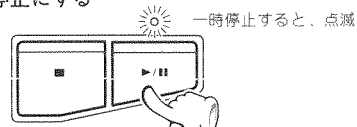
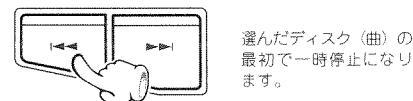
CDから録音するときのポイント

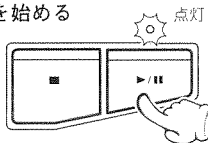
次の手順で録音を始めると、録音（MD）と再生（CD）が同時にスタートするので、音切れの心配がありません。

❶ 録音したいディスクまたは曲を選ぶ

❷ CDを一時停止にする

❸ CDプレーヤーの⏮キーを1回押す

選んだディスク（曲）の最初で一時停止になります。

❹ MDレコーダーを録音一時停止にする

❺ CDの再生を始める

- アナログ録音の場合、曲の冒頭の音が録音できないことがあります。このときは、デジタル録音にしてください。

AUTO/MANU.キーの使いかた

アナログ録音時、トラック番号を自動的に付けて録音するか、録音中または録音後手動でトラック番号を付けるかを切り換えます。
トラック番号は再生時、曲の頭出しやプログラムのときなどに使用します。

AUTO
録音するときに、音のない部分が2秒以上続いた後、次の音が入ってくると、トラック番号を自動的に"1"繰り上げます。通常の録音時はこのモードにしておきます。1枚のCD全曲を録音する場合、このモードにします。また、クラシック音楽などで小さい音が続いたとき、トラック番号が"1"繰り上がる場合があります。付いてしまったトラック番号は、後で削除します。
このような音楽の場合は、MANUALで録音してください。

録音を始める前に選ぶ

MANUAL
自動的にトラック番号を繰り上げない状態で録音します。録音中または録音後、トラック番号を付けることができます。
ライブ演奏や極端にレベルの低い音が続くクラシック音楽などのミニディスクを録音するときなどに便利です。

押すたびに切り換わります。
① "MANU."消灯：AUTOモード
② "MANU."点灯：MANUALモード

- 録音中にTRACK EDITキーを押すと、その位置にトラック番号が付けられます。

1. CDの録音時に、CDの再生が始まるとトラック番号が"1"繰り上がる場合があります。これはCDのデジタル信号成分中に含まれる信号のためです。不要なトラック番号は"1曲消す（TRACK ERASE）または全曲消す（ALL ERASE）"を参照して削除してください。→60
2. AUTOモードで、1曲が極端に短いと、トラック番号が正確に繰り上がらない場合があります。

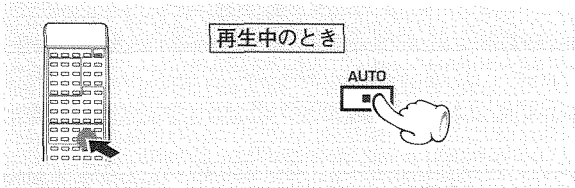
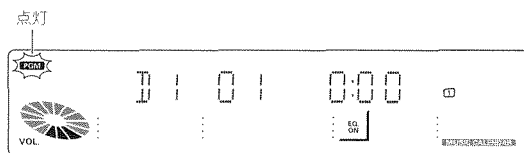
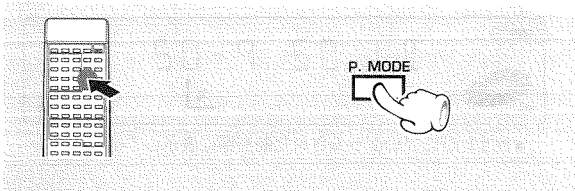
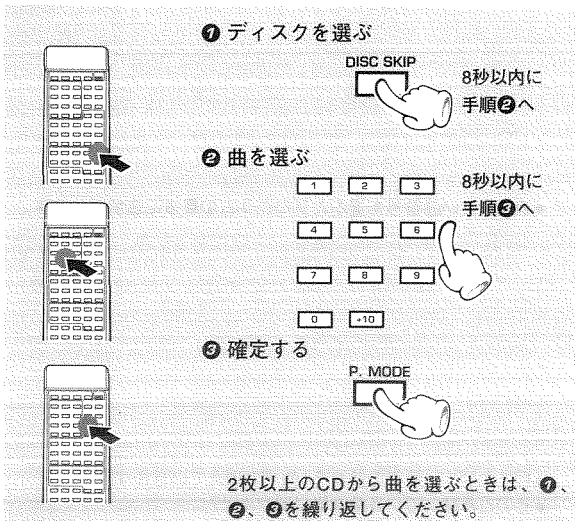
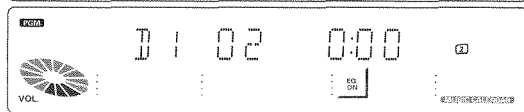
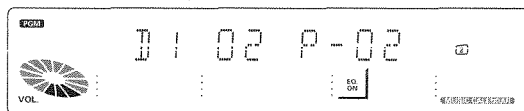
基礎編

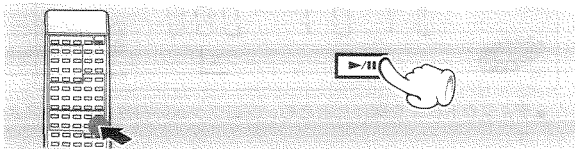
曲順を並べ替えて聴く（プログラム再生）

トレイに入れたディスクの中から好きな曲を、好きな曲順で聴くことができます。（最大32曲）

文字情報表示部はスペクトラム・アナライザー表示のときには見ることが出来ません。2重表示モード、または文字表示モードにしてください。 →13, →65

入力切換を"CD"にする

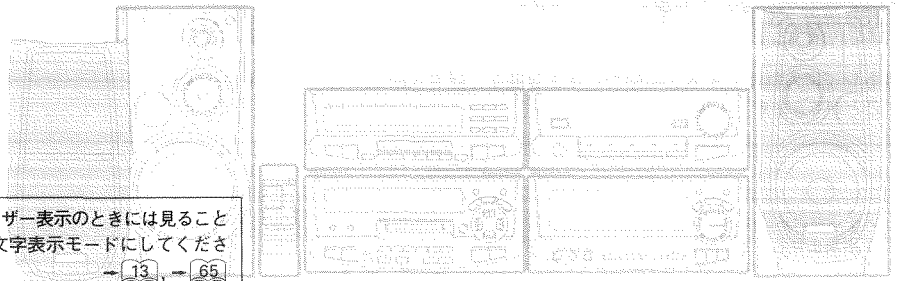
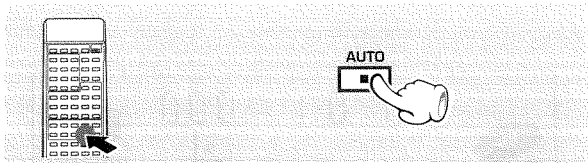
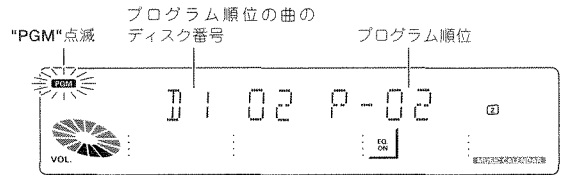
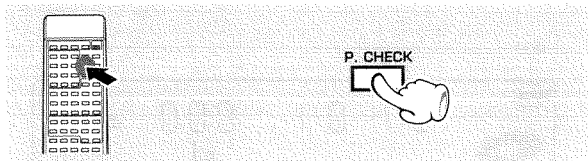
1 停止状態を確認する

2 "PGM"（プログラム）表示を点灯させる

3 聴きたい順に曲を選ぶ

- DISC（ディスク） 1～DISC（ディスク） 6キーでも選ぶことができます。
- 32曲まで選べます。"FULL（フル）"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- 1枚のCDを全曲プログラムするときは、ディスクを選んだ後、曲を選ばずにP.MODE（プレイモード）キーを押して確定します。。
- 間違えたときは、P.MODE（プレイモード）キーを押してプログラムモードを解除し、手順2からやり直してください。

数字キーを押す順序は
23曲目なら ... +10 +10 3
40曲目なら ... +10 +10 +10 +10 0

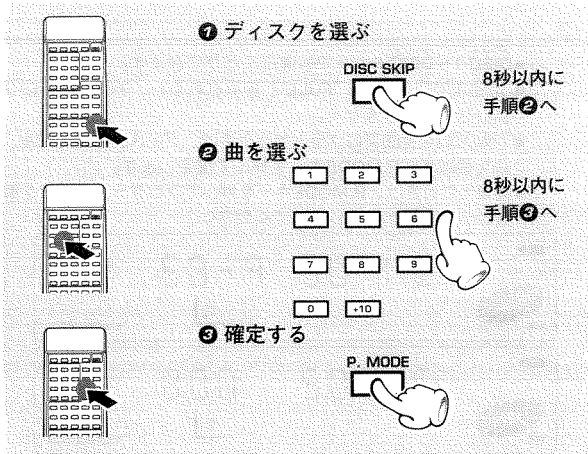
4 再生する

- 選んだ順（P-番号順）に再生します。
- 再生中に ⏮ または ⏭ キーを押すと、前後のプログラム曲へ飛び越します。
- 再生中に ⏮ キーを1回押すと、その曲の最初に戻ります。

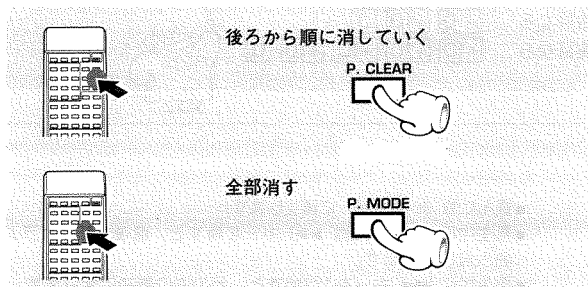
文字情報表示部はスペクトラム・アナライザー表示のときには見ることが出来ません。2重表示モード、または文字表示モードにしてください。
→13, →65

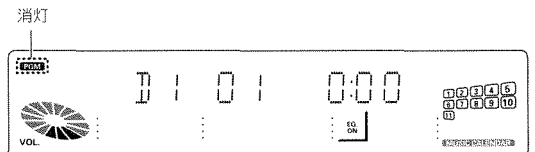
再生を止める

曲順を確かめる

"PGM"点滅　プログラム順位の曲のディスク番号　プログラム順位

●押すたびにプログラムされた曲を順に表示していきます。

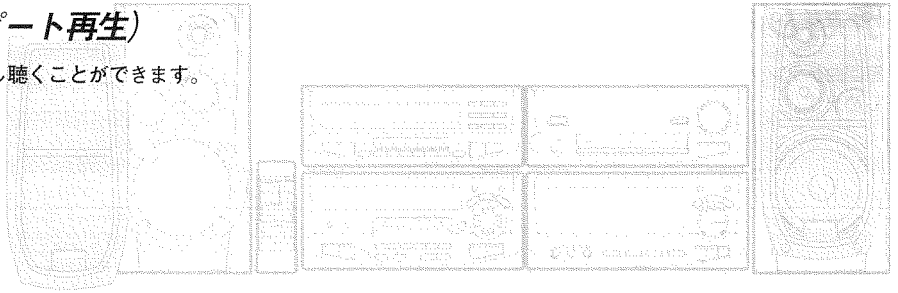
曲を追加する

●追加したい曲番号を選ぶとプログラムの最後に追加されます。

プログラムした曲を取り消すには

●押すたびに、最後の曲から1曲ずつ消えていきます。
●そのとき聴いている曲は取り消せません。

消灯

●ディスクトレイを開けたときも、プログラムの内容が全部消えます。

応用編

繰り返し聴く（リピート再生）

お気に入りの曲やディスクを繰り返し聴くことができます。

入力切換を"CD"にする

すべてのディスクを繰り返し聴く

繰り返し再生をやめるには

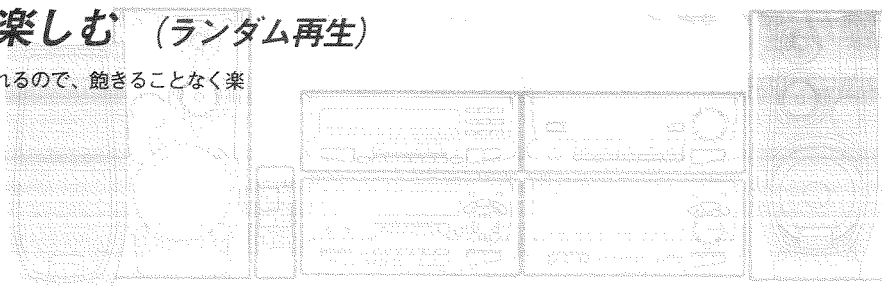
もう一度REPEATキーを押します。
- REPEAT表示が消灯し、CDプレーヤーのモードに従った再生に戻ります。

選んだ曲だけを繰り返し聴く

繰り返し再生をやめるには

もう一度REPEATキーを押します。
- REPEAT表示が消灯し、CDプレーヤーのモードに従った再生に戻ります。

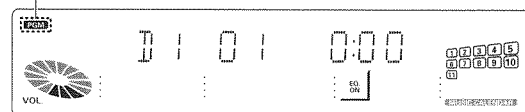
予期しない曲順を楽しむ（ランダム再生）

毎回曲がランダム（無作為）に選択されるので、飽きることなく楽しめます。

入力切換を"CD"にする

1 "PGM"表示の消灯を確かめる

"PGM"表示が点灯しているときは、P.MODEキーを押して消灯させてください。

P. MODE

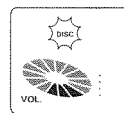
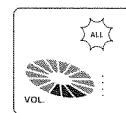
消灯を確かめる

2 RANDOMモードを選ぶ

DISC RANDOMを選ぶときは、先にディスクを選んでおいてください。

押すたびに切換わります。

① DISC RANDOM（点灯） 1枚のディスクをランダム再生する
② ALL RANDOM（点灯） .... 全てのディスクをランダム再生する
③ 通常の再生（消灯）

点灯

1枚のディスクをランダム再生するとき

全てのディスクをランダム再生するとき

- 全曲の再生が1回終わると停止します。
- REPEATキーを押すと、ランダム再生が繰り返されます。

曲の途中で別の曲を選ぶには

- ⏮キーを1回押すと、再生している曲の初めに戻ります。

ランダム再生をやめるには

- RANDOM表示が消灯し、再生中の曲から曲番順の再生になります。

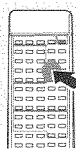
XM-3MD (J)

曲順を並べ替えて聴く (プログラム再生)

好きな曲を好きな順番にプログラムして聴くことができます。
(最大25曲)

MDの再生中は、CT-G90 (サイバータイトラー；別売) 上でのタイトル入力は、できません。

入力切換を"MD"にする

1 "PGM"表示を点灯させる

停止中に押す

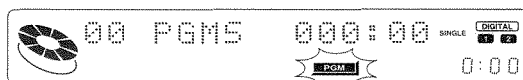
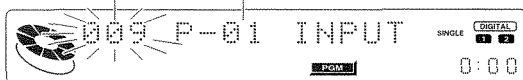
点灯

2 聴きたい順に曲番号を選ぶ

❶ 曲を選ぶ

選ばれた曲番号　プログラム順位

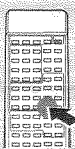
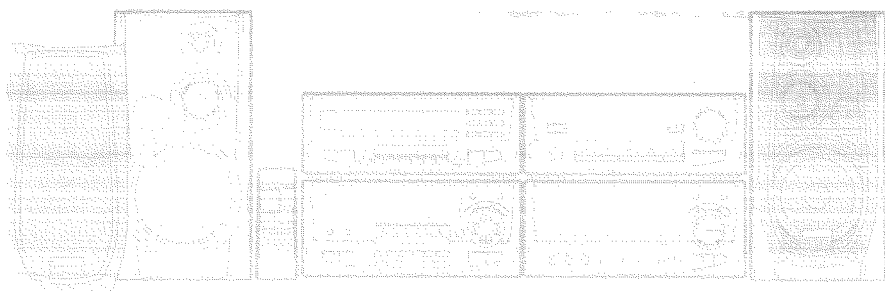
009 P-01 INPUT

❷ 確定する

2曲以上を選ぶときは、❶と❷を繰り返してください。

数字キーを押す順序は
23曲目なら：+10 +10 3
40曲目なら：+10 +10 +10 +10 0

- 25曲まで選べます。それ以上は選べません。
- 間違えたときはP.CLEAR(プログラム クリアー)キーを押してから選び直してください。
- 極端に短い曲は、プログラムできません。
- プログラム時間の合計が200分以上になると、時間表示が"---:--"になります。

3 再生する

- 選んだ順 (P-番号順) に再生します。
- 再生中に、⏮ または ⏭ キーを押すと、押した方向へ飛び越します。

再生を止めるには

応用編

曲を追加するには

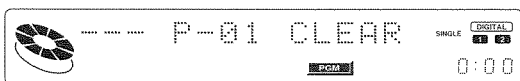
●追加したい曲番号を選ぶと、プログラムの最後に追加されます。

曲順を確かめるには

"PGM"表示点滅

●押すたびに、プログラムされた曲を順に表示していきます。

プログラムした曲を取り消すには

取り消された後の表示

(P-01が取り消されたとき)

●押すたびに、最後の曲から1曲ずつ消えていきます。

●プログラムの内容が、全部消えます。

XM-3MD (J)

繰り返し聴く (リピート再生)

MDの再生中は、CT-G90(サイバータイトラー;別売)上でのタイトル入力は、できません。

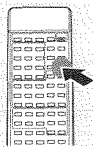
入力切換を"MD"にする

選んだ曲だけを繰り返すには

❶ "曲順を並べ替えて聴く(プログラム再生)"の手順❷まで行ない、聴きたい曲をプログラムする →37

❷ "REPEAT"表示を点灯させる

❸ 再生する

"REPEAT"、"PGM"点灯

- 選んだ曲全部を繰り返します。
- 1曲だけ選んだ場合は、その曲だけを繰り返します。

繰り返し再生を止めるには

もう一度、REPEATキーを押します。

- "REPEAT"表示が消灯し、プログラム再生になります。

ディスク全体を繰り返すには

❶ "PGM"表示を消灯させる

停止状態で押す

❷ "REPEAT"表示を点灯させる

❸ 再生する

"PGM"消灯、"REPEAT"点灯

繰り返し再生を止めるには

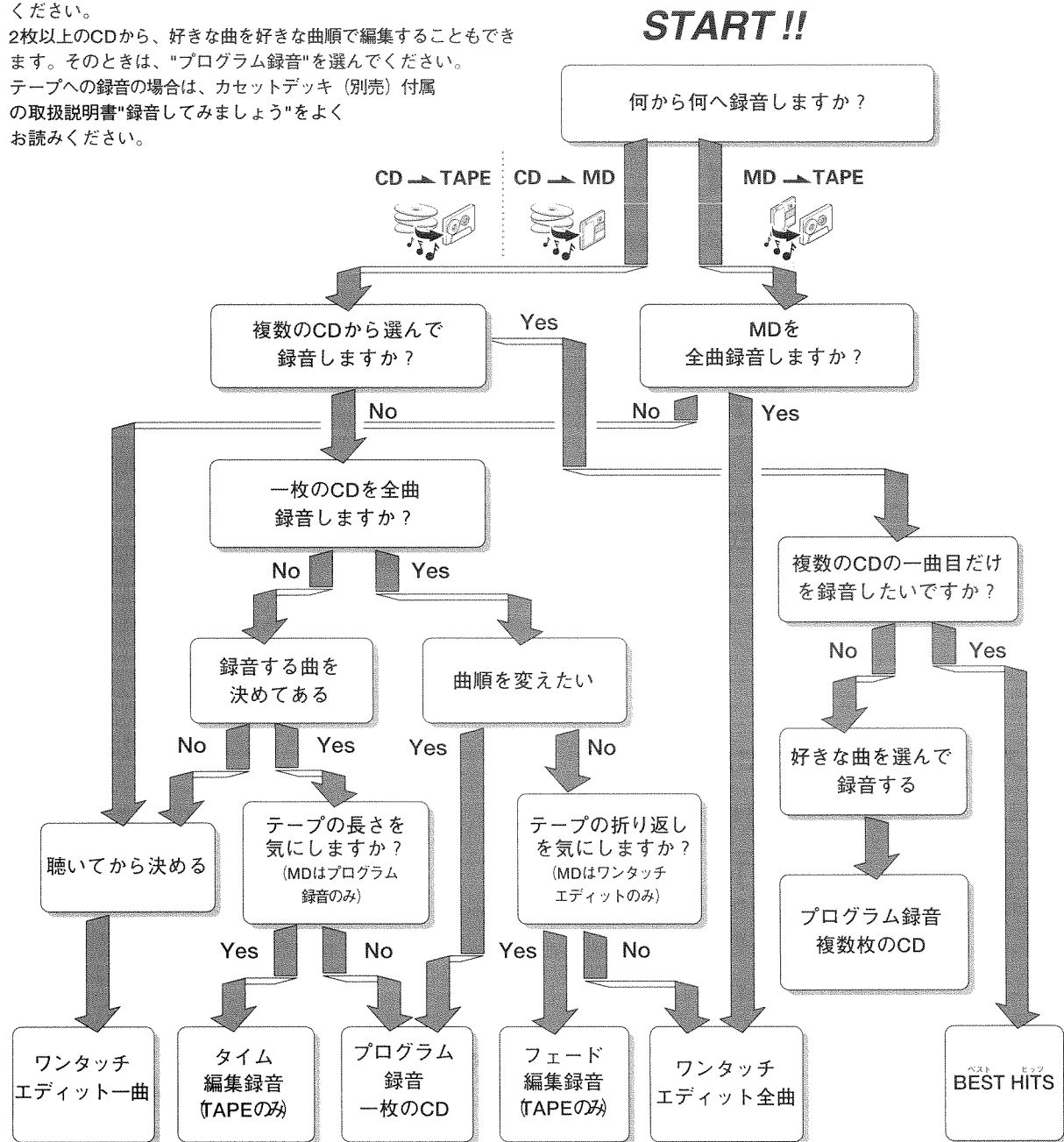
もう一度、REPEATキーを押します。

- "REPEAT"表示が消灯し、曲番号順の再生になります。

XM-3MD (J)

録音のタイプを選ぶ

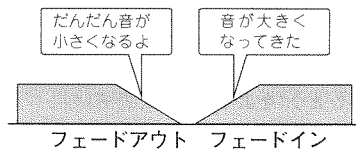
本章では、カセットデッキ（別売）と組み合わせた場合を考慮して、カセットデッキの録音機能も説明しています。

便利な録音機能が、多数用意されています。用途に応じて選んでください。
2枚以上のCDから、好きな曲を好きな曲順で編集することもできます。そのときは、"プログラム録音"を選んでください。
テープへの録音の場合は、カセットデッキ（別売）付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

便利な機能

TWIN RECORDING機能：CDからMDとテープへ同時に録音する機能です。CD1枚ぶんを全曲、CDの曲順で録音します。 → 44

CCRSとは　（カセットデッキ（別売）のみ）

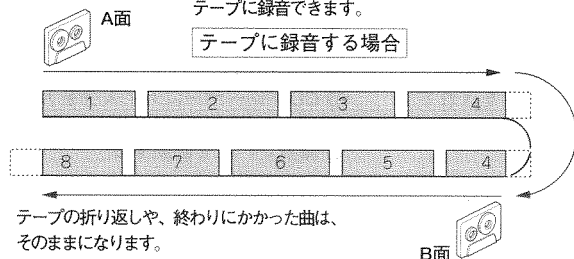
CDをワンタッチでカセットテープに録音する機能です。
CCRSキーを押すと、約60秒間で（CDの内容によって差があります）、CDの内容と、使用するテープの特性を調べて、録音レベルが自動的に設定され、録音が始まります。録音が終了すると、自動的に停止します。電源をオフ（スタンバイ）にしたり、CDを停止すると設定は解除されます。

フェードイン／フェードアウトとは

フェードアウト　：だんだん音を小さくして曲が終わること
フェードイン　　：だんだん音を大きくして曲が始まること

A　1枚のCD、MDをワンタッチで録音する
（ワンタッチエディット全曲録音）　→42

CD1枚、またはMDの全曲を、ワンタッチで録音します。CDからはテープまたはMDへ、MDからはテープに録音できます。

テープに録音する場合

テープの折り返しや、終わりにかかった曲は、そのままになります。

B　いい曲があれば、その曲だけ録音する
（ワンタッチエディット1曲録音）　→43

CDやMDを聴いているとき、ワンタッチで、今聴いている曲だけを、始めから録音できます。
CDからはテープまたはMDへ、MDからはテープに録音できます。
初めて聴くディスクから、気に入った曲だけを選んで録音するときに便利です。

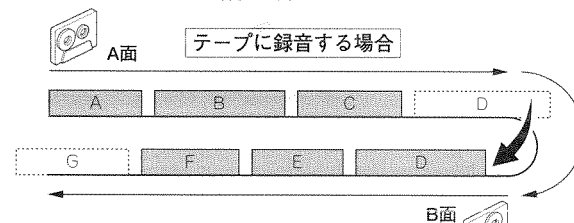
C　1曲目だけを集めたMDまたはテープを作る
（BEST HITS機能）　→45

セットされている全てのCDの1曲目を、順にMDまたはテープへ録音する機能です。

D　1枚または、複数枚のCDを録音する　（CD→MD）→46　（CD→TAPE）→47
（プログラム録音）

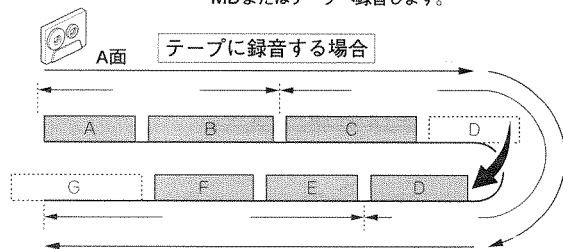
1枚のCDから

プログラムした曲順でCDからMDまたはテープへ録音します。

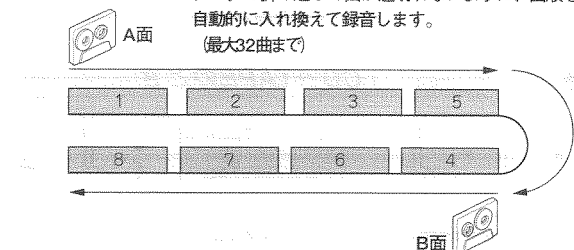
テープに録音する場合

テープの折り返しや、終わりにかかった曲は消去され、裏面はその曲の最初から録音します。
（最大32曲まで）

2枚以上のCDから

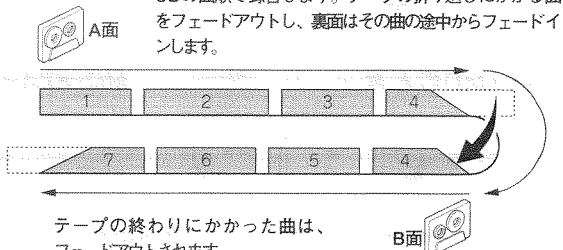
複数のCDから、好きな曲だけを選んでCDからMDまたはテープへ録音します。

テープに録音する場合

テープの折り返しや、終わりにかかった曲は消去され、裏面はその曲の最初から録音します。
（最大32曲まで）

E　テープの長さに応じて曲順を入れ替える
（CD→TAPEのみ）（タイム編集録音）　→48

テープの折り返しで曲が途切れないように、曲順を自動的に入れ換えて録音します。
（最大32曲まで）

F　テープの折り返しでフェードアウト／フェードインする
（CD→TAPEのみ）（フェード編集録音）　→50

CDの曲順で録音します。テープの折り返しにかかる曲をフェードアウトし、裏面はその曲の途中からフェードインします。

テープの終わりにかかった曲は、フェードアウトされます。

1枚のCD、MDをワンタッチで録音する (ワンタッチエディット全曲録音)

CD(1枚)またはMDの全曲を、ワンタッチで録音できます。
CDからはテープまたはMDへ、MDからはテープへ録音します。
テープへの録音の場合は、カセットデッキ(別売)付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

MDからTAPEへの録音中は、CT-G90(サイバータイトラー；別売)上でのタイトル入力は、できません。

1 録音の準備をする

CD→MDのとき

❶ MDレコーダーに、録音可能なディスクを入れる
❷ 入力切換キーで"CD"を選ぶ
❸ CDプレーヤーにディスクを入れる →22

MD→TAPE(テープ)のとき

❶ テープを入れる
❷ テープの動く向き(◄ ►)を確かめる
❸ "⊐"(両面録音)を選ぶ
❹ ドルビーノイズリダクションを選ぶ
❺ 入力切換キーで"MD"を選ぶ
❻ MDレコーダーにディスクを入れる →24
❼ 録音レベルを調整する

CD→TAPE(テープ)のとき

❶ テープを入れる
❷ テープの動く向き(◄ ►)を確かめる
❸ "⊐"(両面録音)を選ぶ
❹ ドルビーノイズリダクションを選ぶ
❺ 入力切換キーで"CD"を選ぶ
❻ CDプレーヤーにディスクを入れる →22
❼ 録音レベルを調整する

2 録音を始める

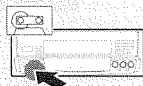
CDプレーヤー、MDレコーダーは、必ず停止状態にしてください。

CD→MDのとき

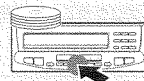
❶ 目的のディスクを選ぶ

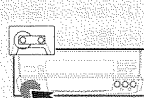
❷ 録音を始める

CDの再生が始まる前に、押す

MD→TAPEのとき

停止中に押す

CD→TAPEのとき

❶ 目的のディスクを選ぶ

DISC 1 | DISC 2 | DISC 3 | DISC 4 | DISC 5

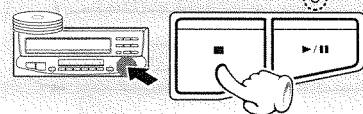
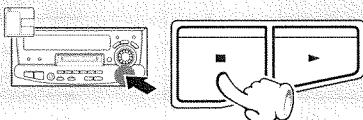
❷ 録音を始める

CDの再生が始まる前に、押す

メモ 再生が始まってからO.T.E.キーを押すと、その曲だけ録音されます。 →43

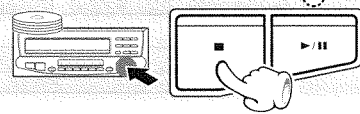
● テープに録音する場合、テープの折り返し部分では、ガイドテープのぶんだけ曲が録音されません。曲が途切れないように録音したいときは、他の録音方法をご利用ください。

録音を途中でやめるには

CD→MDのとき

消灯

MD→TAPEのとき

CD→TAPEのとき

消灯

● 録音、再生ともに停止します。

いい曲があれば、その曲だけ録音する (ワンタッチエディット1曲録音)

CDやMDを聴いているとき、ワンタッチで今聴いている曲だけを最初から録音できます。CDからはテープまたはMDへ、MDからはテープに録音できます。
テープへの録音の場合は、カセットデッキ(別売)付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

MDからTAPEへの録音中は、CT-G90(サイバータイトラー;別売)上でのタイトル入力は、できません。

1 録音の準備をする

CD→MDのとき

❶ MDレコーダーに、録音可能なディスクを入れる
❷ 入力切換キーで"CD"を選ぶ
❸ CDプレーヤーにディスクを入れる

→22

MD→TAPEのとき

❶ テープを入れる
❷ テープの動く向き(◄ ►)を確かめる
❸ "⊐"(両面録音)を選ぶ
❹ ドルビーノイズリダクションを選ぶ
❺ 入力切換キーで"MD"を選ぶ
❻ MDレコーダーにディスクを入れる

→24

❼ 録音レベルを調整する

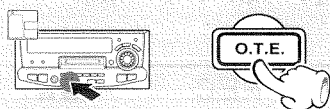
CD→TAPEのとき

❶ テープを入れる
❷ テープの動く向き(◄ ►)を確かめる
❸ "⊐"(両面録音)を選ぶ
❹ ドルビーノイズリダクションを選ぶ
❺ 入力切換キーで"CD"を選ぶ
❻ CDプレーヤーにディスクを入れる

→22

❼ 録音レベルを調整する

2 CDまたはMDを再生する

3 録音したい曲の再生中に、O.T.E.(ワンタッチエディット)キーを押す

CD→MDのとき

再生中に押す

MD→TAPEのとき

再生中に押す

CD→TAPEのとき

再生中に押す

●再生中の曲の最初に戻り、録音が始まります。

録音が終了すると.....

MDレコーダー :停止します。
カセットデッキ :約4秒の無録音部分を作ってから停止します。

再生側の機器(CDプレーヤーまたはMDレコーダー)は、一時停止になります。

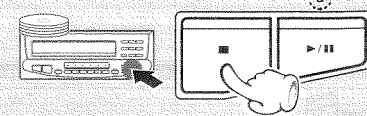
他の曲を録音するには.....手順 2 , 3 を繰り返してください。

録音を途中でやめるには

CD→MDのとき

消灯

MD→TAPEのとき

CD→TAPEのとき

●録音、再生ともに停止します。

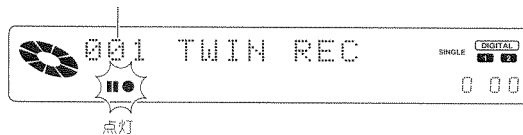
録音の準備が必要です

→42

TWIN RECORDING機能

CDから、MDとテープに同時に録音する機能です。CD 1 枚ぶんの全曲を、CDの曲順で録音します。
テープへの録音の場合は、カセットデッキ（別売）付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

●MDレコーダーの録音入力は、自動的に"DIGITAL1"になります。

テープデッキ録音レベル調整中のMDレコーダーの表示

- 約60秒間で（CDの内容によって差があります）録音レベルの調整が行なわれた後、録音が始まります。
- テープの折り返しで曲が途切れないように、自動的に処理が行われます。この処理の関係で、MD上の曲間に、ごく短い無音部分が挿入される場合があります。

録音を途中でやめるには

CDプレーヤーの停止（■）キーを押すと、録音、再生ともに停止します。

1. CDプレーヤーの再生中にTWIN RECキーを押すと、再生は中止され、CCRS設定（編集録音準備）が始まります。
2. 編集録音するときの録音レベル自動設定には、セットされているCDの、録音レベルの設定に適した部分を利用しています。
3. デッキが片面録音（⇌）にセットされている場合、テープ折り返し部分の処理は、おもて面だけになります。

1曲目だけを集めたMD、テープを作る (BEST HITS機能)

セットされている全てのCDの1曲目を、トレイ1から順にMDまたは、テープへ録音します。
テープへの録音の場合は、カセットデッキ(別売)付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

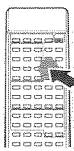
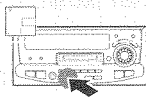
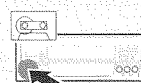
1 録音の準備をする

CD→MDのとき

❶ 録音可能なミニディスクを入れる
❷ 入力切換キーで"CD"を選ぶ
❸ CDプレーヤーにディスクを入れる
(CDは録音したい順に、トレイ1から入れます) →22

CD→TAPEのとき

❶ テープを入れる
❷ テープの動く向き(◄ ►)を確かめる
❸ "⊃"(両面録音)を選ぶ
❹ ドルビーノイズリダクションを選ぶ
❺ 入力切換キーで"CD"を選ぶ
❻ CDプレーヤーにディスクを入れる →22
❼ 録音レベルを調整する

2 "PGM"表示を消灯させる

3 BEST HITSキーを押す

停止中に押す

停止中に押す

●BEST HITS機能で録音中に、いずれかのディスクトレイを開けると、録音は中止されます。

録音を途中でやめるには

CDプレーヤーの停止(■)キーを押すと、録音、再生ともに停止します。

1枚または、複数枚のCDを録音する（CD→MD） （プログラム録音）

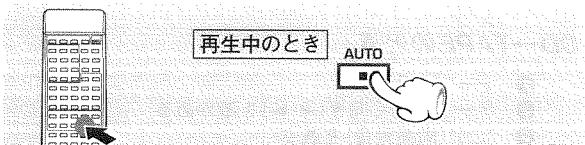
6枚のディスクの中から好きな曲を好きな順番でプログラムしたものを1枚のMDに収録することができます。

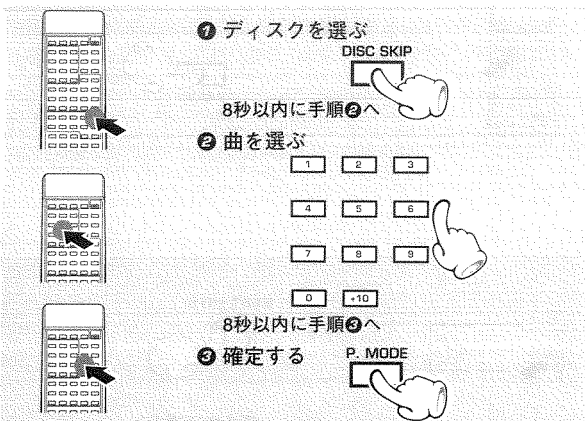
音にイコライザーやSRS 3Dなどの効果をかけると、効果のかかった音で録音できます。（CDからMDへのデジタル録音を除く） →62, →63

文字情報表示部はスペクトラム・アナライザー表示のときには見ることが出来ません。2重表示モード、または文字表示モードにしてください。 →13, →65

録音の準備が必要です →42

1 停止状態を確認する

再生中のとき

2 "PGM"（プログラム）表示を点灯させる

3 録音する順に曲を選ぶ

2枚以上のCDから編集するときは、❶、❷、❸を繰り返してください。

編集した内容を確かめる →49
編集した内容を取り消す →49

- 使用するMDの録音時間を超えないように選んでください。
- 32曲まで選べます。"FULL（フル）"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- 間違えたときは、P.CLEAR（プログラム クリアー）キーを押してから、選び直してください。
- ディスクを選んだ後、曲を選ばずにP.MODE（プレイモード）キーを押すと、ディスクの全曲がプログラムされますので、O.T.E.機能は働きません。手順1からやり直してください。
- REPEAT（リピート）キーは働きません。

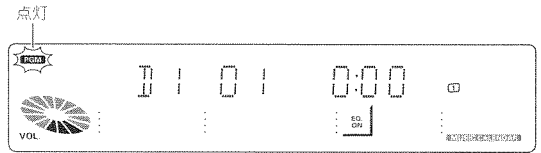
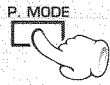
4 録音をスタートする

- CDがトレイ内で交換中は、MDの録音は一時停止しています。
- MDの収録時間を超えてプログラムされた曲は、途中で途切れますのでご注意ください。

録音が終わったら、必ずディスクを取り出してください。

XM-3MD (J)

1枚または、複数枚のCDを録音する(CD→TAPE) (プログラム録音)

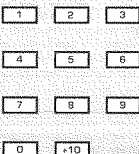
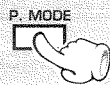
6枚のディスクの中から好きな曲を好きな順番でプログラムしたものをテープに収録することができます。
カセットデッキ(別売)付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

文字情報表示部はスペクトラム・アナライザー表示のときには見ることが出来ません。2重表示モード、または文字表示モードにしてください。 →13, →65

録音の準備が必要です →42

1 "PGM"表示を点灯させる

2 録音する順に曲を選ぶ

2枚以上のCDから編集するときは、❶、❷、❸を繰り返してください。

編集した内容を確かめる →49
編集した内容を取り消す →49

- 使用するテープの録音時間を超えないように選んでください。
- 32曲まで選べます。"FULL"と表示されると、それ以上プログラムは受け付けません。
- 間違えたときは、P.CLEARキーを押してから、選び直してください。
- ディスクを選んだ後、曲を選ばずにP.MODEキーを押すと、ディスクの全曲がプログラムされますので、CCRS機能は働きません。手順1からやり直してください。
- REPEATキーは働きません。

3 編集録音をスタートする

- 約60秒間で(CDの内容によって差があります)録音レベルの調整が行われた後、録音が始まります。
- 2枚以上のCDから編集する場合、ディスクが切り換わるたびに、CCRS設定が行われます。

応用編

1. CDプレーヤーの再生中にCCRSキーを押すと、再生は中止され、CCRS設定(編集録音準備)が始まります。
2. クラシックなど、1曲が長くてテープ片面に収まらない場合は、編集録音はできません。
3. デッキが片面録音(⇀)にセットされている場合、テープ折り返し部の処理は、おもて面だけになります。

テープの長さに応じて曲順を入れ替える(CD→TAPEのみ)(タイム編集録音)

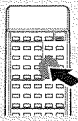
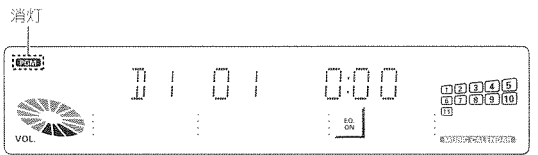
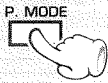
テープの録音時間を指定すると、テープの折り返しや終端で曲が途切れないように、自動的に曲順を入れ換えて録音します。
カセットデッキ(別売)付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

文字情報表示部はスペクトラム・アナライザー表示のときには見ることが出来ません。2重表示モード、または文字表示モードにしてください。→13、→65

録音の準備が必要です →42

1 "PGM"(プログラム)表示を消灯させる

❶ 入力切換キーで"CD"を選ぶ
❷ "PGM"(プログラム)表示を消灯させる

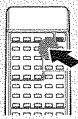
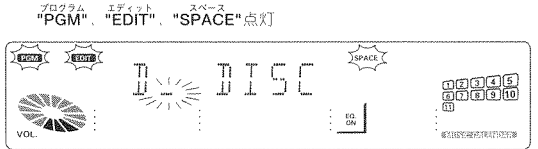
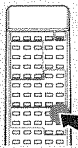
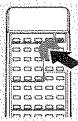
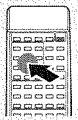
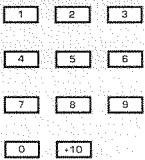
消灯

2 "EDIT"(エディット)表示を点灯させる

8秒以上放置すると、編集は中止されます。

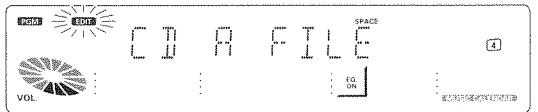
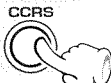
"PGM"(プログラム)、"EDIT"(エディット)、"SPACE"(スペース)点灯

3 ディスクとテープの設定をする

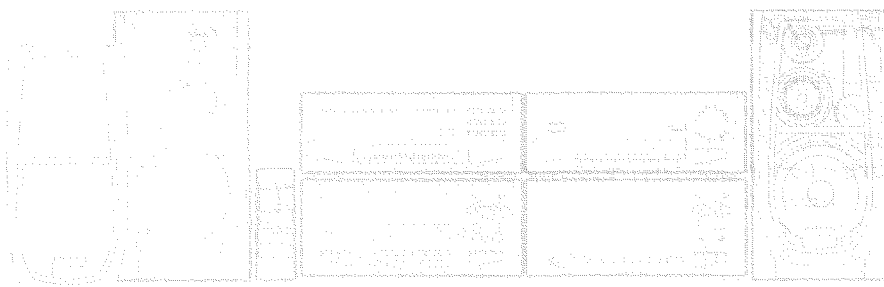
❶ ディスクを選ぶ
8秒以内に手順❷へ

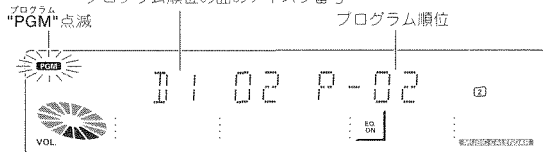
❷ EDIT(エディット)キーを押す
8秒以内に手順❸へ

❸ テープの録音時間を指定する

数字キーを押す順序は:
30分テープ (C-30) なら.... +10 +10 +10 0
46分テープ (C-46) なら.... +10 +10 +10 +10 6

リモコンのTIME(タイム)/ENTER(エンター)キー(CD)を繰り返し押すと、46、54、60、90分テープを簡単に選べます。選んだあとは、EDIT(エディット)キーを押してから、手順 4 へ移ります。

- 録音時間は最大99分です。
- 32曲まで編集録音できます。
- A面、B面の自動編集が行われます。編集が終了すると、"EDIT"(エディット)の表示が点滅から点灯に変わります。

4 編集録音をスタートする

"EDIT"(エディット)表示が点滅から点灯にかわってから押す。

- 約60秒間で(CDの内容によって差があります)録音レベルの調整が行なわれたのち、録音が始まります。
- 録音が終了すると、自動的に停止します。

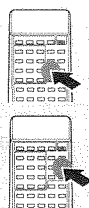
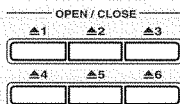
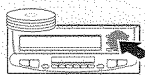
CDの内容(曲数や曲の長さ)とテープの録音時間など、条件の組み合わせにより、曲順を入れ換えても音の途切れが避けられない場合、その曲は録音されません。

編集した内容を確かめる （プログラム録音、タイム編集）

プログラム録音のチェックの例

- プログラム録音の場合：押すたびにプログラムされた曲を順に表示していきます。

タイム編集録音の場合："EDIT"表示が点滅し、編集された曲を順にミュージックカレンダー表示に表示します。

編集した内容を取り消す （プログラム録音、タイム編集）

方法1

P. MODE または P. CLEAR

停止中に押す

- プログラム録音のときは、P.MODEキーを押すと、編集内容の全てが消えます。P.CLEARキーを押すと、最後の曲から順に消えていきます。
- タイム編集のときは、P.MODEキー、P.CLEARキーのどちらを押しても、編集内容の全てが消えます。

方法2

OPEN / CLOSE
≜1 ≜2 ≜3
≜4 ≜5 ≜6

- プログラム録音のときは、ディスクトレイを開いた場合も、編集内容の全てが消えます。
- タイム編集のときは、編集したディスクを取り出した場合に限り、編集内容のすべてが消えます。

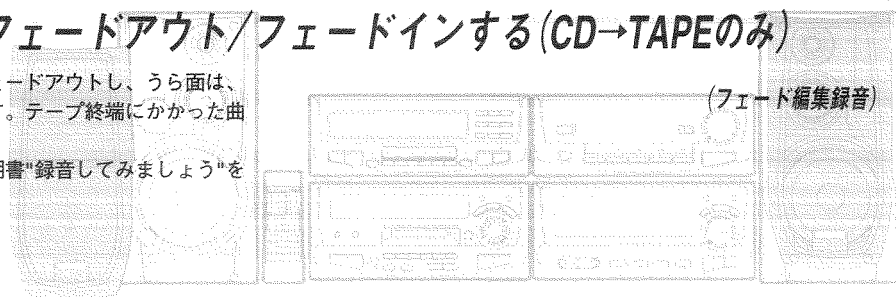
オートスペース機能について

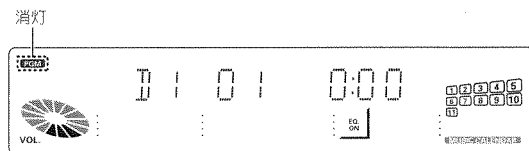
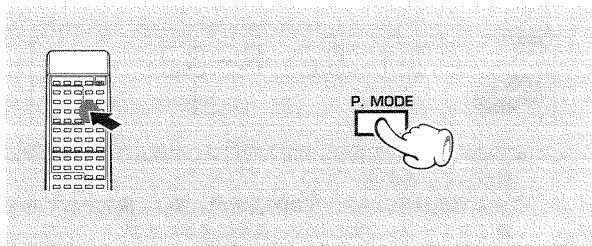
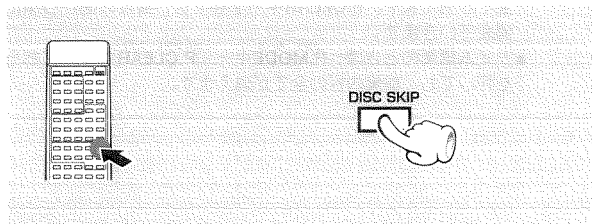
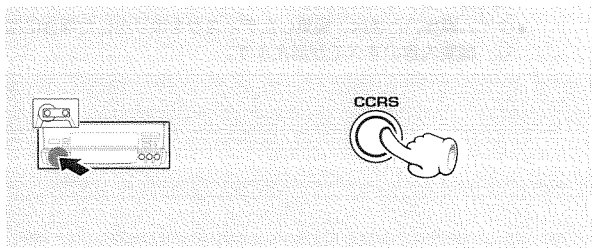
カセットデッキ（別売）を再生するときに便利な機能です。CDのタイム編集録音時に曲間に数秒間の無録音部分が作られます。この状態でカセットデッキに録音すれば、DPSS機能（無録音部分を探す）を使って、テープの頭出しが確実に行なえます。

- 録音時に"SPACE"インジケーターが点灯します。
- 前曲と次曲の演奏がつながっている場合（クラシックやライブ収録など）、別々の曲番号がついていれば無録音部分が作られます。

テープの折り返しでフェードアウト/フェードインする(CD→TAPEのみ)

(フェード編集録音)

テープの折り返しにかかった曲をフェードアウトし、うら面は、その曲の途中からフェードインします。テープ終端にかかった曲は、フェードアウトされます。
カセットデッキ(別売)付属の取扱説明書"録音してみましょう"をよくお読みください。

録音の準備が必要です →42

1 "PGM"(プログラム)表示を消灯させる

2 ディスクを選ぶ

3 編集録音をスタートする

- 約60秒で(CDの内容によって差があります)録音レベルの調整が行なわれた後、録音が始まります。
- CDの曲順で録音されます。
- 録音が終了すると、自動的に停止します。

1. CDプレーヤーの再生中に**CCRS**キーを押すと、再生は中止され、CCRS設定(編集録音準備)が始まります。
2. クラシックなど、1曲が長くてテープ片面に収まらない場合は、編集録音はできません。
3. デッキが片面録音(⊂⊃)にセットされている場合、テープ折り返し部の処理は、おもて面だけになります。
4. テープ終端にかかった曲がフェードアウトされるとき、前曲との曲間が短いと、前曲の最後も一部消去されることがあります。

XM-3MD (J)

編集機能のタイプを選ぶ

市販の録音用ミニディスクを使うと、録音後に各種の編集を行うことができます。再生専用の一般市販ソフトのミニディスクは編集できません。

編集をするときは、ミニディスクの誤消去防止つまみを"録音可能"側にしてください。 →75

MD規格上の機能制限について

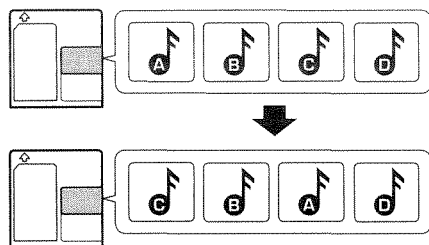
いくつかの機能には、MD規格上の制限があります。故障とお考えになる前に、ご確認くださいますよう、お願いいたします。 →79

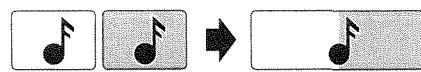
ミニディスクや曲にタイトルをつける →52

タイトルを変更、消去する →53

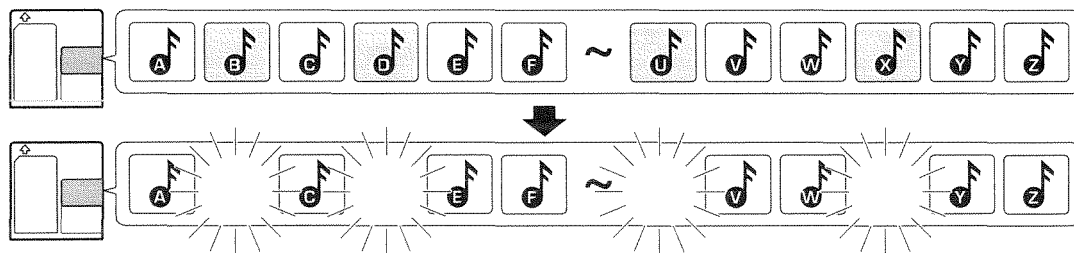
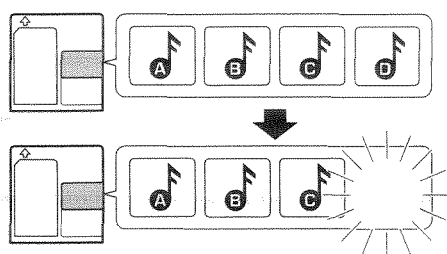
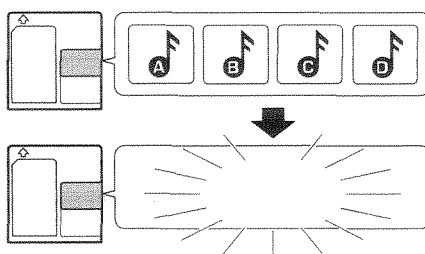
英数字に加えてカタカナの入力も可能です。ディスプレイに表示される文字の中から順に選んでいくだけの簡単な操作でタイトルを入力できます。入力したタイトルは、機種間の互換性がありますので、他のMDレコーダー（プレーヤー）にそのミニディスクをセットしたときも表示されます。
（タイトルの互換性には、表示可能な文字種や文字数など、一部の制限があります）

曲順の入れ替え

曲順をまとめて入れ替える（QUICK MOVE） →54
曲順を1曲づつ入れ替える（TRACK MOVE） →55

曲の分割と結合

曲の分割　曲を分ける（TRACK DIVIDE） →56

曲の結合　曲をつなぐ（TRACK COMBINE） →58

曲の消去

曲をまとめて消す（QUICK ERASE） →59

1曲消す（TRACK ERASE） →60

全曲消す（ALL ERASE） →60

ミニディスクや曲にタイトルをつける

ミニディスクや曲にタイトルをつけておくと、再生のとき表示されるだけでなく、タイトルサーチ（タイトルで曲を探す）が可能になります。入力したタイトルは、同じ手順で変更や消去ができます。

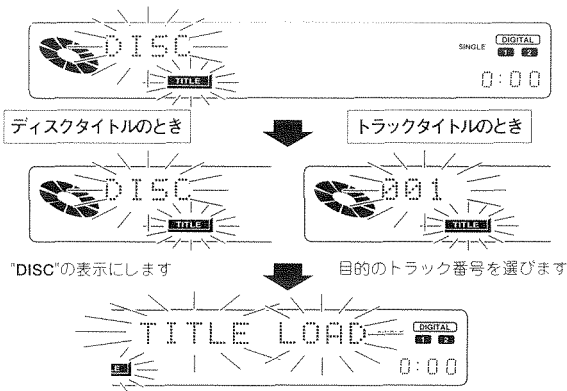
タイトル入力後、および編集後は必ずミニディスクを取り出してください。
説明文中のカッコ内のキー名称はリモコンキーのものです。

停止、または再生中に操作してください

1 タイトル入力状態にする

中止するときは、TITLE INPUTキーを押します。

曲にタイトルをつける際、手順❸の前に▶（再生）キーを押すと、その曲を聴きながらタイトルを入力することができます。但し、ディスクタイトルをつける場合は再生できません。

- ミニディスクから情報を読み込むため、少し時間がかかります。

2 タイトルを入力する

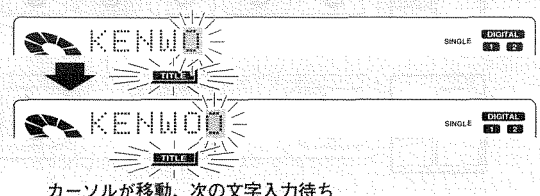
CHARACTER（TRACK EDIT/CHARA.）キーを押すたびに切り換わります。
- ①A~Zと、スペース（1文字分の空白）及びカンマ、ピリオド等
- ②a~zと、スペース
- ③0~9と、各種記号と、スペース
- ④カタカナと、スペース

- ジョグダイヤルを回すと表示がスクロールして、（同じグループ内の）すべての文字を選ぶことができます。

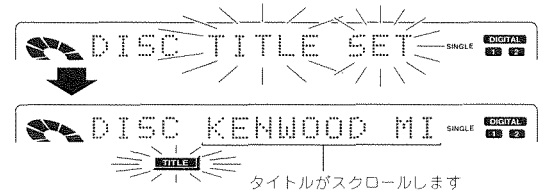
❸ 選んだ文字を確定する

❶~❸を繰り返して、タイトルを入力します。

ミニディスクタイトルの例

カーソルが移動、次の文字入力待ち

- 入力カーソルは、◀◀, ▶▶（L-CURSOL-R）キーで移動できます。

3 タイトル入力を実行する

タイトルがスクロールします

応用編

タイトルを変更、消去する

入力できる文字数について

ミニディスク全体で最大1792文字、1曲につき最大80文字まで入力できます。
スペース（1文字ぶんの空白）も、文字と同じ量のデータを必要とします。タイトル消去のときはスペースを入力するのではなく、文字の削除（CHARACTER DELETE）をご利用ください。

タイトル入力後、および編集後は必ずミニディスクを取り出してください。
説明文中のカッコ内のキー名称はリモコンキーのものです。

1 "ミニディスクや曲にタイトルをつける"の、手順 1 を行なう

→52

2 1文字ずつ変更または消去していく

❶ カーソルを目的の（変更する）文字に合わせる
❷ 文字グループを選ぶ

❸ 正しい文字を選ぶ
❹ 文字を確定する

タイトル入力部
KENWOOD MINIDIS
TITLE
0:00
カーソル

キー機能について

CHARACTER（TRACK EDIT/CHARA.）キー：
文字選択部に表示される文字のグループが切り換わります。

CHARACTER DELETE キー：
カーソルを合わせた文字が消去（削除）され、それよりも後ろの文字が1文字ぶん前に詰められます。続けて押す（または押したままにして繰り返し入力する）と、簡単にタイトルを消去できます。

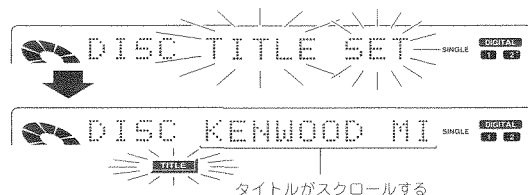
CHARACTER SPACE キー：
カーソルを合わせた文字の直前にスペース（1文字ぶんの空白）が入力（挿入）され、それよりも後ろの文字が1文字ぶん後ろに送られます。続けて押す（または押したままにして繰り返し入力する）こともできます。主にタイトルに文字を追加するとき、追加する場所を先に作っておくために使います。

手順❶～❹の繰り返しで、タイトルのすべての文字を変更できます。

- 変更するタイトルが長く、表示部に入らない場合、◀◀, ▶▶（L-CURSOL-R）キーを押していくと表示がスクロールし、それまで表示されていなかった部分が現われます。
- ジョグダイヤルを回すと表示がスクロールして、（同じグループ内の）すべての文字を選ぶことができます。

3 タイトルの変更、消去を実行する

❶ タイトルを書き込む
❷ 終了する

タイトルがスクロールする

曲順をまとめて入れ替える (QUICK MOVE)

並べたい順に曲（トラック番号）を選んで、まとめて曲順を入れ替えます。

QUICK MOVE中は、CT-G90（サイバータイトラー；別売）上でのタイトル入力は、できません。

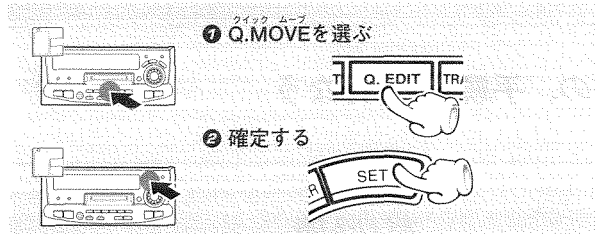
1回の処理で入れ替えられるのは、連続する40曲の範囲です。

説明文中のカッコ内のキー名称はリモコンキーのものです。

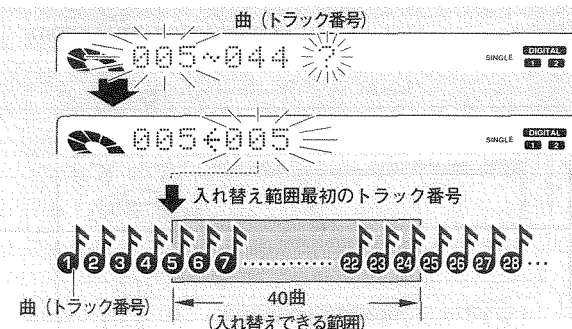
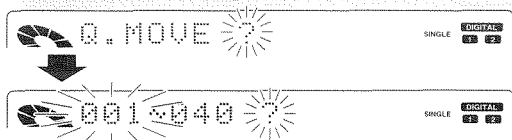
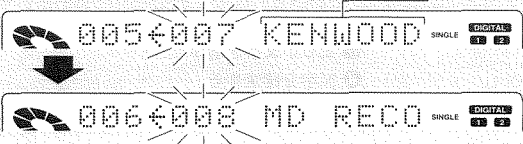
停止中に操作してください

1 Q.MOVEを選ぶ

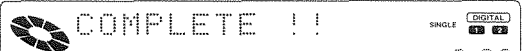
中止するときは、2度Q.EDITキーを押します

●途中で8秒以上放置すると、編集は中止されます。

2 入れ替える範囲を決める

3 希望の曲順に並べ替える

手順❶と❷を繰り返して、希望の曲順に並べます。

現在、トラック番号7番の曲を5番に移動するとき

●選んだ曲順の確認や、選んだ曲の取消しには、リモコンのQ.MOVE CHECKキーとQ.MOVE CLEARキーを使います。詳しくは、"選んだ曲の確認、または取消しをするには"を参照してください。 →59

4 曲順の入れ替えを実行する

"Q.MOVE ok ?"と表示したら、もう一度キーを押す。

●処理が終了するまで、少し時間がかかります。
●並べ替えの途中でENTERキーを押した場合、選ばなかった曲は、移動範囲の最後に、そのままの曲順で移動します。
●"COMPLETE"表示の点滅中にイジェクトキー（▲）や、ON/STANDBYキーを押すと、並べ替えが途中で中断されることがあります。

5 編集終了後、ミニディスクを取り出す

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

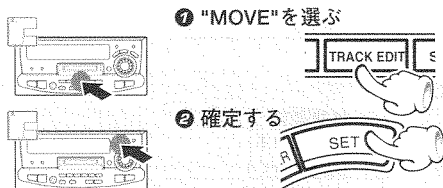
曲順を1曲ずつ入れ替える (TRACK MOVE)

移動させたい曲を選んで、目的のトラック番号の位置へ移動（挿入）します。前後の曲のトラック番号は、自動的に調整されます。
繰り返し行うことで、目的の曲順に並べ変えることができます。

TRACKMOVE中は、CT-G90（サイバータイトラー；別売）上でのタイトル入力は、できません。

停止中に操作してください

1 "MOVE"を選ぶ

❶ "MOVE"を選ぶ

押すたびに切り換わります。
① ALL ERASE? (全曲消す)
② MOVE? (曲順を1曲ずつ入れ替える)
③ COMBINE? (曲をつなぐ)
④ 編集解除

❷ 確定する

2 移動する曲を選ぶ

❶ 曲（トラック番号）を選ぶ

●途中で8秒以上放置すると、編集は中止されます。

❷ 確定する

移動させる曲

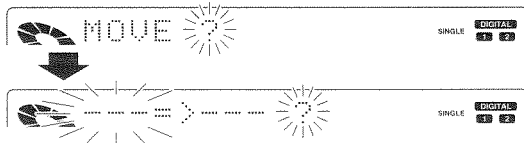
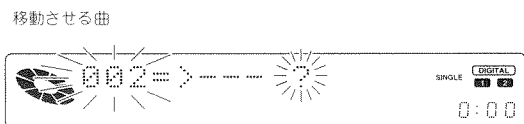
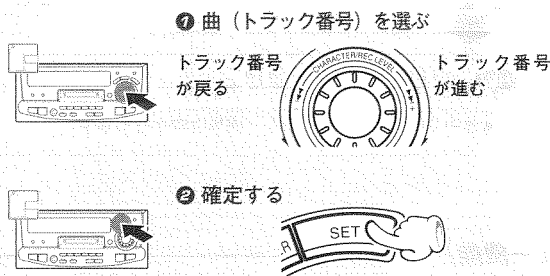
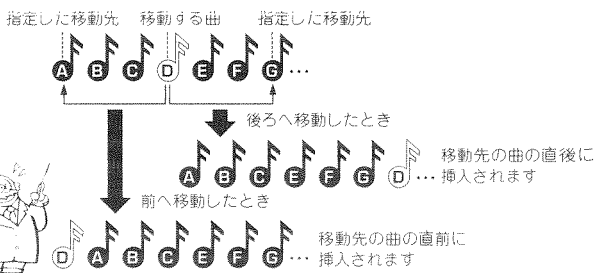
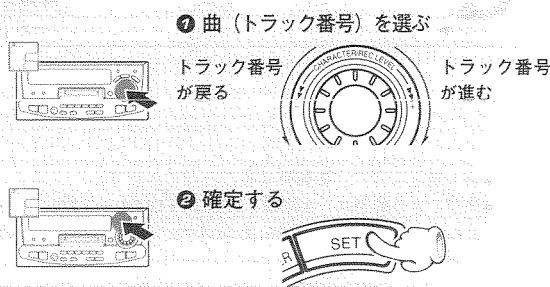
3 移動先を選ぶ

❶ 曲（トラック番号）を選ぶ

トラック番号が戻る　トラック番号が進む

❷ 確定する

移動先のトラック番号

D A B C E F G… 移動先の曲の直前に挿入されます

4 曲順の入れ替えを実行する

5 編集終了後、ミニディスクを取り出す

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

曲を分ける (TRACK DIVIDE)

曲の途中にトラック番号(曲番号)を追加することにより、曲を分割します。特に聴きたいところにトラック番号を追加しておくと、再生のときスキップができるので便利です。分割した曲より後ろでは、トラック番号が自動的に繰り上がります。
プレビュー機能を使って、分割したいところを繰り返し聴きながら微調整ができます。

TRACK DIVIDE中は、CT-G90(サイバータイトラー;別売)上でのタイトル入力は、できません。

1 分割したい曲を再生する

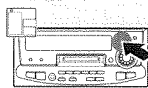
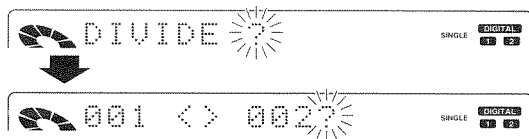
●再生一時停止中にも編集できます。

2 希望の所でTRACK EDITキーを押す

❶ "DIVIDE"を選ぶ

再生中の場合、再生一時停止になります。

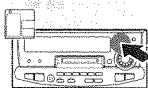
押すたびに切り換わります。
- ① ERASE? (1曲消す)
- ② DIVIDE? (曲を分ける)
- ③ COMBINE? (曲をつなぐ)
- ④ 編集解除

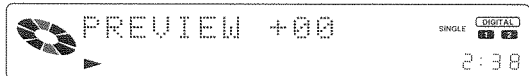
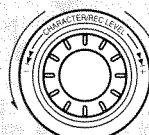
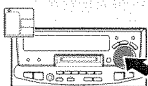
❷ 確定する

DIVIDE ?
↓
001 <> 002?

●途中で8秒以上放置すると、編集は中止されます。

分割の微調整をしないときは、手順2の後にENTERキーを押してから手順4へ進みます。("DIVIDE ok?"と表示されます。)

3 分割したいところを微調整する (プレビュー機能)

❶ プレビュー再生する

一時停止しているところから後の約4秒間を繰り返し再生します。

PREVIEW +00
2:38

❷ 分割したいところを微調整する

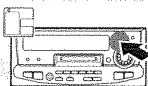
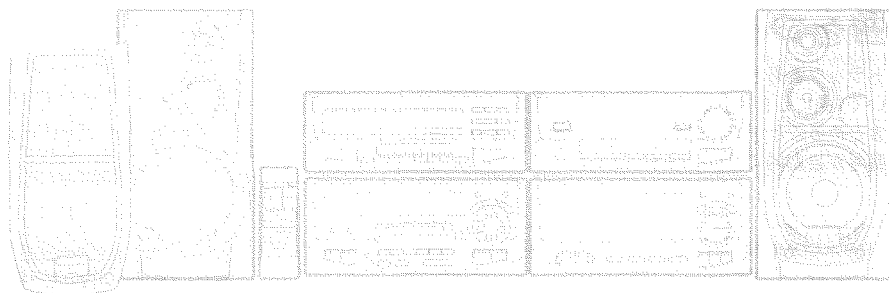
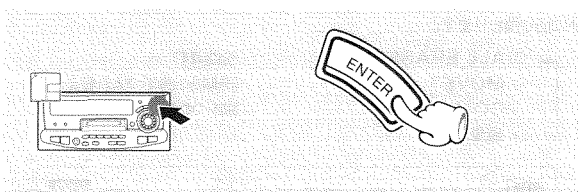
調整された場所を冒頭として、手順❶で再生されていた部分の最後までを繰り返し再生します。

●音を聴きながら、微調整することができます。
●調整できる範囲は、手順2でTRACK EDITキーを押して一時停止したところから、前後に±32ステップずつです。(1ステップは約6/100秒)

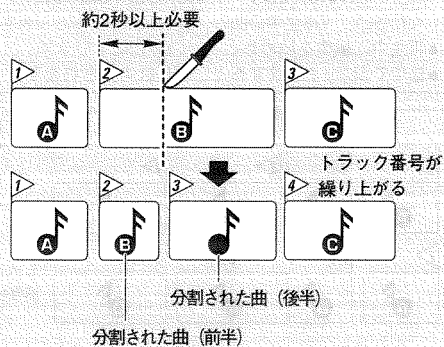
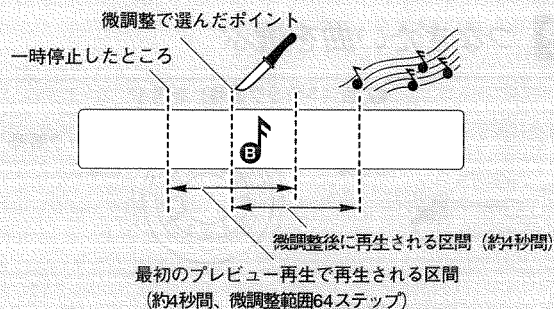
❸ 確定する

DIVIDE ok ?
2:38

4 曲の分割を実行する

- 曲が2つに分けられます。
- 分けられた後半の曲から再生が始まります。
- 分割で生まれた曲間には、無音部分がありません。

1～4を繰り返して、最大255までトラック番号を追加できます。

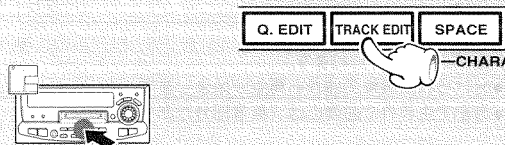
5 編集終了後、ミニディスクを取り出す

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

曲をつなぐ (TRACK COMBINE)

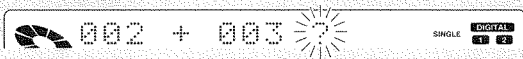
トラック番号を削除することにより、隣り合せた2つの曲をつないで1曲にします。いくつかの曲や、細かく分割されている曲をまとめることができます。つないだ曲より後ろの曲は、トラック番号が自動的に減少します。

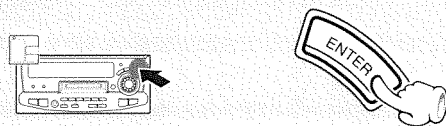
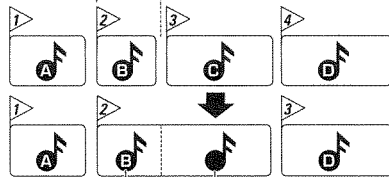
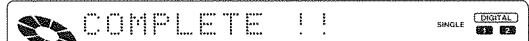
TRACK COMBINE中は、CT-G90（サイバータイトラー；別売）上でのタイトル入力は、できません。

説明文中のカッコ内のキー名称はリモコンキーのものです。

1 "COMBINE"を選ぶ

ミニディスクの最後の曲の再生中には"COMBINE"を選べません。

再生中に曲をつなぐ場合は、手順3へ

押すたびに切り換わります。

- 再生中に曲をつなぐ場合、目的の2曲のうち、前半となる曲の再生中にTRACK EDIT（TRACK EDIT/CHARA.）キーを押してください。（再生中の曲と、直後の曲がつながります）
- 再生中に編集を始めると、一時停止になります。
- 途中で8秒以上放置すると、編集は中止されます。

2 つなぎたい曲を選ぶ

3 曲と曲の結合を実行する

- 再生中に編集を始めた場合は、その曲から自動的に再生が始まります。

4 編集終了後、ミニディスクを取り出す

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

曲をまとめて消す (QUICK ERASE)

曲（トラック番号）を選んで、まとめて曲を消去することができます。

QUICK ERASE中は、CT-G90（サイバータイトラー；別売）上でのタイトル入力は、できません。

1回の処理で消せるのは、40曲までです。

停止中に操作してください

1 Q.ERASEを選ぶ

中止するときは、もう1度Q.EDITキーを押します

❶ Q.ERASEを選ぶ

❷ 確定する

Q.EDITキーを押すたびに切り換わります
① Q.MOVE?
② Q.ERASE?
③ 編集解除

点滅後、スクロールする

● 途中で8秒以上放置すると、編集は中止されます。

2 消したい曲を選ぶ

❶ 曲（トラック番号）を選ぶ

❷ 確定する

手順❶と❷を繰り返して、消したい曲を選びます。

トラック番号3番の曲を選んだとき

曲（トラック番号）

確定すると、つぎのトラック番号が表示されます　スクロールする

● 選んだ曲順の確認や、選んだ曲の取消しには、下記の" 選んだ曲の確認、または取消しをするには" を参照してください。

3 消去を実行する

"Q.ERASE ok?"と表示したら、もう一度キーを押す。

● 処理が終了するまで、少し時間がかかります。
● 消去の途中でENTERキーを押した場合、選ばなかった曲は、消す範囲の最後に、そのままの曲順で移動します。
● "COMPLETE"表示の点滅中にイジェクトキー（▲）や、ON/STANDBYキーを押すと、消去が途中で中断されることがあります。

4 編集終了後、ミニディスクを取り出す

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

選んだ曲の確認、または取消しをするには

❶ Q.MOVE CHECKキーを押して、確認する

● 押すたびに、トラック番号の若い順に選ばれている曲が表示されます。

❷ 取消したい曲の表示中に、Q.MOVE CLEARキーを押して、取消す

● 選んだ曲の取消しは、必ずQ.MOVE CHECKキーを押してから、Q.MOVE CLEARキーを押さないと実行されません。

1曲消す（TRACK ERASE）または全曲消す（ALL ERASE）

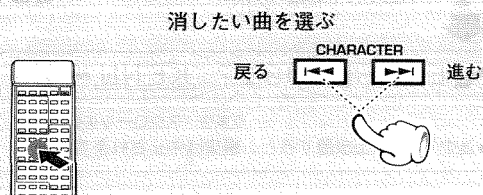
1曲消す場合（TRACK ERASE）
選んだ1曲のみを消去することができます。消した直後の曲のトラック番号が調節されます。
消去すると元に戻せませんので、十分注意してください。

全曲消す場合（ALL ERASE）
停止中に全曲消去することができます。ミニディスク全体を消去すると元に戻せませんので、十分注意してください。

ERASE中は、CT-G90（サイバータイトラー；別売）上でのタイトル入力は、できません。

1 準備をする

1曲消す（TRACK ERASE）のとき

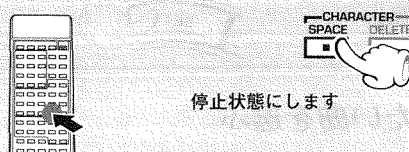
消したい曲を選ぶ

全曲消す（ALL ERASE）のとき

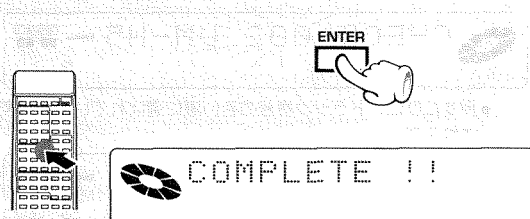
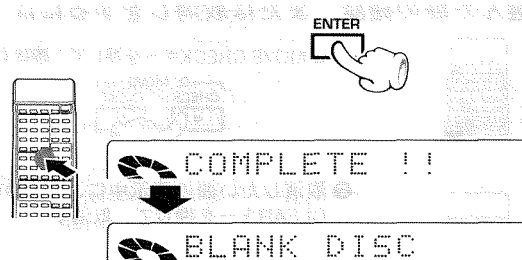
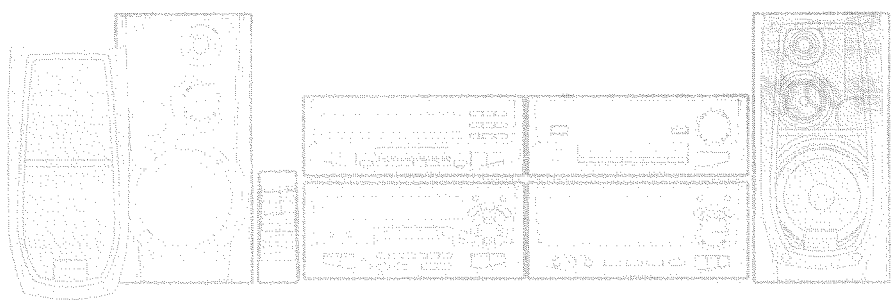
2 ERASEモードを選ぶ

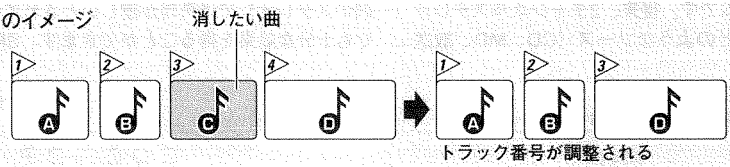
"ERASE"を選ぶ

TRACK EDIT /CHARA.

押すたびに切り換わります。
① ERASE?（1曲消す）
② DIVIDE?（曲を分ける）
③ COMBINE?（曲をつなぐ）
④ 編集解除

❷ 確定する

●途中で8秒以上放置すると、編集は中止されます。

3 消去を実行する

●曲が消去されます。（トラックタイトル含む）
●再生中に編集を始めた場合、消去した直後の曲から自動的に再生が始まります。

●ミニディスクの全曲が消去されます。（ディスクタイトル含む）

4 編集終了後、ミニディスクを取り出す

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

曲の一部分を消す

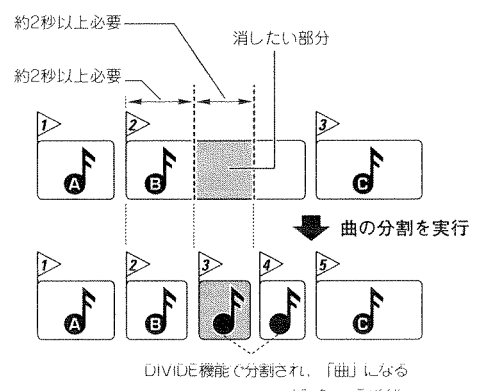
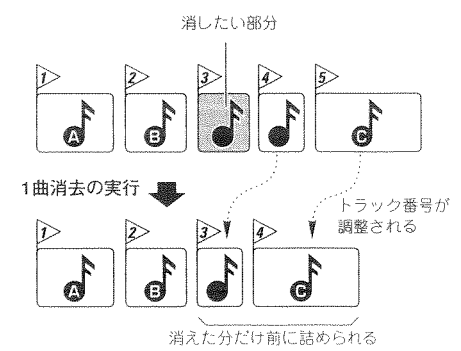
① 曲を分ける（TRACK DIVIDE）機能を使って、消したい部分だけを1つの曲にする。
② 1曲消す（TRACK ERASE）機能を使って、消去する。

この手順を使って、目的の部分だけを消去することができます。

❶ 消したい部分を1つの曲にする

曲を分ける（TRACK DIVIDE）機能を使って、消したい部分だけで1つの曲になるように、編集してください。

曲を分ける（TRACK DIVIDE）→56

●曲の前半や後半だけを消去する場合は、1か所だけTRACK DIVIDEを行なってください。

❷ 消したい部分を消去する

1曲消す（TRACK ERASE）機能を使って、手順❶で作った「曲」（消したいところ）を消去してください。

1曲消す（TRACK ERASE）→60

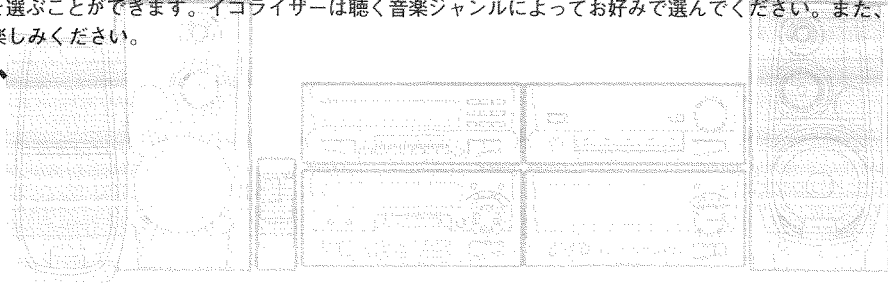
❸ 編集終了後、ミニディスクを取り出す

ミニディスク取り出しの際の"DISC WRITING"表示は、録音や編集に関連する情報をミニディスクに書き込んでいることを示します。表示中には震動や衝撃を加えないでください。

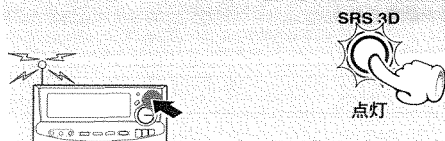
応用編

XM-3MD (J)

本機では、イコライザーと音場再生を選ぶことができます。イコライザーは聴く音楽ジャンルによってお好みで選んでください。また、音場モードは、お好みの雰囲気でお楽しみください。

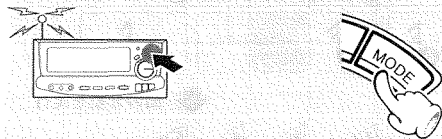
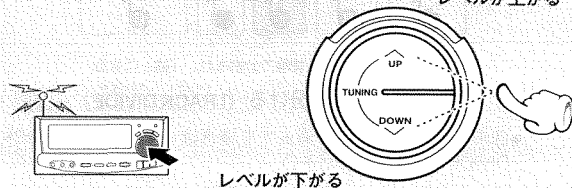
音の効果を楽しむ

SRS 3D (Sound Retrieval System) を体験する

Sound Retrieval Systemとは、音声信号に対して、人間の聴覚メカニズムに基づいた最適な処理を加えることで、3次元的な音響空間を造り出す、画期的なシステムです。従来、2チャンネルステレオ（一般のステレオ）では再現が難しいとされている、リアルな奥行感や、音像の定位をもたらします。どのようなソース（CD、MD、放送...）でも十分な効果を得ることができます。SRS 3Dをかけた状態で録音することもできます。

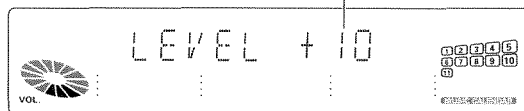
❶ SRS 3Dをオンにする

キーを押す度にオン／オフが切り換わります。

文字が左に流れます

❷ 効果の強さ（レベル）を調節する

(1) "LEVEL"を表示させる

(2) 効果の強さを調節する

押すたびに切り換わります。

① SRS 3Dの効果の強さ（LEVEL）
② スペクトラム・アナライザー表示の切り換え（DISPLAY）
③ 左右の音量バランス

レベルの表示

- -10〜+10の範囲で調節できます。
- 再生中の曲調などに合わせて、お好みの設定でお楽しみください。
- 録音中に、SRS 3Dのオン／オフ切り換えはできません。

音にイコライザーやSRS 3Dをかけると、効果のかかった音で録音できます。
（アナログ録音のみ、TAPE端子に接続された機器での録音、再生を除く） →30

応用編

お好みの音質で音楽を聴く（イコライザー機能）

5通りのイコライザーパターンに加えて、あなたの作ったイコライザーパターンを1種類記憶させておき、呼び出して使うことができます。

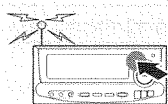
イコライザー（周波数バンド）の調整について

イコライザーが"MANUAL"（ユーザーメモリー）のときに限り、各周波数バンドの設定項目が表示されます。

イコライザーパターンを選ぶ

聴いている音楽のジャンルにあわせて、お好みでイコライザーのパターンを選ぶことができます。グラフィックイコライザー効果をかけた状態で録音することもできます。

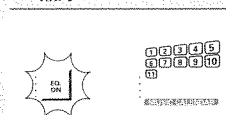
❶ ききたい曲を再生する

❷ 聴いているジャンルを選ぶ

押すたびに切り換わります。

① ROCK .... （ロック）
② POP .... （ポピュラー）
③ DISCO .... （ディスコ）
④ JAZZ .... （ジャズ）
⑤ CLASSIC .... （クラシック）
⑥ MANUAL .... イコライザーパターンを作って記憶させることができます。
⑦ EQ. OFF .... （EQ. ON消灯…イコライザー解除）

点灯

音にイコライザーやSRS 3Dをかけると、効果のかかった音で録音できます。
（アナログ録音のみ、TAPE端子に接続された機器での録音、再生を除く）

→30

イコライザーパターンを作って記憶させる

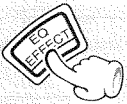
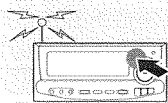
お好みのイコライザーパターンを作ることができます。

❶ "MANUAL"を表示させる

4秒以内に手順❷へ

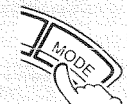
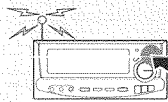
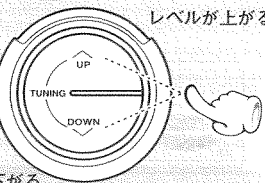
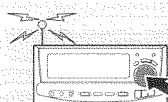
押すたびに切り換わります。

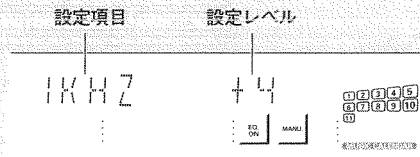
① ROCK
② POP
⑤ DISCO
③ JAZZ
④ CLASSIC
⑥ MANUAL
⑦ EQ. OFF

点灯

❷ イコライザーパターンを調整する

（1）周波数バンドを選ぶ

押すたびに切り換わります。

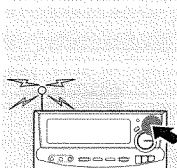
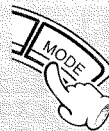
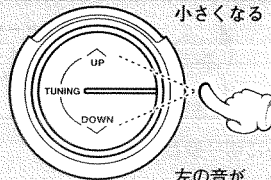
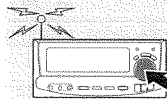
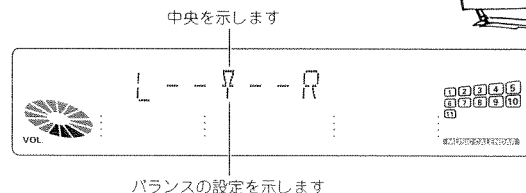
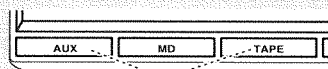
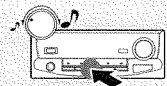
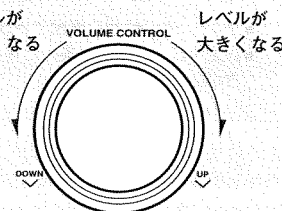
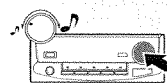
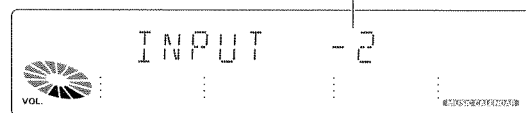
① 68 Hz
② 130 Hz
③ 400 Hz
④ 1 kHz
⑤ 2 kHz
⑥ 6.3 kHz
⑦ 16 kHz

（2）レベルを調整する

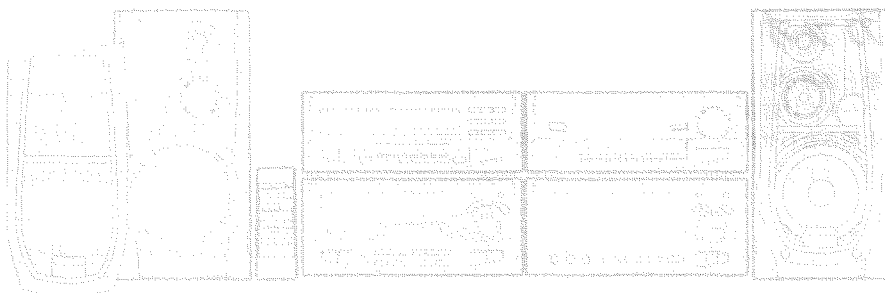
（3）手順（1）、（2）を繰り返して、それぞれの項目を調整する

- +4～－4の範囲で調節できます。
- 設定中に入力を切り換えた場合は、手順❶よりやり直してください。

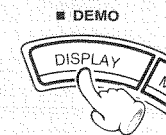
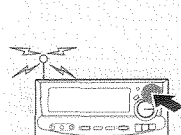
❸ 記憶させる

バランスとインプットレベルの調整

バランス .... 左右の音量バランスを調整します。
インプットレベル .. AUX入力端子に接続された外部機器（ビデオデッキ等）、TAPE PLAY端子に接続された外部機器（テープデッキ等）からの音量を調整します。外部機器からの音量が大きすぎる場合など、必要に応じて調整してください。

バランスの調整

押すたびに切り換わります。
① SRS 3Dの効果の強さ（LEVEL）
② スペクトラム・アナライザー表示の切り換え（DISPLAY）
③ 左右の音量バランス

● "LEVEL"（SRS 3D効果の強さ）はSRS 3Dがオンのときに限り表示されます。

インプットレベルの調整

● −5〜0の範囲で調整ができます。

インプットレベルを調整すると、AUX入力端子、およびTAPE PLAY端子に接続された外部機器からの録音レベルも変化します。 "MDに録音する"→30

デモンストレーション表示

イコライザー、SRS 3D、EX. BASS、N.B.CIRCUITなど音質調整機能の効果を順にデモンストレーションします。

DEMO ON

- デモンストレーションをやめるときはもう一度同じキーを押します。"DEMO OFF"表示が流れてデモンストレーションは解除されます。
- デモンストレーションがオンの状態で電源をオフ（スタンバイ）にしても、デモンストレーションは引き続き行なわれます。やめたいときはもう一度DEMOキーを押して止めてください。
- デモンストレーションがオンの状態でミニディスクがMDレコーダーにはいっていないときは、MDレコーダー表示部でもデモンストレーションが行なわれます。

表示部を切り換える

本機の表示部は2種類の表示内容が立体的に重なって見えるしくみになっています。お好みに合わせて、1種類ずつの表示にすることもできます。

2重表示を切り換える

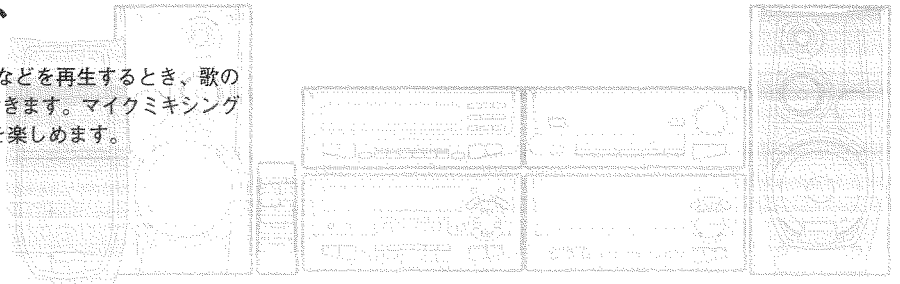
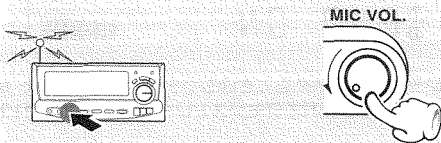
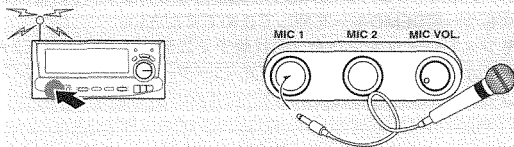
スペクトラムアナライザー表示を切り換える

カラオケを楽しむ

歌と演奏が収録されているCDやMDなどを再生するとき、歌のパートだけ音量を小さくすることができます。マイクミキシングと組み合わせれば、簡単にカラオケを楽しめます。

1 マイクをつなぐ

❶ MIC VOL.(マイク ボリューム)つまみを左いっぱいに回す

❷ MIC(マイク)端子にマイクを接続する

❸ マイクの音量を調節する

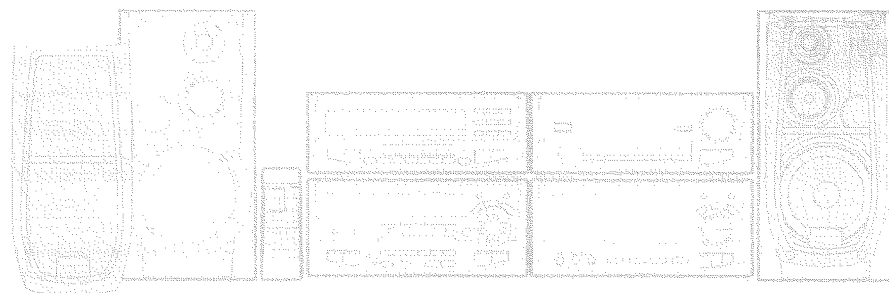
● マイクを使用するときは、SOURCE DIRECT(ソース ダイレクト)をオフにしてください。

● マイクを使用しないときは、MIC VOL.(マイク ボリューム)つまみを左いっぱいに回しておいてください。

2 音楽を再生する

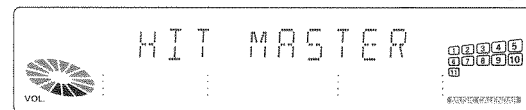
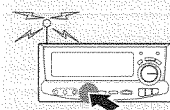
3 曲に合わせて歌う

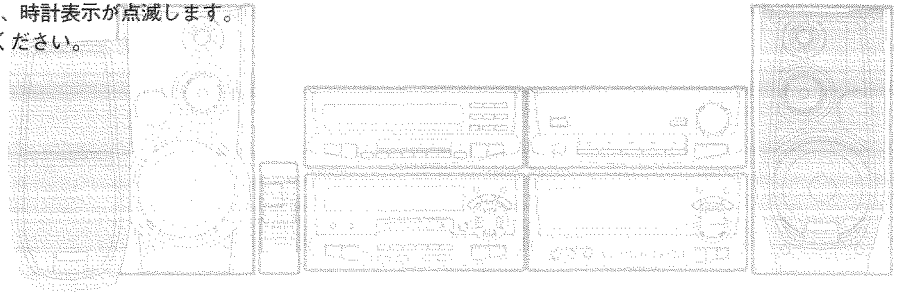
以上の手順を行なった後で、カラオケをそのまま録音することもできます。（アナログ録音のみ、TAPE(テープ)端子に接続された機器での録音、再生を除く）ただし、ミニディスクの演奏でカラオケをするとき、その音は録音できません。

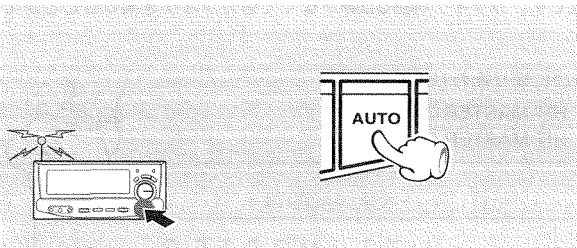
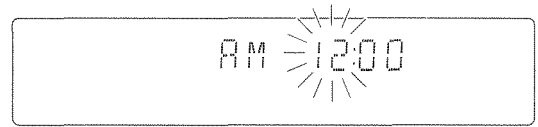
応用編

歌入りのソフトでカラオケを楽しむ (HIT MASTER機能)

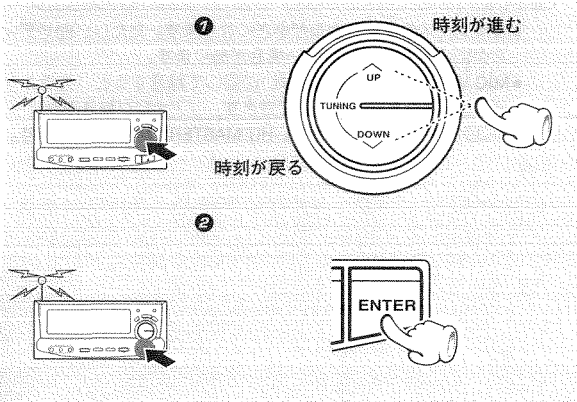
ヴォーカル入りの音楽ソースを疑似カラオケ音楽ソースとして楽しむ機能です。カラオケ専用CD等がなくてもカラオケを楽しむことができます。。(TAPE端子に接続された機器での録音、再生を除く)

押すたびに切り換わります。
① HIT MASTER ON
② HIT MASTER OFF

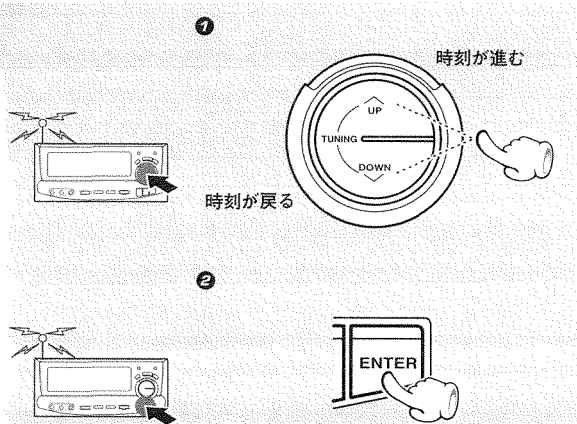
文字が左に流れます

- 音楽ソースのヴォーカルが小さくなります。ただし、曲やディスクによっては効果が弱い場合があります。
- MIC VOL.つまみを左いっぱいに回して録音すると、カラオケミニディスクを作ることができます。(アナログ録音のみ)
- イコライザー効果をかけると、HIT MASTER機能は解除されます。

時刻合わせ

ACコードをコンセントに接続すると、時計表示が点滅します。
説明に従って正確な時刻を合わせてください。

電源がオフ（スタンバイ）になっていることを確認してください。

1 時刻合わせモードにする

8時45分に合わせる例

- 時間表示が点滅を始めます。

2 時間を合わせる

- 時刻は12時間表示で表示されます。
- ENTER（エンター）キーを押すと時間が設定されて、分表示が点滅を始めます。

3 分を合わせる

AM 8:45

- 間違えて押したときは、最初からやり直してください。
- 時報と同時にENTER（エンター）キーを押すと正確な時刻表示ができます。
- 停電があったり、電源プラグをコンセントに入れ直したときは、時刻表示が点滅します。その場合は、もう一度時刻合わせをしてください。

オペレート イージー トゥー ユーズタイマー (O.T.T.)

指定の時刻に、選んだ入力ソースの再生が始まり、1時間経つと電源がオフ（スタンバイ）になります。設定直後の1回だけ働きます。

おやすみタイマー (SLEEP)

設定した時間が過ぎると、自動的に電源が切れます。

タイマー再生、タイマー録音 (PROG.1 , PROG.2)

設定した時間帯に、選んだソースを再生（または放送を録音）します。

AI タイマー再生 (PROG.1 , PROG.2)

タイマー再生開始後、徐々に音量が大きくなり、あらかじめ工場で設定された音量まで上がります。

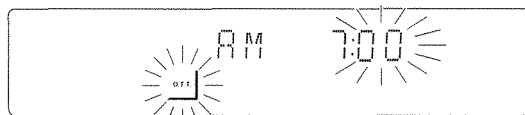
MDは、ディスクからメモリーに読み込まれた情報を元に動作します。
MDでタイマーを設定する前に、メモリーバックアップ機能を有効にするため、10分以上電源をオン状態にしておいてください。 →80

オペレートイージートゥーユーズタイマー (Operate easy To use Timer : O.T.T.)

時刻をセットするだけのカンタンな操作で、タイマー再生ができます。電源をオフ（スタンバイ）にする前に、最後に選ばれていたソースが再生されます。タイマー再生開始から1時間で、電源が自動的にオフ（スタンバイ）になります。

O.T.T.タイマーによる動作が終了するまでは、プログラムタイマーは働きません。

- CDを再生するときは、トレイNo.1にセットしないと、タイマー再生されません。
- O.T.T.キーを押すと、入力ソースおよび、オン時刻の表示になります。

押すたびに切り換わります。
① "O.T.T." 点灯 ... タイマーを使う
② "O.T.T." 消灯 ... タイマーを使わない

オン時刻の表示

- オン時刻は、5分単位で設定できます。
- 他のタイマーと組み合わせた場合、最後に動作した入力ソースが再生されます。
- 電源がオフ（スタンバイ）の状態でも、O.T.T.タイマーの設定はできます。

解除するには

O.T.T.キーを2回押す。

おやすみタイマー (SLEEP)

何分後に電源を切るかを設定します

- セットした時間が過ぎると、自動的に電源がオフ（スタンバイ）になります。
- 1回押すごとに10分ずつ減っていきます。最大約90分まで設定できます。

90 → 80 → 70 ..... 30 → 20 → 10 → 解除 → 90 → 80 .....

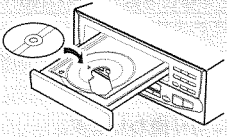
点灯　セットする時間

解除するには

電源をオフ（スタンバイ）にする、またはSLEEPキーを解除になるまで押す。

プログラムタイマー予約

2系統（PROG.1 , PROG.2）の24時間タイマー（毎日働きます）です。
PROG.1 , PROG.2 には、働く時間帯と内容を予約しておき、必要に応じて、働かせるか、働かせないかを選べます。
テープのタイマー操作については、カセットデッキ（別売）付属の取扱説明書をよくお読みください。

- タイマー予約は、PROG. 1とPROG. 2の2種類を、同時に予約できます。
- PROG. 1とPROG. 2の働く時間帯が重ならないように、1分以上の間隔をあけて予約してください。

MDは、ディスクからメモリーに読み込まれた情報を元に動作します。
MDでタイマーを設定する前に、メモリーバックアップ機能を有効にするため、10分以上電源をオン状態にしておいてください。 →80

"接続のしかた"を参照して、関連機器との接続を済ませてください。 →8

1 聴く（録音する）ための準備をする

放送局を聴く
放送局をプリセットしておく →29

CDを聴く
ディスクを入れる（プログラム再生はできません。）

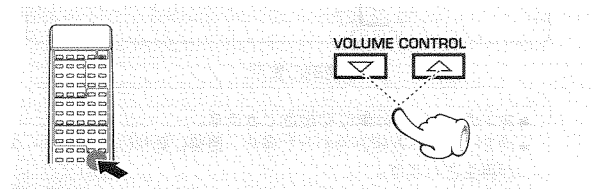
トレイNo.1にセットしないとタイマー再生されません。

外部入力ソースを聴く
AUX端子、またはTAPE端子に接続した機器のタイマー設定をする

MDを聴く
ディスクを入れる

テープを聴く
テープをセットする。
カセットデッキ 別売

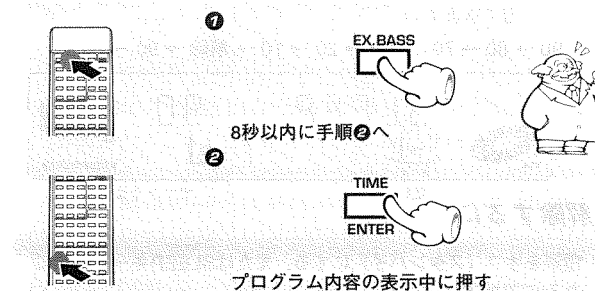
録音する
録音の準備をする。
カセットデッキ 別売
MD →30

2 音量を調節する

- 放送を録音するときは、タイマーで電源がオンになると、最小の音量に自動セットされます。

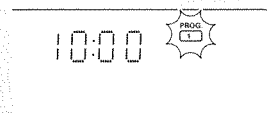
3 電源をオフ（スタンバイ状態）にする

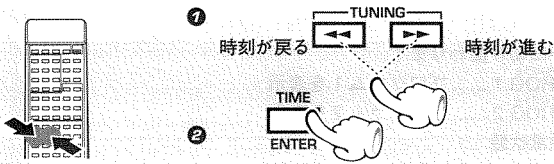
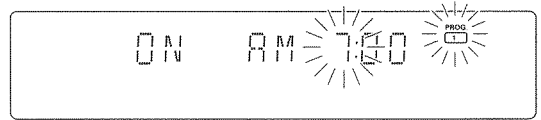
4 プログラム番号を選ぶ

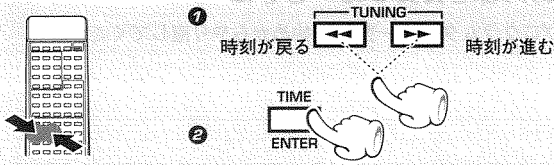
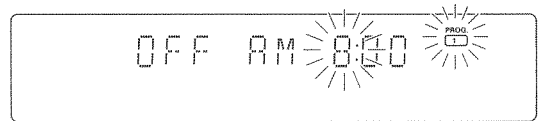
❶

8秒以内に手順❷へ

押すたびに切り換わります。
① PROG. 1 ... プログラム1
② PROG. 2 ... プログラム2
③ 通常状態

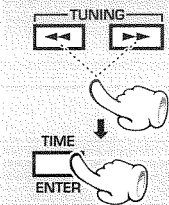
❷

プログラム内容の表示中に押す

- 選んだプログラム番号が点灯します。
- すでに予約されているプログラム番号を選んだときは、新しい設定内容に変わります。

5 オン時刻を設定する

●❶、❷の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力します。

●間違えたときは手順❹からやり直してください。

6 オフ(スタンバイ)時刻を設定する

●❶、❷の手順を行ない"時"を入力した後、同じ手順で"分"を入力します。

●間違えたときは手順❹からやり直してください。

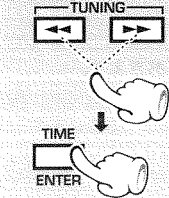
7 希望の予約を設定する

タイマー再生、AIタイマー再生をするとき

❶ モードを選ぶ

(1) "PLAY"または"AI"を選ぶ

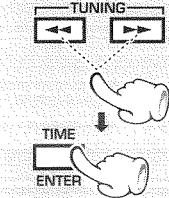
① PLAY タイマー再生
② REC
③ AI だんだん音が大きくなるタイマー再生

(2) 決定する

❷ 入力ソースを選ぶ

(1) 何を聴くか選ぶ

① TUNER .... 放送
② CD .... CD
③ AUX .... 外部入力
④ MD .... MD
⑤ TAPE .... テープ

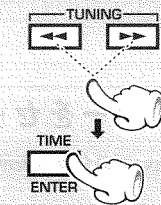
(2) 決定する

❸ 放送局を選ぶ(TUNER時のみ)

(1) プリセットチャンネルを選ぶ

(2) 決定する

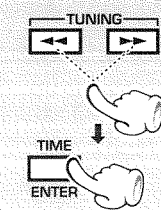
●放送局は必ずプリセットしておいてください。 →29

放送のタイマー録音をするとき

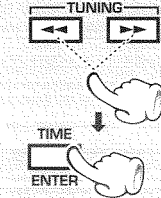
❶ モードを選ぶ

(1) "REC"を選ぶ

① PLAY
② REC
③ AI

(2) 決定する

❷ 放送局を選ぶ

(1) プリセットチャンネルを選ぶ

(2) 決定する

❸ 録音する機器を選ぶ

(1) 選ぶ

① MD
② TAPE (カセットデッキ(別売)のみ)

(2) 決定する

8 働かせたいプログラム番号をセットする

押すたびに切り換わります。

① PROG.1 .... プログラム1のみ実行
② PROG.2 .... プログラム2のみ実行
③ PROG.1，2.. プログラム1と2の両方を実行
④ タイマー オフ

●選んだプログラム番号が点灯します。
●プログラム番号をセットしないとタイマーは働きません。

電源がオフ（スタンバイ）になっていることを確認してください。

メモ 予約内容は、削除できません。内容を変更することにより、以前の内容が消されます。

予約の内容を確認する

確認したいプログラム番号を選ぶ

押すたびに切り換わります。

① PROG.1 ...... プログラム 1 を表示
② PROG.2 ...... プログラム 2 を表示
③ 通常状態

- 予約内容を約3秒ずつ表示していきます。そのあと、元に戻ります。

予約内容を変更したいときは

"プログラムタイマー予約"を始めからやり直してください。

タイマーを働かせたくないとき

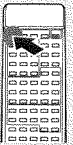
プログラム表示をすべて消灯させる

押すたびに切り換わります。

① PROG.1 .... プログラム 1 が働きます
② PROG.2 .... プログラム 2 が働きます
③ PROG.1，2..... プログラム 1 ,2 ともに働きます
④ 消灯.................. プログラムは働きません

- 予約内容は記憶しています。

再び同じ内容のタイマーをセットする

セットしたいプログラム表示を点灯させる

押すたびに切り換わります。

① PROG.1 .... プログラム 1 が働きます
② PROG.2 .... プログラム 2 が働きます
③ PROG.1，2..... プログラム 1 ,2 ともに働きます
④ 消灯.................. プログラムは働きません

- ディスク、MDの準備、音量の調節をしておきます。

XM-3MD (J)

メンテナンス

セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

参考

露付きにご注意

水蒸気が、冷たいものの表面にふれて水滴が付くことを"露付き"といいます。この現象がおきますと、正常に動作しないか、または、まったく動作しないことがあります。
これは故障ではありませんが、露がとれるまでしばらく乾燥させる必要があります。

本機の電源を入れた状態で、そのまま放置してください。長くても数時間で露が乾いてきます。

次のような状態のときは、特に露付きにご注意ください。
- 寒いところから暖かい部屋など気温差の大きいところへ持ち込んだとき。
- 暖房をきかせはじめたとき。
- 冷房のよくきいた部屋から、湿度が高く気温の高い部屋へ持ち込んだとき。
- その他本機の温度と外気温度との差が大きく、露付きの状態になりやすい条件のとき。

スピーカーの設置とテレビについて

1. このシステムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能な防磁型(EIAJ規格)ですが、設置のしかたによっては、色ムラを生じる場合があります。そのときは、一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを離してご使用ください。
2. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生することがありますので、設置にご注意ください。
3. テレビからの電磁波の誘導作用により、ステレオの電源スイッチがオフのときでも、スピーカーから音が聞こえることがあります。その場合も、テレビからスピーカーを離して設置してください。

メモリーバックアップ

メモリーバックアップ	
電源プラグをコンセントから抜くとすぐ消えるメモリーの内容	時計表示
電源プラグをコンセントから抜いて最低1日で消えるメモリーの内容	**アンプ部** 電源の状態(オンまたはスタンバイ) 入力切換 ボリュームの値 バランスの設定 イコライザーのユーザーメモリー **チューナー・イコライザー部** 受信バンド 周波数 プリセット放送局 プログラムの設定内容 SRS3Dレベル
電源オフ(スタンバイ)または、電源プラグをコンセントから抜いて最低1日で消えるメモリーの内容	**MDレコーダー部** ディスプレイ・モード 録音レベル →80

輸送時または移動時のご注意

本機を輸送するときや、移動するときは、下記の操作を行ってください。

1. ▲(EJECT)キーを押して、CD、MDをすべて取り出します。

   DISC1~6 間でのすべてのトレイをオープンして、ディスクが入っていないことを確認してください。

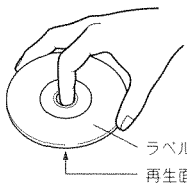
2. ディスプレイ部が図の表示になったことを確かめてください。

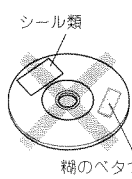
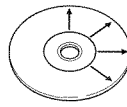
チューナー・イコライザー部

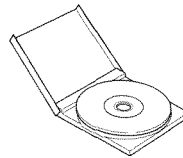
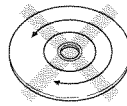
MDレコーダー部

3. 数秒間待って、電源をオフ(スタンバイ)にします。

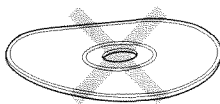
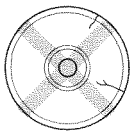
ディスクの取り扱い方

ディスク取扱上のご注意

取り扱い

再生面にふれないように持ってください。

- 再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどの、糊がはみ出したり、剥がした後のあるものはお使いにならないでください。そのまま再生すると、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

お手入れ

ディスクに指紋や汚れがついたときは、やわらかい布などで、放射状に軽くふきとってください。

保存

長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

ディスク使用上のご注意

⚠注意　異常なディスクは使用しない

再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびや欠けのあるディスク、大きくそったディスク等は絶対に使用しないでください。プレーヤーの破損、故障の原因になります。

本機で使用できるディスクについて

CD（12cm，8cm）、CDV（オーディオパートのみ）
- CD - G（CDグラフィックス）ディスクは、本機では音声のみの再生になります。

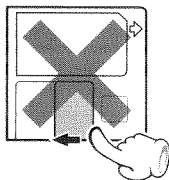
CDアクセサリーについて

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリー（スタビライザー、保護シート、保護リングなど）、およびレンズクリーナーは故障の原因となりますので、ご使用にならないでください。

ミニディスクの取扱いかた

ミニディスクはカートリッジに入っているため、ゴミや指紋を気にしないで、手軽に扱うことができます。ただし、カートリッジの汚れやそりなどは、誤動作の原因になります。いつまでも美しい音を楽しむため、次のことにご注意ください。

ミニディスクに直接触れない

シャッターを手で開けて、ミニディスクに直接触れないでください。
無理に開けるとこわれます。

置き場所について

極端に温度の高いところ（直射日光の当たるようなところ）や、湿度の高いところには置かないでください。

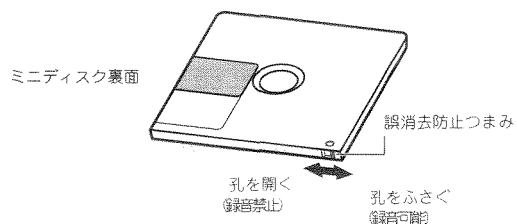
ほこり対策について

セットの中では、ミニディスクのシャッターは常に開いています。
従ってミニディスクにほこりが入るのを防ぐため、録音、再生が終わりましたら、速やかにミニディスクをセットから取り出してください。

お手入れのしかた

定期的に、カートリッジについたホコリやゴミを乾いた布でふき取ってください。

誤消去防止つまみ

録音した内容を誤って消さないためには、ミニディスクの誤消去防止つまみを開いた状態にしておきます。再び録音する場合は、つまみを元の状態に戻します。

MD（ミニディスク）システムとは

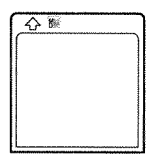
ミニディスクシステムの特長をまとめると、次のようになります。

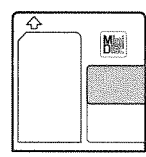
① CD（コンパクトディスク）と同様に、自由なところから再生できる。（ランダムアクセスが可能）
② カートリッジに入った直径64mmのミニディスクを使用する。
③ 2種類のミニディスクに対応する。
④ 高能率符号化技術を使って最大74分の録音、再生ができる。
⑤ 半導体メモリーを使った耐震技術。

2種類のミニディスク

ミニディスクには、再生専用のものと、録音→再生のものの、2種類があります。

再生専用ミニディスク

再生のみが可能なミニディスクで、市販のミュージックMDソフトはこのタイプを使用しています。再生専用ミニディスクはコンパクトディスク（CD）と同じ光ディスクです。ピット（小さなくぼみ）の有り無しで記録されています。光学非接触ピックアップで信号を読み取ります。

録音用ミニディスク

録音が可能なミニディスクで、光磁気ディスクを使用、磁界変調方式で録音が可能になりました。光磁気ディスクの下面からレーザー光を照射し、ディスクの上面から磁界を印加して記録しています。

高能率符号化技術 "ATRAC"

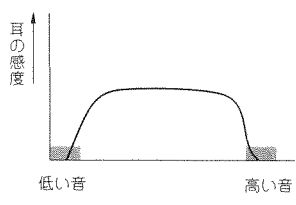
ミニディスクは、従来のコンパクトディスクの約半分のサイズですが、同じ時間記録することができます。それは新しく開発された*高能率符号化技術によって可能となりました。

*高能率符号化技術：

ATRAC (Adaptive TRansform Acoustic Coding)

ATRACとは、聴感上問題のない音の成分をカットして、音楽データを従来の約1/5にしています。このことにより、最大74分の録音、再生が可能になりました。

耳の感度に達しない音

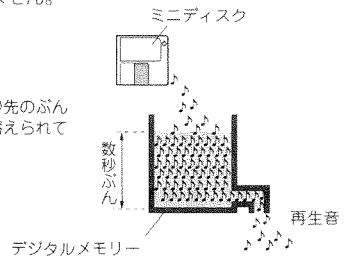
低い音や高い音は、ある程度の音量がないと聞き取れない。

大きな音の近くの小さな音

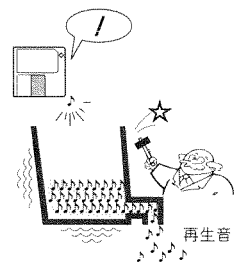
大きな音と同時に小さな音があっても、人間の耳には聞こえない。
（マスキング効果）

音とび防止メモリー

本機では、震動で音が飛ばないように信号を一度メモリーに蓄えています。したがって、震動等で光学ピックアップからのデータが途切れても、メモリーには数秒間のデータがあるので音楽が途切れたりすることはありません。

通常再生時

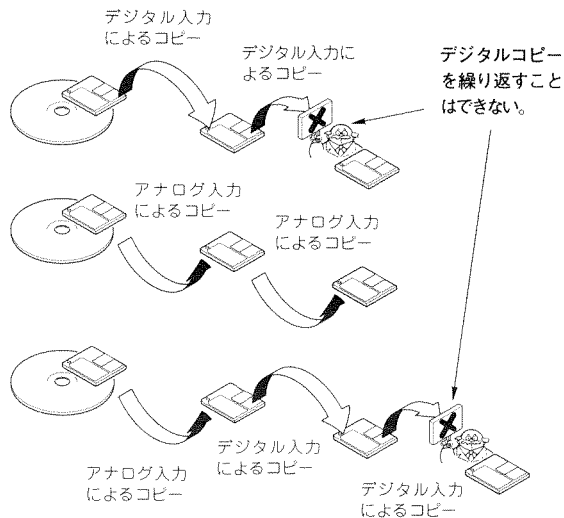
再生中、音は数秒先のぶんまでメモリーに蓄えられています。

震動があったとき

震動や衝撃を受けてミニディスクからの読みだしが途切れても、メモリーからの再生音は途切れません。

デジタル録音とSCMS(エスシーエムエス)について

ミニディスクでは全てのソースに対してデジタル録音することはできません。次の場合は、デジタル録音ができませんので注意してください。

コピー禁止コードが付いているとき。（シリアルコピーマネージメントシステム...SCMS）..."001 SCMS"と表示して録音一時停止になります。

SCMS（シリアルコピーマネージメントシステム）について

シリアルコピーマネージメントシステムとは、著作権保護のため、各種のデジタルオーディオ機器の間でデジタル信号をデジタル信号のまま録音できるのは、一世代だけと規定したものです。

ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの米国および外国特許に基づく許諾製品

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

マイコンをリセットするには

電源がオンのとき接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因によりマイコンが誤動作　(操作できない、ディスプレイの誤表示など) することがあります。この場合、次の手順をお試しください。
マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

● リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

電源プラグを抜き、チューナー・イコライザー部のENTER(エンター)キーを押しながら、電源プラグをコンセントに差し込み直す。

アンプ部・スピーカー部

症状	原因	処置	参照
音が出ない。	● スピーカーコードがはずれている。 ● 音量を最小にしている。 ● MUTE(ミュート)がオンになっている。 ● ヘッドホンプラグが差込まれている。 ● システムの接続コードがはずれている。	● "接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ● 適当な音量にする。 ● MUTE(ミュート)をオフにする。 ● ヘッドホンプラグを抜く。 ● システムの接続コードを確認する。	→ 8 → 20 → 21 → 21 → 8
"PROTECT(プロテクト)"の表示がスクロールし音が出ない。	● スピーカーコードがショートしている。	● 一時 電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度 電源スイッチを入れる。	
ヘッドホンから音がでない。	● 差し込みが不完全。	● 正しく差し込む。	→ 21
スピーカーの片側から音が出ない。	● スピーカーコードがはずれている。 ● バランスの設定が片寄っている。	● "接続のしかた"をみて正しく接続し直す。 ● 左右のバランスを調節する。	→ 8 → 64
突然、電源が切れた。	● AUTO(オート) POWER(パワー) SAVE(セーブ)機能が働いた。	● AUTO(オート) POWER(パワー) SAVE(セーブ)機能を解除する。	→ 21

チューナー・イコライザー部

症状	原因	処置	参照
時刻表示が、ある時間で止まったまま点滅している。	● 停電があった。 ● 電源プラグを一度抜いた。	● 現在時刻をもう一度合わせる。 ● 現在時刻をもう一度合わせる。	→ 68
タイマーが作動しない。	● 現在時刻を合わせていない。停電があった。 ● タイマーのオン時刻とオフ(スタンバイ)時刻を設定していない。 ● タイマーの実行指定をしていない。	● "時刻合わせ"をみて現在時刻を合わせる。 ● タイマーのオン時刻とオフ(スタンバイ)時刻を設定する。 ● SRS 3Dキーで実行指定する。	→ 68 → 70 → 71
放送局が受信できない。	● アンテナを接続していない。 ● 放送バンドが合っていない。 ● 受信したい放送局の周波数に合っていない。	● アンテナを接続する。 ● 放送バンドを合わせる。 ● 受信したい放送局の周波数に合わせる。	→ 8 → 28 → 28
雑音が入る。	● 自動車のイグニッションノイズ。 ● 電気器具の影響によるもの。 ● テレビが近くにある。	● 外部アンテナを道路から離して設置する。 ● 電気器具の電源を切ってみる。 ● テレビから離す。	
プリセットしたあと、P.CALL(プリセット コール)キーを押しても受信できない。	● プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ● 長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	● 受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ● もう一度プリセットする。	→ 29
突然、デモンストレーションが始まった。	● 電源オン時に、電源プラグを抜いた、あるいは停電があった。	● 故障ではありません。DISPLAY(ディスプレイ)／DEMO(デモンストレーション)キーを押して解除してください。	→ 65
エラー表示が出る("ERROR＊(数字)")	● 何らかのトラブルを示します。トラブルの内容によって、数字の部分が異なります。	● お近くのケンウッドサービスステーションまでご相談ください。	

MDレコーダー部（MD規格上の症状）

症　状	原　因
まだ録音可能時間があるのに"DISC FULL"と表示される。	●256曲以上（トラック番号256以上）は録音できません。 （トラック番号256未満でも録音できないことがあります。） このとき、ディスプレイのリメインタイム表示は、" 0:00"になります。
短い曲を消しても、記録可能時間が増えない。	●ミニディスク全体の残り時間が12秒未満の場合は、ディスプレイのリメインタイム表示は、" 0:00"になります。消去された曲の合計時間が12秒を超えると録音可能時間の表示が変化します。 ●編集を繰り返したミニディスクの場合、短い曲を消しても、残量時間が増えないことがあります。
曲をつなぐことができない。	●編集処理の結果として生まれた曲は、つなげない場合があります。
録音ずみの時間と、録音可能時間の合計がMD全体の記録時間（60分、74分）と一致しない。	●2秒間を最小単位として録音が行われるため、表示時間が一致しないことがあります。
編集でできた曲で早送り、早戻しをすると、音が途切れる。	●さまざまな条件の組み合わせにより、音切れを発生する場合がありますが、故障ではありません。
トラック（曲）番号が正しく付かない。	●録音したソース（CDほか）の内容によっては、短い曲ができることがあります。
"DISC READING"が表示される時間が異常に長い。	●新品の録音用MD（全く録音されていなもの）を入れた場合、通常よりも長い間"DISC READING"が表示されます。
モノラル録音されたミニディスクのとき、時間表示が不正確になる。	●モノラル録音とステレオ録音が、それぞれ異なるフォーマットで行われるためで、故障ではありません。
タイトルが1792文字入らない。	●タイトルの記録エリアは、7文字単位で使用されているため1792文字入りきらない場合があります。

MDレコーダー部（その他の症状）

症　状	原　因	処　置	参照
再生キーを押しても音が出ない	●コードの接続が間違っている。 ●ミニディスクが入っていない。 ●未録音ミニディスクが入っている。	●" 接続のしかた" に従い正しく接続する。 ●ミニディスクを入れる。 ●録音済ミニディスクまたは再生用ミニディスクを入れる。	→8 →24 →76
録音ができない	●ミニディスクが書き込み禁止になっている。 ●SCMSによりデジタルコピー禁止のソースをデジタル録音しようとしている。 ●録音レベルが低い。（AUX、TAPE使用時） ●再生専用ミニディスクが入っている。 ●録音可能なエリアがない。 ●入力切換えがMDになっている。	●書き込み禁止つまみを元に戻すか、録音可能なミニディスクに取り換える。 ●録音できません。 ●インプットレベルを調節する。 ●録音用ミニディスクを入れる。 ●ミニディスクを入れ換える。 ●入力切換を録音したいソースにする。	→75 →77 →64 →76 →27 →30
音がひずむ	●録音レベルの設定をしていない。（AUX、TAPE使用時） ●ひずんだ音で録音されたミニディスクを再生している。	●インプットレベルを調節する。 ●再度録音をする。	→64 →30
雑音が大きい	●外部の雑音を誘導している。	●電気器具、テレビなどから離す。	
録音された音量が途中で変わっている	●アナログ録音中にジョグダイアルやMIC VOL.つまみを動かした。	●録音中は、つまみを動かさないでください。	→30
電源オン後、表示が一瞬消える	●電源をオフ（スタンバイ）にして、すぐにオンにした。	●故障ではありません。	

MDレコーダー部（メッセージ表示の一覧）

ディスプレイ表示	意　味	処　置	参照
NO DISC	●ミニディスクが入っていない。	●ミニディスクを入れる。	→24
001 SCMS	●SCMSによりデジタルコピー禁止のソースをデジタル録音しようとしている。	●アナログ録音に切り換える。	→77
DISC FULL	●録音可能なエリアがない。 ●256曲目を録音しようとしている。	●録音用ミニディスクを入れ換える。	
TITLE FULL	●最大文字数の制限を超えて、タイトルを入力しようとしている。	●"入力できる文字数について"を参照してください。	→53
BLANK DISC	●何も録音されていないミニディスクです。	●再生するときは、録音済みのミニディスクに取り換える。	
NO TRACKS	●曲は録音されていないが、ミニディスクタイトルが書かれている。	●そのまま録音して問題ありません。	
DISC READING	●TOC*1 情報を読んでいます。	●故障ではありません。	
WRITING	●編集、録音時の各種の情報を書き込んでいる。	●故障ではありません。	
DISC ERROR	●UTOC*2 の内容が異常である。	●"ALL ERASE"を行う。それができないときは、ミニディスクを取り換えてください。	→60
CAN NOT EDIT	●長さが短すぎる曲など、制限を超えて編集しようとしている。	●制限範囲内で編集する。	
？ の点滅	●"編集を実行してもよろしいですか"という確認のためのメッセージ。	●ENTERキーを押すと、編集が実行されます。	
PROTECTED	●ミニディスクが"**録音禁止**"されている。	●"**録音可能**"にする。	→75
UNRECORDABLE	●再生専用のミニディスクである。	●録音用ミニディスクを入れる。	→76

*1　すべてのミニディスクには音声信号以外にTOC（Table of Contents）という情報が記録されています。
TOCとは本の目次に相当し、曲数や演奏時間、文字情報などのうち、書き直すことのできないものが入っています。

*2　TOC以外に録音用ミニディスクに特有な情報をUTOCと呼びます。
このUTOCには、曲数や演奏時間、文字情報のうち、書き直し可能な情報が入っています。

MDレコーダー部のメモリーバックアップについて

電源オフ（スタンバイ）あるいは、電源コンセントからプラグを抜いた状態でのメモリーの記憶時間は、約1日間です。長時間の停電や電源プラグ抜けなどによって、録音や編集に関する情報（ミニディスク取り出し時に記録される）がミニディスクに記録される前に消滅、または破壊されることがあります。また、消えてしまった情報は回復できません。
録音、編集後には、録音、編集の情報を記録するために、必ずミニディスクを取り出してください。

CDプレーヤー部

症　状	原　因	処　置	参照
ディスクを入れても再生できない。	●ディスクが裏返しに入っている。 ●ディスクがずれている。 ●ディスクがひどく汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●光学レンズに露がついている。	●ラベル面を上にして、正しく入れる。 ●ディスクを正しく入れ直す。 ●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。 ●"露付きにご注意"を参照し、露を蒸発させる。	→75 →74
音声が出ない。	●ディスクが入っていない。 ●再生状態になっていない。 ●ディスクがひどく汚れている。 ●ディスクに傷がついている。	●ディスクを入れる。 ●再生(▶/❙❙)キーを押す。 ●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。	→22 →22 →75
音とびがする。	●ディスクが汚れている。 ●ディスクに傷がついている。 ●本機に震動が加わっている。	●"ディスク取扱上のご注意"を参照し、ディスクを清掃する。 ●ディスクを取り換える。 ●震動のない場所に設置する。	→75
OPEN/CLOSEキーを押しても、またトレイが開いてしまう。	●8cmディスク(CDシングル)をトレイの溝からずれたまま、トレイを閉めようとしている。	●ディスクをトレイの溝の位置に正しく置き、OPEN/CLOSEキーを押してからディスクインジケーターの点灯を確認し、DISC1～DISC6(ディスクセレクター)キーを押すと再生します。	→22

リモコン部

症　状	原　因	処　置	参照
リモコンで操作できない。	●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●再生しようとする機器に、CD、MDが入っていない。	●新しい電池に入れ換える。 ●操作範囲内で操作する。 ●再生しようとする機器にCD、MDを入れる。	→19 →19

定格

チューナー・イコライザー部(C-H7)／アンプ部(A-H5)

[アンプ部]

実用最大出力 .... 80W+80W(EIAJ 6Ω)
全高調波歪率 .... 0.09%(1 kHz、30W、6Ω)
SN比(EIAJ)
　AUX、TAPE .... 90 dB
　(SOURCE DIRECTオン時)
入力感度／インピーダンス
　AUX、TAPE 200mV/47kΩ
　(SOURCE DIRECTオン時)
　MIC 1、2 .... 1.6mV/600Ω
出力レベル／インピーダンス
　TAPE 200mV/2.2kΩ
　オムニプリアウト 2V/2.2kΩ
　スーパーウーファープリアウト 2V/2.2kΩ
　(SOURCE DIRECTオン時)

[FMチューナー部]

受信周波数範囲 .... 76MHz～90MHz

[AMチューナー部]

受信周波数範囲 .... 531kHz～1,602kHz

[その他(C-H7)]

最大外形寸法 .... 幅 270mm
高さ 119mm
奥行 330mm
質量(重量) .... 2.1kg(正味)

[電源部・その他(A-H5)]

電源電圧・電源周波数 .... AC100 V, 50 Hz/60 Hz
定格消費電力(電気用品取締法に基づく表示) 120W
最大外形寸法 .... 幅 270mm
高さ 99mm
奥行 343mm
質量(重量) .... 4.6kg(正味)

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

CDプレーヤー部 (DP-MH5)

D/Aコンバージョン 1ビット
オーバーサンプリング 8fs (352.8kHz)
周波数特性 (EIAJ) .... 8Hz〜20kHz、±1dB
SN比 (EIAJ) 96dB以上
ダイナミックレンジ (EIAJ) 90dB以上
総合歪率 0.008%以下
チャンネルセパレーション (1kHz) 90dB以上
ワウ・フラッター (EIAJ) .... 測定限界以下
デジタル出力
　OPTICAL .... −21dBm〜−15dBm (発光長660nm)

最大外形寸法 .... 幅　270mm
高さ　99mm
奥行 326mm
質量 (重量) .... 3.4kg (正味)

MDレコーダー部 (DM-H5)

読み取り方式 .... 非接触光学式読み取り (半導体レーザー)
記録方式 .... 磁界変調オーバーライト方式
音声圧縮方式
.... A.T.R.A.C. (Adaptive TRansform Acoustic Coding)
D/Aコンバージョン 1ビット
オーバーサンプリング .... 128fs (6144kHz、5644.8kHz、4096kHz)
A/Dコンバーター .... ΔΣ方式
サンプリング周波数 .... 48kHz、44.1kHz、32kHz
周波数特性 (EIAJ) .... 20Hz〜20kHz、±1dB (再生時)
SN比 (EIAJ) .... 92dB以上 (再生時)
ダイナミックレンジ (EIAJ) .... 90dB以上 (再生時)
総合歪率 (EIAJ) .... 0.01%以下 (再生時)
チャンネルセパレーション (1kHz) .... 86dB以上 (再生時)
ワウ・フラッター (EIAJ) .... 測定限界以下
デジタル入力
　OPTICAL1、2 .... −21dBm〜−15dBm (発光長660nm)

最大外形寸法 .... 幅　270mm
高さ 119mm
奥行 327mm
質量 (重量) .... 2.5kg (正味)

スピーカー部 (LS-H7)

エンクロージャー .... バスレフ防磁型
スピーカー構成
　メインスピーカー
　　ウーファー .... 160mm コーン型
　　ツイーター .... 65mm コーン型
　　スーパーツイーター .... 25mm ドーム型
インピーダンス 6Ω
周波数帯域 .... 45Hz〜20,000Hz
最大入力 80W
最大外形寸法 .... 幅　200mm
高さ 400mm
奥行 293mm
質量 (重量) .... 5.7kg (正味)

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
●極端に寒い (水が凍るような) 場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保証について

保証書

製品には保証書が別途添付されています。所定事項（お買い上げ日、販売店名など）が記載されていること、ならびに記載の内容を必ずご確認のうえ、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

シリアル番号について

システム商品の各機器に製造シリアル番号がつけられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理をご依頼になるときは

「故障と思われる症状ですが…」を参照してお調べいただき、なお異常があるときは、製品の電源をオフにし、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご連絡ください。
（別紙“全国サービス網”をご参照ください。）

持込修理と出張修理

「持込修理」，「出張修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。

- 修理のために、セットを販売店やケンウッドのサービスステーション、営業所までお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。（スピーカーは除きます）
- セットを修理に持ち込まれる際は、輸送中にキズが付くのを防ぐため、必ず包装してください。
  （お買い上げ時の梱包材の再使用が理想的です。）

保証期間内の場合は...

保証書の記載内容に従い、お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所が無料修理いたします。修理の際は保証書をご提示ください。

- 電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎている場合は...

お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご相談ください。修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理します。

- 補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
- この期間は、通産省の指導によるものです。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理料金のしくみ（有料修理の場合、これらの費用が必要です。）

- 技術料：　故障した製品を正常に修復するための料金です。
  技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：　修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
  別途、駐車料金をいただく場合があります。

出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（SERIAL No.）
- お買い上げ年月日
- お買い上げの販売店名
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- お客様の連絡先（お名前、住所、電話番号）

KENWOOD

株式会社ケンウッド

〒150　東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

- 商品および、商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
  お客様相談室　（東京）　電話　(03) 3477-5335　〒153 東京都目黒区青葉台 3-17-9（ケンウッド青葉台ビル）
  （大阪）　電話　(06)　357-5335　〒534 大阪市都島区東野田町 1-20-5（大阪京橋第一生命ビル）
- アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、各営業所にご相談ください。